

## 付 属 資 料

1. 協議議事録
2. 収集資料リスト



1. 協議議事録

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月11日(木) 8時30分～9時30分  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Ministry of Industry and Trade 他  |
| 4. 先方対応者 | Ms. Cerina Banú I. Mussá, National Director, Directorate of International Relations<br>Ms. Nilsa Miquidade, Deputy National Director, National Directorate for Industry<br>Mr. Arnaldo Z. Chemane, Chief of Section Markets, National Directorate of Trade<br>Ms. Julieta Domingas Puehime, Private Sector Unit<br><br>Mr. Geraldo Luísa Albasini, Head of Metrology Department, National Institute of Standardization and Quality (INNOQ)<br>Mr. José Fernando Jossias, Managing Director, Mozambique Institute of Export Promotion (IPEX)<br><br>他3名  |
| 5. 当方出席者 | 青木、今井、スエナガ(通訳)、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;産業・貿易に関する政策・戦略&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農産物の育成戦略(2006-2009)が策定されている。産業全体の戦略に関しては、98年のものがあつたのみであったが、今年8月に新しいものが承認されたばかりであり今月末にはポルトガル語版が配布できる見込みである。その他にSME政策も現在出来たばかりである。</li> <li>戦略的産業は:①食品加工(果物、野菜、カシューナッツ等換金作物の加工)、②家具材の近代化(モザンビーク国内には活用できる木材が多いため)、③建設用資材(現在は輸入に頼っており、輸入代替を図りたい)、④工業廃棄物の再利用(例えば、Mozalでは大量のアルミが捨てられているので、金属類の再利用等)、⑤(最重要ではないが)繊維・衣料品加工等(モザンビークでは綿が生産できるため)。</li> </ul> <p>&lt;中小企業振興&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業振興に関しては、SMEのための機関の設立が必要と考えている。例えば、現在はSMEのための基金がバラバラな状態であるが、それを一つにまとめたい。まずは産業貿易省内のものは纏める計画である。また、中小企業育成のためのインキューバーターの設立も考えたい。これらには協力が必要である。</li> <li>海外からの直接投資事業と地場産業・SMEのリンクも重要であるが、これは投資促進センター(CPI)が管轄。</li> <li>以前JICAに穀物(トウモロコシ、麦等)の保存施設の建設を要請している(穀類は主に国内消費用)。</li> </ul> <p>(この後、先方の時間的制約のため面談中断、分野別に個別面談を実施することで合意)</p> |
| 7. 収集資料  | <ul style="list-style-type: none"> <li>農産物育成戦略: Estratégia da Comercialização Agrícola para 2006-2009</li> <li>Trade Policy and Strategy, MICT, April 1999</li> </ul>   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月12日(金) 11時～12時15分  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Confederation of Business Associations of Mozambique (CTA)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jim Lafleur, Senior Economic Adviser, Research & Economic Analysis Unit<br>Mr. Nelson Jeque, Adviser   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>63の産業団体から構成されており、20地域以上をカバーする。</li> </ul> <p>&lt;ベイラ回廊&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジンバブウェの政治・経済情勢が問題となっている。</li> <li>砂糖、石炭が有望産業である。砂糖に関しては主に2つの会社があり、急成長している。石炭に関してはテテ州で、ブラジル Companhia Vale do Rio Doce (CVRD)社が開発調査を実施し、今後多額の投資が期待されている。その他に、鉄、貴石、アグリビジネス(マニカ州)にも可能性がある。</li> <li>ベイラ港のキャパシティが足りず、インフラの向上が必要。メンテナンスが不十分。また、トラ</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
|  | <p>クター、フォークリフトが足りず、例えばマラウィからの肥料が輸出できない事態が起きている。</p> <p>&lt;ナカラ回廊&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民営化された鉄道があり、ダルエスサラームを通過してアンゴラ側にも通じるようにする計画がある。</li> <li>・ 周辺地域の有望産業は、バナナ、カシューナッツ等アグリビジネスである。バナナに関しては、Chiquitta 社（オーストリア）が投資をする見込みである。現在、ナカラ地域全体でも生産している農家は 10 もない状態だが、今後は地元の小規模農家が急増するであろう。カシューナッツは、現在 10～12 のパイヤーが生でインドに輸出している（インドで加工している）。生産量は 20,000 トンである。その他に国内で加工もされている（北アフリカ、NGO 出身者、及びモザンビーク人などが経営）。</li> <li>・ 雇用効果としては、カシューナッツでは 200,000 農家、タバコ関連では 100,000 農家、カシューナッツの加工業では 6,000～7,000 家族の雇用が創出されている。</li> <li>・ 政治的な理由（大統領が北部出身（生まれ）のため支持者が多い）で北部のニアサ州にも道路等のインフラ事業が多い。</li> <li>・ 品質基準に関することは政府レベルでは関与していない（Lafleur 氏によると、これは国際的競争によって管理されているので問題ないとのこと）。</li> <li>・ 米ミレニアム開発公社（MCC）は、道路及び水・衛生に対する多額の支援を開始した。CTA は MCC に対して①ナッツ、②観光、③園芸作物、④林業を戦略産業とし、既存企業に対するビジネス・サポート（研修、キャパシティビルディング等）、起業家に対する技術支援、融資保証を通じた支援を提案したが認可されなかった。その理由としては、MCC にこれらの支援を実施するキャパシティがなかったと思われること、また、インフラ整備のほうが、管理が容易であることなどが考えられる。</li> </ul> <p>&lt;マプト回廊&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ボーダーポストでの問題が多い。ヨハネスブルグからは、ダーバン港よりもマプト港のほうが近いが、マプト港に比較優位がないためヨハネスブルグからの貨物は殆どダーバンに向かっている。</li> <li>・ 世銀/IFC の Doing Business によると、マプト港での荷おろしから倉庫に入れるまでの時間は 28 日間かかることとされている。</li> <li>・ 課題としては、次のようなものがある。       <ol style="list-style-type: none"> <li>（1） 貨物をチェックするスキャナーがマプト港で導入されたが、企業側負担になっており高価であるという苦情が非常に多い。</li> <li>（2） SADC 内で必要書類が統一されていないため、南アとモザンビーク間では書類を 2 種類準備する必要がある。</li> <li>（3） 関税、手数料の電子決済が出来ない。</li> </ol> </li> <li>・ 本来、貨物は道路よりも鉄道を使うべきだが、鉄道が未発達であるため問題が多い。</li> </ul> <p>&lt;アグリビジネス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マンゴー及びパイナップルに可能性があるが、国際的にポピュラーな品種を作っていないのが問題である。例えば、モザンビークはケニアよりも気候がよく果実・園芸作物の生産に向いているが、殆ど輸出されていない。かんきつ類、ベビーコーン等高付加価値野菜・果実をもっと生産できるはずと考えている。</li> <li>・ 問題の1つとして、土地所有権が挙げられる。モザンビークでは、土地は国有であり 50 年間、国から「借りる」ことが出来る。延長申請をすることも出来るが、権利譲渡には、国の許可を必要とするため（却下されることもある）、大手銀行は土地を担保とした農業ローンを組ませてくれない（Standard Bank では、南ア側では農家に対するローンがいくつもあるが、モザンビーク側では同じ人がローンを組めない）。そのため、資金調達が出来ず農業を拡大できないという実態がある。</li> <li>・ GAPI 銀行は、商社（Trading Company）に対して貸出し、商社が小作農家に対して資金を貸すという制度を採っている。</li> <li>・ 一般に、このような土地に関する問題によってミドルクラスの農家が育たない仕組みになっていることが問題である。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークにおける製造業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国からの模造品が問題となっており、国内製造業の成長を阻害している（家庭用品で</li> </ul> |
|--|---|

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>は、Unilever の工場があるが、中国からの製品に大打撃を受けているとのこと)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 税金制度が複雑である。企業は年間 35 種類の税金を納めなくてはならない。</li> </ul> <p>&lt;モザンビーク経済成長の要因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もととのベースが低いという点も指摘できる。モザンビーク経済は内戦等で破壊されていたのでゼロから始まっている。しかし、今後このスピードの成長が続けられるかは不透明である。</li> <li>・ タバコ、砂糖等の一部の農業は近代社会にキャッチアップしているとともに発展も遂げている。また、サービス業は約 45%を占め、観光業、通信、輸送、製造業関連サービス等が成長している。例えば、観光に関しては、南ア人の入国に際して、ビザが不要となったため、観光客が 33%伸びたというデータもある。</li> <li>・ ドナー活動の経済に与える影響は大きい。援助資金はモザンビーク経済の 18%、年間 72 億ドルに上るといわれる。</li> <li>・ 経済の最大の問題は政府規制である。ビジネス手続きは 1,000 にものぼり、全ての活動に対してビジネス・ライセンスが必要である。</li> <li>・ 最近、産業貿易省が中小企業促進を進めており、韓国が戦略等を調査したレポートがある。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |   |

| 1. 日時       | 2007 年 10 月 12 日(金) 12 時 30 分～14 時   |                |         |        |                |             |                |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
|-------------|--|----------------|---------|--------|----------------|-------------|----------------|--|--------|--------|--------|-------------|-----|-----|-----|-------------|----|----|-----|----|--------|--|--|--------|--|--------|--|----|----------------|---------|----|----------------|----|----------------|---|-------|------|----|-------|------|-------|------|---|--------|------|---|----|------|----|------|---|----|------|----|--------|-----|-----|------|---|--------|------|---|-------|-----|-------|-----|---|-------|-----|----|--------|-----|-------------|-----|---|------|-----|---|----|-----|------|-----|---|----|-----|---|--------|-----|--------|-----|---|-----|-----|---|------|-----|--------|-----|---|--------|-----|---|----|-----|-----|-----|----|-----|-----|---|------|-----|-------|-----|
| 2. 場所       | マプト市内  |                |         |        |                |             |                |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 3. 機関名      | Centro de Promoção de Investimentos (Investment Promotion Centre)(CPI)   |                |         |        |                |             |                |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 4. 先方対応者    | Mr. António Luís Macamo, Head of Linkages Division<br>Ms. Odete Graça Semião, Veterinary   |                |         |        |                |             |                |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 5. 当方出席者    | 今井(記録) Joaquim(通訳)(敬称略)  |                |         |        |                |             |                |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 6. 面談内容     | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CPI は、計画・開発省の管轄下であり、海外及び国内の直接投資をする際のワンストップ・ショップの役割を担っている。</li> <li>・ 関係省庁との調整等も一切引き受けており、最短では 2 日で投資が承認されたことがある。</li> <li>・ 最低投資額は海外直接投資(FDI)に関しては 50,000 米ドル、国内直接投資に関しては 5,000 米ドルとなっている。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークに対する投資&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海外直接投資(FDI)、国内直接投資(NDI)の割合</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>2004 年</th> <th>2005 年</th> <th>2006 年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FDI (百万米ドル)</td> <td>124</td> <td>164</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>NDI (百万米ドル)</td> <td>45</td> <td>35</td> <td>113</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FDI の出身国</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">順位</th> <th colspan="3">2006 年</th> <th colspan="2">2005 年</th> <th colspan="2">2004 年</th> </tr> <tr> <th>国名</th> <th>投資額<br/>(百万米ドル)</th> <th>プロジェクト数</th> <th>国名</th> <th>投資額<br/>(百万米ドル)</th> <th>国名</th> <th>投資額<br/>(百万米ドル)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>南アフリカ</td> <td>56.8</td> <td>65</td> <td>南アフリカ</td> <td>93.7</td> <td>南アフリカ</td> <td>58.5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>モーリシャス</td> <td>45.0</td> <td>6</td> <td>英国</td> <td>27.8</td> <td>英国</td> <td>13.5</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>英国</td> <td>21.2</td> <td>13</td> <td>ジンバブウェ</td> <td>9.1</td> <td>インド</td> <td>10.2</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>アイルランド</td> <td>10.0</td> <td>1</td> <td>ポルトガル</td> <td>7.3</td> <td>ポルトガル</td> <td>6.4</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ポルトガル</td> <td>5.8</td> <td>14</td> <td>スウェーデン</td> <td>6.0</td> <td>セルビア&amp;モンテネグロ</td> <td>5.0</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>マラウイ</td> <td>4.5</td> <td>2</td> <td>中国</td> <td>5.6</td> <td>マラウイ</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>米国</td> <td>2.6</td> <td>3</td> <td>モーリシャス</td> <td>3.4</td> <td>ジンバブウェ</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>インド</td> <td>2.3</td> <td>3</td> <td>ルアンダ</td> <td>2.4</td> <td>モーリシャス</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ジンバブウェ</td> <td>1.8</td> <td>7</td> <td>米国</td> <td>1.5</td> <td>スイス</td> <td>2.5</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ドイツ</td> <td>1.7</td> <td>6</td> <td>オランダ</td> <td>1.3</td> <td>タンザニア</td> <td>2.2</td> </tr> </tbody> </table> |                |         |        |                |             |                |  | 2004 年 | 2005 年 | 2006 年 | FDI (百万米ドル) | 124 | 164 | 162 | NDI (百万米ドル) | 45 | 35 | 113 | 順位 | 2006 年 |  |  | 2005 年 |  | 2004 年 |  | 国名 | 投資額<br>(百万米ドル) | プロジェクト数 | 国名 | 投資額<br>(百万米ドル) | 国名 | 投資額<br>(百万米ドル) | 1 | 南アフリカ | 56.8 | 65 | 南アフリカ | 93.7 | 南アフリカ | 58.5 | 2 | モーリシャス | 45.0 | 6 | 英国 | 27.8 | 英国 | 13.5 | 3 | 英国 | 21.2 | 13 | ジンバブウェ | 9.1 | インド | 10.2 | 4 | アイルランド | 10.0 | 1 | ポルトガル | 7.3 | ポルトガル | 6.4 | 5 | ポルトガル | 5.8 | 14 | スウェーデン | 6.0 | セルビア&モンテネグロ | 5.0 | 6 | マラウイ | 4.5 | 2 | 中国 | 5.6 | マラウイ | 4.8 | 7 | 米国 | 2.6 | 3 | モーリシャス | 3.4 | ジンバブウェ | 4.7 | 8 | インド | 2.3 | 3 | ルアンダ | 2.4 | モーリシャス | 2.8 | 9 | ジンバブウェ | 1.8 | 7 | 米国 | 1.5 | スイス | 2.5 | 10 | ドイツ | 1.7 | 6 | オランダ | 1.3 | タンザニア | 2.2 |
|             | 2004 年   | 2005 年         | 2006 年  |        |                |             |                |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| FDI (百万米ドル) | 124  | 164            | 162     |        |                |             |                |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| NDI (百万米ドル) | 45   | 35             | 113     |        |                |             |                |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 順位          | 2006 年   |                |         | 2005 年 |                | 2004 年      |                |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
|             | 国名   | 投資額<br>(百万米ドル) | プロジェクト数 | 国名     | 投資額<br>(百万米ドル) | 国名          | 投資額<br>(百万米ドル) |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 1           | 南アフリカ  | 56.8           | 65      | 南アフリカ  | 93.7           | 南アフリカ       | 58.5           |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 2           | モーリシャス   | 45.0           | 6       | 英国     | 27.8           | 英国          | 13.5           |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 3           | 英国   | 21.2           | 13      | ジンバブウェ | 9.1            | インド         | 10.2           |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 4           | アイルランド   | 10.0           | 1       | ポルトガル  | 7.3            | ポルトガル       | 6.4            |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 5           | ポルトガル  | 5.8            | 14      | スウェーデン | 6.0            | セルビア&モンテネグロ | 5.0            |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 6           | マラウイ   | 4.5            | 2       | 中国     | 5.6            | マラウイ        | 4.8            |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 7           | 米国   | 2.6            | 3       | モーリシャス | 3.4            | ジンバブウェ      | 4.7            |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 8           | インド  | 2.3            | 3       | ルアンダ   | 2.4            | モーリシャス      | 2.8            |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 9           | ジンバブウェ   | 1.8            | 7       | 米国     | 1.5            | スイス         | 2.5            |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |
| 10          | ドイツ  | 1.7            | 6       | オランダ   | 1.3            | タンザニア       | 2.2            |  |        |        |        |             |     |     |     |             |    |    |     |    |        |  |  |        |  |        |  |    |                |         |    |                |    |                |   |       |      |    |       |      |       |      |   |        |      |   |    |      |    |      |   |    |      |    |        |     |     |      |   |        |      |   |       |     |       |     |   |       |     |    |        |     |             |     |   |      |     |   |    |     |      |     |   |    |     |   |        |     |        |     |   |     |     |   |      |     |        |     |   |        |     |   |    |     |     |     |    |     |     |   |      |     |       |     |

・セクター別投資額  
【2006年】

| セクター       | プロジェクト | 雇用者数   | 合計額<br>(百万ドル) | %      |
|------------|--------|--------|---------------|--------|
| 農業・アグリビジネス | 33     | 21,845 | 674.2         | 72.73  |
| 輸送・通信      | 9      | 1,143  | 88.7          | 9.55   |
| 観光業・ホテル    | 68     | 2,183  | 70.0          | 7.55   |
| 工業         | 40     | 3,638  | 39.8          | 4.30   |
| 漁業         | 1      | 100    | 8.1           | 0.87   |
| 建設         | 10     | 372    | 7.3           | 0.79   |
| 銀行・金融      | 2      | 66     | 2.9           | 0.31   |
| 鉱業・エネルギー   | 1      | 16     | 1.0           | 0.11   |
| その他        | 19     | 8,480  | 35.0          | 3.78   |
| 合計         | 183    | 37,843 | 927.1         | 100.00 |

【2004年】

| セクター       | 合計額(百万ドル) |
|------------|-----------|
| 輸送・通信      | 167.8     |
| 観光業・ホテル    | 124.8     |
| 農業・アグリビジネス | 107.6     |
| 工業         | 43.6      |
| 漁業         | 25.1      |
| 鉱物資源       | 6.7       |
| 建設・公共事業    | 5.6       |
| 金融・保険      | -         |
| その他        | 31.2      |

・地域別投資

| 州            | プロジェクト数 | 雇用者数   | 合計額<br>(百万米ドル) | %      |
|--------------|---------|--------|----------------|--------|
| Cabo Delgado | 5       | 199    | 6.45           | 0.70   |
| Niassa       |         |        |                |        |
| Nampula      | 12      | 5,451  | 29.1           | 3.14   |
| Zambézia     | 8       | 7,850  | 95.6           | 10.31  |
| Tete         | 10      | 685    | 17.8           | 1.92   |
| Manica       | 8       | 480    | 7.4            | 0.79   |
| Sofala       | 15      | 1,205  | 33.1           | 3.57   |
| Inhambane    | 44      | 1,479  | 29.1           | 3.14   |
| Gaza         | 17      | 7,938  | 534.8          | 57.69  |
| Maputo(市&州)  | 64      | 12,556 | 173.8          | 18.75  |
| 合計           | 183     | 37,843 | 927.1          | 100.00 |

<投資環境>

- ・ 政府は投資環境改善に関して深刻に取り組んでいる。新しい労働法が2005年に承認され、それに伴う規程もできた。同法においては、雇用・解雇を容易にする(手続きの簡素化等)、外国人従業員を10%まで認める等が新たに規定された。また、ライセンスの改善(零細・小企業に対しては営業許可証の免除、地方でもライセンスの申請を実施、手続きの簡素化)を行なっている。
- ・ 中小企業開発戦略では、FDIと中小企業とのリンクに対する協調を推進している(ドナー協調に関する言及あり)。
- ・ 人材育成に関しては、教育は一般にポルトガル方式であるため、投資家にとって戸惑うこともある。しかし、教育レベルに対して投資家からの不満はあまり聞かない(一般に適応能力に優れていると考えられている)。また、政府も技術教育、大学等の民営化を進めており、National Strategy for Technical & Vocational Education 戦略がある。

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在でも MOZAL や Sasol が GDP の 70%を占めており、問題視している。</li> </ul> <p>&lt;CSR について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接投資をする際に CSR 事業を必須とする法律を作ろうとしたが、失敗した。むしろ、規制するのではなく、FDI の交渉段階で CSR も織り込まれている。</li> <li>・ 国内投資に関しても、TDM (Telecom Mozambique)、mCel (携帯電話会社) 等大企業では CSR を実施する例がある。</li> </ul> <p>&lt;有望産業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マプト回廊ではサービス及び産業が中心である。ナカラ回廊では農業・アグリビジネス、産業、鉱業等が考えられる。</li> <li>・ モザンビークの主な輸出先は南ア、オランダ、ジンバブウェ、マラウイ、米国、中国(木材、海鮮物等)、スペイン、インド(木材)、ポルトガル、フランス、日本である。</li> </ul> <p>&lt;マプト回廊&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関税、入国管理で手続きが多く、時間がかかるのが問題となっている。貨物量が増加していることも原因となっている。南アとモザンビーク間の国境検問所の営業時間をこれまでの 6 時-18 時から 6 時-24 時まで延長して営業しており、今後 24 時間営業体制にする予定となっている。関税手続きに関しては、南アとモザンビーク間を統一する必要がある。</li> <li>・ また、マプト港においてスキャナーが導入されたものの、企業側コストとなっているという問題が聞かれるが、鉄道の貨物に関しては割引することも検討されている。道路の場合は、南アフリカとの国境から運ばれるまでに中身を替えられるが、鉄道はノンストップで来るので荷のすり替えの恐れはない。またトラックの混雑を緩和させるため、鉄道利用を促進させるべきである。</li> <li>・ 輸入貨物のチェックを行なうスキャナーの導入(コストは業者負担)によって、マプト港の成長率は多少鈍化した。マプト港における貨物の取扱の増加率: 2005 年は 20%、2006 年は 16%、2007 年は 13%(見込み)である。</li> <li>・ マプト港における取扱量の増加は、従来のダーバンからの貨物を奪ったものもあるが、むしろ新規の事業のほうが多い。例えば、スワジランドからの砂糖輸出などである。</li> <li>・ 港は、Maputo Corridor Logistics Initiative (MCLI) が管理している。地域における有望産業、ビジネス拡大の可能性当を見つけないと考えているが、資金の制約で調査が実施できない。</li> <li>・ インフラに関しては、マプト-南ア国境を結ぶ道路は 2 車線か 3 車線である。内陸港を作る提案もある。国境における貨物の通関手続きはいつも混雑している。</li> </ul> <p>&lt;ナカラ回廊&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北部を経済開発区域 (Special Economic Zone) にする計画がある(制定法が承認されており、計画・開発省が管轄)。とりあえずは、ナカラ市近くにパイロット・プロジェクトを実施する。その後、ナカラ市だけではなく広域の開発をする計画である。観光及び産業の両方を扱う。</li> <li>・ 産業戦略は現在調査中であるので、はっきりとは分からないがナンプラのあたりは林業とタバコが含まれるだろう。セメント業もありえる。</li> <li>・ 阻害要因としては、水(侵食)、電気、鉄道等、インフラの問題が挙げられる。</li> <li>・ ナカラ港は民営化されている(一時は米国が入っていたが、今はモザンビーク企業が運営)。</li> <li>・ 鉄道も民営化されていたが、運営が悪いため、再国営化が検討されているらしい。</li> <li>・ 現在の投資事業は Moma Heavy Sands、セメント事業、カシューナッツ加工、Sasol 等がある。</li> <li>・ ナンプラには 2~3 大学があるが、人材確保が難しい。HIV・エイズは北の方ほど感染率は低い。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークにおける日本企業の投資(関心を示している企業)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 王子製紙、双日(木材、石炭)、明治デリカ(ゆでた蛤等)、Trans Fisheries (マグロ漁)、住友商事(蚊帳、ガス・石油等?)、アドバンテック(バイオ燃料)がある。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CPI パンフレット「Facts about Mozambique」(コピー)</li> <li>・ 2006 年投資に関するレポート(抜粋コピー)</li> </ul>  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月15日(月) 11時～12時30分  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | TechnoServe Inc.   |
| 4. 先方対応者 | Mr. John Kingman Walter, Director  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織・活動概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国のNGOであり、取締役は(アメリカを中心として、一部ラテンアメリカ、アフリカ等の)大手企業のトップ(現役)である。モザンビークでの活動は10年程度の実績である。</li> <li>・技術支援を通じた起業事業の支援、ビジネス支援を行ない、「成長の可能性」を見ている。特に、利益率ではなく、収入の成長率や、給与・投入財の伸びを考える(Pro-poorでなければいけないため)。そうした観点に発せば、例えば、MOZALのような企業はGDPに対する影響は大きい雇用創出にはあまり役立っていないと言える。</li> <li>・McKinseyやBaines等のコンサルタントの奉仕活動として、どこにビジネスの可能性があるのか、ビジネス環境の阻害要因等は何かを調査してもらっている。その上で、今後その産業の発展のモデルとなりそうな企業に支援をする。</li> <li>・支援先としては、モザンビーク企業には限らず、雇用効果等を通してより貧困削減にインパクトがある企業を選ぶ。また、SMEとのリンクも産業によっては考えている(例えば、養鶏・加工はスケールメリットがあり、多国籍企業が実施するのに向いている。一方、カシューナッツはスケールメリットがないので大企業の必要はない。</li> </ul> <p>&lt;ナカラ回廊周辺の産業ポテンシャル&gt;</p> <p>(1)林業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・FAOが最近作成した林業のポテンシャルに関するレポートは有用である。調査結果によると、現在80億米ドル規模を有する南アの4倍のポテンシャルがある。ナンブラ州だけでも現在の南ア規模になりえると考えられている。</li> <li>・マニカ、ナンブラ、ニアサ、ザンベジア州等に可能性があり、既にナンブラには1社、ニアサでは2社(120ヘクタール)、マニカには古くから1社の投資がある。主に外資でありスウェーデン、オーストリア等の企業である。</li> <li>・現在は地域の全雇用者数(全産業合計)は約300,000人であるが、林業だけで300,000人の雇用が今後見込まれている。</li> <li>・最大の問題は、土地借用等の承認プロセスといえるが、今後、地方分権が進めば、もう少し承認プロセスが簡単になると考える。</li> </ul> <p>(2)カシューナッツ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7年前には殆ど産業として成り立っていなかったことを考えると、飛躍的に成長している産業である。</li> <li>・カシューナッツ産業には、農園を管理するマネージャーを除いては規模の経済は存在しないので、1,000トン程度規模の工場で成り立つ。現在は、2,500トン程度規模の工場が約20社存在する。</li> <li>・最大の問題は労働力の供給である。現在カシューナッツ産業は国際的な競争によって、インド、ベトナム等の賃金と同レベルに設定せざるを得ない(月40～50ドル)が、国の最低賃金は月60ドル程度であるため、雇用が不安定である。パートタイムの労働者や、水・衛生の完備、作業着等を提供することなどで職場環境を向上することで補っている。今後産業ごとの最低賃金を作るようとする提案がなされている。</li> <li>・現在、カシューナッツ工場(加工はせず、精練のみ)では約6,000人が雇用されており、その大部分はナカラ回廊沿いに立地している。12,000～20,000人の雇用創出キャパシティがあると見られている。</li> <li>・カシューナッツの世界需要は年間6～8%伸びている。主な成長市場はヨーロッパであり、モザンビークにとってヨーロッパは従来の市場であるため期待できる。主にオランダや南アのロースター企業に売却している。</li> <li>・モザンビークのカシューナッツはベトナムやインドより品質が良いという評判である。政府による品質管理は一切ないが、Techno Serveが関わっている会社はZambiqueという独自の品質保証ブランドを作っており、独自の品質基準に満たない会社はブランドが名乗れないようにしている。</li> </ul> |



|  |   |
|--|---|
|  | <p>(3) トロピカル・フルーツ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストリアの企業 Chiquitta 社がバナナに対する多額の投資をする予定である。8 年間計画で GDP に対するインパクトは 2.25 億ドルと見込まれている。</li> <li>・3,000 ヘクタールで 150,000 トンのバナナが生産される。250 ヘクタールごとに地元の農家と契約する予定である。これにより、3,000 人の直接雇用、6,000 人の間接的な雇用創出効果があると見込まれている。</li> <li>・モザンビークは EBA によってヨーロッパ市場への関税メリットがある。</li> <li>・阻害要因は資金調達(民間銀行からの資金調達が困難)、キャパシティ向上(中管理職の能力向上)であり、研修センターの建設を要請したい。また、冷蔵保存が必要である。バナナを摘んでから 1 週間以内で港から出荷される必要がある。</li> <li>・現在は、主要道路沿いの農家が多いため、インフラの問題はないが、今後の調査では気候、土地等の条件からどこがバナナ生産に一番適しているのかを調べ(一般には、川の周辺の暑く湿気が多いところが適している)、その後そこから主要道路に繋ぐ道路の建設等を考える必要がある。</li> <li>・Chiquitta 社はダム等のインフラも建設する予定であるので灌漑に対する問題はない。</li> </ul> <p>(4) 鶏肉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナカラ地域に現在 2 社あり、300 程度の契約農家がある。</li> <li>・この地方では餌となるメイズがたくさん取れ、価格競争力もある。</li> <li>・基本的には輸入代替(現在国内消費の 3 分の 2 は輸入に頼っており、消費量は 20% の増加率)であるが、アフリカの周辺地域へ輸出する可能性もある。ただし、例えばマラウイは国内保護政策として輸入禁止措置を講じている。</li> </ul> <p>(5) 観光業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在 5 ツ星ホテルはモザンビーク島に一つしかないが、今後増やす可能性はある。</li> </ul> <p>(6) 落花生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南アが競争力を低下させており、モザンビークにとってはチャンスである。例えば、南アの企業がナカラ地域に加工工場を移設した。</li> </ul> <p>(7) 胡麻</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最低 10,000 トンのキャパシティはあり、日本へも輸出されている。</li> <li>・機械ではなく手作業が多いので、小作農家(契約)に向いている。</li> <li>・比較的ドライで暖かい気候が必要であるが、適している地域がある。2-5 月の他の農作物が比較的空いているときを利用できるので季節的に好都合である。現在、綿生産から胡麻に転換している農家が増えている。</li> <li>・スーダン、ナイジェリア、ニカラグア等が競争相手国である。</li> </ul> <p>&lt;ベイラ回廊周辺の産業ポテンシャル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カシューナッツ以外はナカラ回廊と同様である。</li> <li>・オーガニック・バナナに関して同意書(LOI: Letter of Intent)が交わされ、500 トン程度の生産量が見込まれる。ベイラ回廊周辺は気候が涼しいため、虫がつきにくく、オーガニック栽培に適している。</li> <li>・その他にライチ、マンゴー(これは北部でもありえる。マンゴーは栽培に時間がかかるのが難点)、アボカド等が有望である。回廊沿いの気候が多様であり、様々な園芸植物栽培に適している。鶏肉については、マニカ地域で可能性がある。林業、飼料工場、食物加工(オーガニック食品)などに多少の可能性はある。</li> <li>・バイオ燃料については、砂糖キビの栽培に適しているため、エタノール生産が可能であるが、持続性が課題である。環境面の配慮といった持続可能性がバイオ燃料の分野では特に問われている。</li> <li>・周辺地域は、従来からココナッツの産地であるが、近年生産は低下している。今後世界的に繊維としても使われることが見込まれていることから、ココナッツ・オイルがパーム・オイルとの比較で価格競争力を増すと見られている。ココナッツ栽培に対して米国からの支援がある。ココナッツの主要産地はベイラ回廊とナカラ回廊の中間地域にある。</li> </ul> <p>&lt;マプト回廊&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主に輸送回廊としての役割が大きい。距離的にダーバンよりもマプトのほうがヨハネスブルグへ近いのだから、ダーバンにあるヨハネス向けビジネスをメインとする企業は全てマプトをベースとするべき。モザンビーク政府はもう少し投資促進をするべきである。</li> </ul> |
|--|---|

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺地域の産業は軽工業が主である。アグリビジネスは、バナナ、柑橘類等のニッチ市場が中心である。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークの投資環境&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モザンビークはアフリカを代表する投資場所となりえるが、労働法が問題となっている。例えば、企業における外国人は10%までしか認めていない一方で、外交官・NGOは労働法の適用が免除され、外国人の雇用に対する規制がないばかりか税制面で優遇されるのは問題である。投資を誘致するには、外国企業に対する規制を緩和するべき。ビザの問題もある。経済インフラの点では、飛行場の改善も必要である。</li> <li>・ 人材に関しては、言葉(英語)は問題かも知れないが、一般にモザンビーク人は色々なことに「訓練可能」と企業も認識しており、一番の問題は労働法である。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 | ・Techno Serve Annual Report 2006  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月15日(月) 13時～ 14時  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | 農業省 灌漑局  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Aurelio Anotonio Nhabetse, Head of department, Civil Engineer  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;灌漑の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モザンビークには、灌漑可能な農地が300万ヘクタールある。そのうち、灌漑施設があるのは、12万ヘクタールの4%のみである。また、12万ヘクタールのうち、現在稼働中なのは、4.5万ヘクタール、他の7.5万ヘクタールは、施設が壊れていたりして、使用するにはリハビリが必要である。内戦により破壊されたものや、建設後30年近く経過しているものも多く、老朽化している。</li> <li>・ マプト、ソファアラ、イニヤンバネ州で灌漑農地が多い。75%の灌漑農地、約10万ヘクタールが上の3州に集中している。</li> <li>・ 灌漑農地では、サトウキビ、野菜、タバコ、お茶などが主要作物である。タバコ、お茶などは、商業ベースの経営による灌漑が行なわれている。</li> <li>・ 灌漑使用料は、1立方メートルあたり4MTを徴収している。</li> </ul> <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 灌漑局として独自の予算は極めてわずかである。マプト、ソファアラ、ザンベジア州では、アフリカ開発銀行による灌漑プロジェクトへのサポートがある。また、マプト、マニカ、ソファアラ州では、農業総合開発の形で灌漑コンポーネントが入っている。</li> <li>・ 灌漑局としての今の主な仕事は、施設のモニタリング、プロジェクトのコーディネイトなどである。</li> </ul> <p>&lt;ナカラ地域&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナカラ回廊沿いでは、灌漑農地は極めて少ない。</li> <li>・ 北部では、キャツサバの作付けが多いが、これは、灌漑がなくても育つためである。</li> <li>・ 北部では地図上は沢山の河川があるが、季節により水があるときと無い時がある。このため、水が貯められるようにため池などの施設も考えている。また、ザンベジアには灌漑可能な地域が非常に多い。</li> </ul> <p>&lt;灌漑システム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地下水の灌漑利用は、ごく一部で行なわれている。特に南部は塩害があるので注意が必要である。</li> <li>・ その他、開水路による重力の灌漑、スプリンクラー灌漑やセントラルピポットを使ったシステムもある。また、シヨクエ地方(ガザ州)では、メインキャナル14kmの灌漑リハビリのプロジェクトが20百万ドル予算で実施中である。</li> </ul> <p>(その他、カシューナッツ研究所のアポをとってもらう。)</p> |
| 7. 収集資料  | 州別の灌漑農地面積  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月15日(月) 14時～14時30分  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | National Institute of Standardization and Quality (INNOQ)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Alfredo Filipe Siteo, Director<br>Mr. Geraldo Luisa Albasini, Head of Metrology Department   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1993年に設立された。機関の運営予算は3百万メティカル(約120,000ドル)で、ドナーからの支援はなく、世銀に支援を要請したが難しいという判断であった。</li> <li>職員は42人、そのうち7人は基準に関する事業に従事している。主要な業務としては、(1)基準、(2)認証、(3)計量標準化に関する活動を管轄している。ただし、認証に関しては、認定の資格がないため、研修事業のみである。基準に関しては、果物、コメ、小麦粉・トウモロコシ粉、また、ISO規格(ISO9001、ISO22000等)を取り扱っている。</li> </ul> <p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基準認証は試験所がなく出来ない。試験所の設置には資金が必要であり、この点でJICAからの支援を要望したい。基準認証等における民間企業との協調も特に考えていない。民間も資金はないため無理である。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月16日(火) 9時～10時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Industrial Association of Mozambique (AIMO)   |
| 4. 先方対応者 | Mr.(Eng.) Elias J. Come, Executive Director<br>Mr. Titos Nhabomba   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国で230メンバーを擁する。メンバーの中には団体も入る。モザンビークをベースにしている企業であれば外資もメンバーになれる。</li> <li>特に北部地域のメンバーは団体が多い。セクター別の団体では、塩、オイル及び関連製品、綿生産者、カシューナッツ、フルーツ&amp;はちみつ等が多い。</li> <li>メンバー企業は小規模から大企業まで様々であり、食品加工、金属、包装、化学薬品等がある。</li> <li>理事の委員は企業であり、3年間の任期で任命される。</li> <li>商品開発、コンサルティング・研修等サービスの提供を行なっている。</li> </ul> <p>&lt;産業について&gt;</p> <p>(1)マプト回廊</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食品加工業については、南部を中心(中部にも若干数ある)に従業員250人以上の会社が約20社存在する。トウモロコシの製粉、カシューナッツの焙焼・包装等、シーフード等が中心である。主に国内消費用の加工が多いが、中には輸出している企業もある。</li> <li>問題は、①品質の管理(試験所がなく、認証してくれる機関がない→欧州に対してはEUのスタンダードを適用、国内の市場で流通されるものに関しても大手の会社は南アで認証している)、②先進国の非関税障壁(NTB)が多いこと、が挙げられる。</li> <li>砂糖産業については、国内用及びEU・米国等への輸出である。</li> <li>タバコは、BAT(British American Tobacco)が中心である。10年程前にモザンビークに工場が建設されたが、ジンバブウェから葉を輸入(南アを経由している)して加工する。国内消費がメインであり、生産を一カ国に集中させないのはリスク分散の観点からであろう(モーリシャス、南ア、ジンバブウェでも製造している)。</li> <li>塩については、海水からの製造を行なっている。200,000トンを製造し、マラウイ、ジンバブウェに輸出している。また、南アの製造量が低下しており、将来的には南アへの輸出も可能となるであろう。</li> <li>油及び関連製品については、綿、ヒマワリ、ココナッツ、パーム・オイル等がある他、石鹼も生産している。</li> </ul> <p>(2)ナカラ、ベイラ回廊</p> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>金属加工業があり。水道管等の製造を行なっている。主にアジアに輸出しているが、南アからも買い付けに関する関心が来ている。</li> </ul> <p>&lt;阻害要因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人材については、マネジメント能力、特定の技術(金属加工等)の不足が挙げられる。技術学校はあるが、現場のニーズとのマッチングが不十分である(AIMO は、企業研修を実施している(世銀からの基金で3週間コース))。</li> <li>電気供給が不安定で料金が安い。また、地方では未電化地域が多く残っている。</li> <li>中小企業向け融資は、Standard 銀行、Millennium BIM 銀行等が実施しているが、利子約 30%と高く、外資とのパートナーシップ等が必要な状況にある。</li> </ul> <p>&lt;CSR&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>BAT 等の企業はコミュニティー開発事業を実施している他、インフラを独自で整備している企業がある。</li> </ul> <p>&lt;支援の必要性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中小企業向けの融資に対する支援が必要である。たとえば、ベンチャーキャピタル機関、基金の設立等が考えられる。</li> <li>インフラについては、現在、整備された道路は主要道路しかなく、農園と主要回廊を繋ぐフィーダー道路等が整備されていない。その結果、例えば、木材となる樹林はある一方で町への輸送に支障があり、産出できないという状況になっている。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 16 日(火) 11 時~12 時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Mozambique Cashew Processors Associations (AICAJU)  |
| 4. 先方対応者 | Mr.Carlos Costa, Chairman   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モザンビークにおける、カシューナッツ製造業者の集合体であり、TechnoServe、アクラにある世界カシューナッツ協会から支援を受けている。代表の Costa 氏は、ナンブラバースの会社経営者で、かつては政府の職員であった。</li> </ul> <p>&lt;カシューナッツ生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナカラ回廊に関連するナンブラ、ザンベジア、カーボデルガド州が生産量の約 3 分の 2 を占める。残りの 3 分の 1 はマプト、ガザ州等の南部であり、中部にはあまり生産はない。</li> <li>殆どが(生又は加工されている状態で)輸出向けのため GDP に対する影響は大きい。ナカラからは焙焼されたものは EU へ、生のものは主にインドに輸出されている。マプト周辺のものも南アへ出荷されている。</li> <li>カシューナッツ生産は全国で約 70,000~80,000 トンであり、そのうち 20,000~25,000 トンが焙焼加工されている。北部に約 15 社あり、それぞれ 500~2,500 トンの生産キャパシティがある(南部には 5 社)。一社につき 300~350 人の従業員を雇用している。</li> <li>北部では新しい収穫時期が始まったばかりであるが、今年の焙焼加工されたカシューナッツの生産量は 20,000 トン程度と見られている。</li> <li>焙焼加工されたカシューナッツは 1kg 当たり 4 ドル程度で売られ、生のものは約 50 セント(0.5 ドル)で売られる(世界市場価格)。</li> <li>一般に製造業者の技術力の向上が必要。約 30 年前にはモザンビークは世界一の生産量を誇っていたが、資本集約的から労働集約的な産業になってしまい、各会社が小規模になっている。現在の順位は、生カシューナッツではアフリカ内 4 位(1 位=コートジボワール、2 位=ギニア・ビサオ、3 位=タンザニア、4 位=モザンビーク、5 位=ナイジェリア)。世界ではさらに、ベトナム、ブラジル等が競合国である。焙焼されたものでは世界的には 4 位であり、アフリカ域内では 1 位である。</li> </ul> <p>&lt;カシューナッツの仕入れ方法・手順&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1,000 トン規模の製造業者につき、地域一体に 2,000 程度の農家を抱える(一農家あたりの農地は 0.5~2 ヘクタール、平均約 1 ヘクタール)。一袋 80kg を単位としており、一袋はカシューの木約 40 本分である(生産能力が低いため)。</li> <li>製造業者は 2~3 人のカシューナッツ仲介業者と契約している。その他には季節になると</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>地域一体の農家が直接売りに来る。工場の従業員が量りのみを会社から借りて仲介する場合も多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製造業者は直接農家に対する支援はしないが、栽培時期の始めに、資金を仲介業者に渡し、仲介業者が農家に対して種子を供与する等の形で支援している。</li> <li>・ 肥料は高いため殆ど使われていない(インド等では使われている)。</li> <li>・ 品質の管理は買い付け段階では経験者の目で確認する。また、重さによる売買のため、袋の中身に混合物がないかを確認する。</li> <li>・ 一袋 80kg の中に種子(カーネル)は 42~44kg 分。これはナイジェリア等他国(56~60kg)に比べると低い。これは、ナイジェリア等の西アフリカ諸国の場合、木が樹齢 20~30 年程度と比較的若いためである。</li> </ul> <p>&lt;カシューの木の栽培&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カシューの木には主に 2 種類ある。1つはブラジル産であり、実を結ぶまで 3 年程度であるが、寿命が短いもの。対照的に、モザンビークで一番一般的な種類は、実を結ぶまで 5 年かかるが木の寿命が長いものである。</li> <li>・ カシューナッツは木から採取するのではなく、実が落ちるまで待つ必要がある。実が落ちるときにダメージを受けるため、収穫方法の改善が必要である。</li> </ul> <p>&lt;産業の阻害要因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品質管理はそれぞれ工場で実施している。また、それぞれの会社は試験所を持っており、今後 HACCP の認証を得られるようにしたいと考えている。</li> <li>・ 地方部における産業振興全般の阻害要因として、インフラ、道路、電気、学校、医療・機関の欠如が挙げられる。政策担当機関である政府は現場の状況を知らない。もっと地方での官のプレゼンスを広める努力が必要。製造業者が地域に学校、メディカル・クリニック等を設置するコミュニティー支援が多いが、これらは本来、政府の役割である。このように既に民間が取り組んでいることをサポート・強化する形の PPP 等を通じた投資が必要である。</li> </ul> <p>&lt;マプト回廊における農産物&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カシューナッツ、果物(ジュースに加工しているが、生産量は少ない)、ココナッツ等(オイルしている)が挙げられる。また、キャッサバは期待産業である。政府のプログラムとして今後 3 年間で生産量を増加させ、高付加価値化を目指している。スターチをつくり、①食用、②エタノール、③産業用(主に衣類関連)への用途が想定されている。もともとスターチはトウモロコシからの生産が主であったが、近年は南アがイニシアティブをとり、キャッサバからの生産を進めている。</li> </ul> <p>&lt;支援の必要性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドナーからの支援は、持続性が必要である。具体的には、研修センター、マイクロファイナンスに対する支援が挙げられる。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 16 日(火) 13 時~ 14 時   |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | 産業貿易省 Private Sector Support Unit  |
| 4. 先方対応者 | Ms. Hortense Uetela, Business information coordinator  |
| 5. 当方出席者 | 青木、今井、スエナガ(通訳)、Joaquim(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要・役割&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同ユニットは、民間企業(主として CTA のメンバー)からリクエストや問題が提起された場合、本省が単独で解答できない場合、他の省庁とのコーディネーションが必要な場合、そのチャネルとして機能している。</li> <li>・ どのセクターとは、決められないが、しいて言えば、鉱業(MOZAL)、土砂採掘業、商業といったセクターは、それなりの影響力を有している。</li> <li>・ 同ユニットが参加、もしくは関連する会議やミーティングには、CASP (Annual Conference for Private Sector)が年1回ある他、総理大臣への報告が年2回、大統領への報告が年1回ある。</li> </ul> |

|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>民間セクターを支援するために、複雑なマトリックスとなっている計画がある。</li> <li>ワンストップサービスという点では、CPIも提供しているが、BAU(Blanco de Atendimento Unico)との違いとしては、CPIは、主に、中大規模への投資に関してアドバイザーサービスなどを提供している点である。</li> <li>中小企業と大企業との連携(リンケージ)を促進する施策として特筆すべきものはないが、2ヶ月前に、Institute of Rural Industry Promotionが設立された。</li> <li>中小企業の定義としては、以下のようなものがある。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>企業の大きさ</th> <th>従業員数</th> <th>初期投資額</th> <th>使用電気施設の規模(KVA)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大企業</td> <td>&lt;250</td> <td>&lt;10 million USD</td> <td>&lt;1,000</td> </tr> <tr> <td>中企業</td> <td>125-250</td> <td>2.5-10million USD</td> <td>500-1,000</td> </tr> <tr> <td>小企業</td> <td>25-125</td> <td>25,000USD-2.5million USD</td> <td>10-500</td> </tr> <tr> <td>零細企業</td> <td>25&lt;</td> <td>25,000USD&lt;</td> <td>10&lt;</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;民間セクターの課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間セクターが抱える典型的な問題として次の4つが挙げられる。       <ol style="list-style-type: none"> <li>基本インフラ(道路、鉄道など)<br/>その他、電気代などが他のSADC諸国に比して高いと言われている(一部違う意見もある。)</li> <li>融資<br/>民間企業が土地を担保として銀行から融資をうけることができない。利子が高いなどの問題がある。</li> <li>企業に関連する法制度<br/>役所に提出する書類がたとえば、会社を登記する場合に煩雑である、その簡素化を進めている。BAUというワンストップサービスにより1箇所ですべての手続きが済むようにサポートしている。</li> <li>輸出入手続き<br/>事前に払った付加価値税(IVA)の返還に時間がかかりすぎることについて企業から苦情が寄せられている。</li> </ol> </li> </ul> | 企業の大きさ                   | 従業員数           | 初期投資額 | 使用電気施設の規模(KVA) | 大企業 | <250 | <10 million USD | <1,000 | 中企業 | 125-250 | 2.5-10million USD | 500-1,000 | 小企業 | 25-125 | 25,000USD-2.5million USD | 10-500 | 零細企業 | 25< | 25,000USD< | 10< |
|---------|--|--------------------------|----------------|-------|----------------|-----|------|-----------------|--------|-----|---------|-------------------|-----------|-----|--------|--------------------------|--------|------|-----|------------|-----|
| 企業の大きさ  | 従業員数   | 初期投資額                    | 使用電気施設の規模(KVA) |       |                |     |      |                 |        |     |         |                   |           |     |        |                          |        |      |     |            |     |
| 大企業     | <250   | <10 million USD          | <1,000         |       |                |     |      |                 |        |     |         |                   |           |     |        |                          |        |      |     |            |     |
| 中企業     | 125-250  | 2.5-10million USD        | 500-1,000      |       |                |     |      |                 |        |     |         |                   |           |     |        |                          |        |      |     |            |     |
| 小企業     | 25-125   | 25,000USD-2.5million USD | 10-500         |       |                |     |      |                 |        |     |         |                   |           |     |        |                          |        |      |     |            |     |
| 零細企業    | 25<  | 25,000USD<               | 10<            |       |                |     |      |                 |        |     |         |                   |           |     |        |                          |        |      |     |            |     |
| 7. 収集資料 |  |                          |                |       |                |     |      |                 |        |     |         |                   |           |     |        |                          |        |      |     |            |     |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月17日(水) 9時15分~10時30分   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Ministry of Industry & Trade 産業局  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Sérgio Carlos Macamo, National Director<br>Ms. Zulmira Macamo, Head of Department of Planning and Development   |
| 5. 当方出席者 | 青木、今井、スエナガ(通訳)、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;産業政策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2ヶ月前に産業政策が国会で承認されたばかりである。優先産業は以下のエリアである。       <ol style="list-style-type: none"> <li>農業加工</li> <li>建設</li> <li>金属加工</li> <li>化学工業</li> <li>川下産業(鉄、アルミ関連ビジネス等)</li> <li>木材加工</li> </ol> </li> <li>繊維産業(高付加価値化)、印刷業(教科書、本の出版)等も重要であるという認識であるが、これらは優先分野ではない。優先分野に対する投資活動の促進を実施する予定である。</li> </ul> <p>&lt;リンケージ(川下産業の発展、中小企業と大企業のリンク)&gt;</p> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業政策と併せて、SME 戦略が国会承認された。モザンビークの産業の 90%が中小零細企業である（インフォーマルセクターも多い。産業全体の 20%を占めるという見解もある）。大企業とのリンケージが必要である。</li> <li>・ ビジネス環境の改善を実施することで投資環境の改善に努めている。モザンビークの魅力は、マクロ的な政治経済の安定性、特惠的な市場アクセス（域内及び EU、米国に対して）である。</li> <li>・ テテ地域に大規模な石炭鉱（ブラジルの CVRD が開発予定）があり、大きな発電能力がある（近辺の Songo に大規模なダムもある）。このためプレ F/S を実施し、5 つのプロジェクトの可能性が提案された。</li> </ul> <p>(1) セメント工場の建設(290,000 トン、17 百万米ドルのキャパシティ)</p> <p>(2) 綿紡績</p> <p>(3) アルミ精錬</p> <p>アルミ精錬に重要なものは発電能力である。三菱にもう一つこの地方での建設を打診中（一週間ほど前に打診、現在返事待ち）。ポーキサイトは従来どおり輸入し、現在修復中（世銀の資金、インドの会社が請け負っている）のテテ-ベイラ港を結ぶ鉄道を使って輸出可能</p> <p>(4) バイオディーゼル</p> <p>Jatropha（ジャトロファ）の種からの精製</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これらの投資は大規模な投資が必要なものである。今後投資促進のロードショーを展開する予定。</li> <li>・ その他、中小企業促進機関(Institute for Supporting SMEs)を設置する計画がある。主たる役割としては、技術支援及び間接的な資金支援（信用保証等。現在融資に対する利子は 24～25%と非常に高い）を行なうことを想定している。</li> <li>・ “Linkages Programme”CPI で始まったプログラムであり、中小企業をデータベース化し、大手企業に提供するプログラムであるが、期待していたほどの効果がない（大手企業に使われていない）。</li> </ul> <p>&lt;支援の必要性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業政策やその他政策が殆どポルトガル語のみなので、英語に翻訳する支援が必要と考えている。</li> <li>・ 中小企業促進機関の設立に対する支援（現在中小企業に対する支援は世銀、スペインが実施している）が必要である。また、アフリカ開発銀行が韓国からの資金で、中小企業政策の起草を実施したが、機関を設立するにあたり、新しいフェーズの支援をお願いしたい。世銀、IFC は関心を既に示している。</li> </ul> <p>&lt;FTA&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2008 年からの SADC 域内の関税が 98%以上の産品に関してゼロになる。域内諸国と競争力があるのは、①海塩（マラウイ、ザンビア等へ輸出可能）、②漁業（南アとりも競争力である。北部からは EU に向けてエビを輸出しているが、EU の衛生基準等が厳しい）。</li> <li>・ FTA による域内競争で勝つには、品質の向上が不可欠である。INNOQ の組織強化に関しては大統領も認識している。</li> <li>・ FTA 戦略を策定し、対応を検討しているところである（入手予定）。</li> </ul> <p>&lt;ナカラ回廊&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナカラ近辺に Special Economic Zone が設立されることになっている。</li> <li>・ ナンプラ地域の重点産業は、①重砂の川下産業、②カシューナッツ（約 15 の処理工場）、穀物（メイズ、麦）が挙げられる。現在、穀物は、カナダやアメリカから輸入しているが、バイオ燃料の需要拡大に伴いコストがかさんできている。</li> <li>・ ガザ州では、米のポテンシャルがあると考えられている。米の殆どは輸入に頼っており、日本からの輸入もあった。近辺に世銀が修復したダムがあり、水の供給がよい地域である。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業セクターの企業数の地域別データ</li> <li>・ 地域別重点産業の一覧</li> </ul>  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月17日(水) 11時～ 12時  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | 鉱物資源省  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Eduardo Alexandre, Director of Planning and Development<br>Mr. Adriano Silverstre Senvano, Deputy National Director of National Geology Direction,   |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要・役割&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画部では、省全体の活動の計画策定、採掘者へのライセンス供与などである。</li> </ul> <p>&lt;資源埋蔵データ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モザンビークには、豊富な資源があるが、埋蔵場所を記した地図については地質局にある、生産については全国レベルで鉱物生産のデータがある。</li> <li>北部のナカラ回廊周辺では、タンタルナイト 80 トン、トルマリン、ジルコン、金、重砂などが産出する。天然ガスについては、天然ガスについては、全国レベルで、102 万ギガジュール、その副産物が、70 万バレル、石炭は、5.1 万トン産出した。</li> </ul> <p>&lt;輸送手段&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産出した資源は、鉄道でマプトまで運び、南アに船で輸送する。マニカ州で採れるポーキサイトは、ジンバブエにトラックで輸送する。ナンブラ州の湾岸で採れる重砂は船で輸送している。</li> </ul> <p>&lt;関連企業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内資本では、中小規模の採掘会社があり、外資と提携している。また、採掘された砂金や宝石類は、国内消費向けや、彼ら自らが輸出するパターンもある。</li> <li>その他、ナカラ回廊周辺では、ニアサ州のクアンパで GEM STONE、ナンブラ州中心部から北部ニアサ州にかけては、小規模の砂金採掘場所、ニアサ州からカボデルガード州にかけては石炭が採れる。</li> <li>村民のような小規模採掘者に対しては、採掘技術の移転、環境に悪影響を与えない採掘方法などを地方支部を通じて教えている。かつては世銀のプロジェクトがあった。また、村民は、採掘場所を転々と移動する人もいる。また、かつては、採掘する場合において、健康に被害を及ぼす場合があったが、最近では、技術が進歩し、そのようなことは少なくなっている。砂金などがよく産出するような村では、農業に従事せず、鉱物の採掘を中心的な村の活動としているところもある。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援を必要とする分野としては、地震関連の技術の移転、またそれに関連する機材の供与などがある。また、採掘技術などの支援も必要である。その他、地質研究所の技術者の訓練にも興味がある。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | <ul style="list-style-type: none"> <li>全国鉱物埋蔵地図</li> <li>鉱物資源生産量 2005 年度</li> <li>世銀レポートモザンビーク鉱物について</li> </ul>  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月17日(水) 12時～12時45分  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Maersk Line  |
| 4. 先方対応者 | Ms. Helena Ferrao, Sales Country Manager<br>Mr Mario Andre Monjane, Market Assistant   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Maersk 社もベイラ・コリドールのビジネスを考えている(物流)。同社はモザンビークにおける船舶輸送の最大手(ほぼ独占状態)である(マネージャーはアンゴラでの従事経験あり)。</li> </ul> <p>&lt;ベイラ港&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Maersk 社では、ベイラ港が最も取扱量が多く、重要な港である。但し、同港は水深が浅く、大きい船が停泊できるターミナルは一つのみであるため、待ち時間が長くなっている。したがって、現在はフル稼働している状態である。</li> <li>課題としては、安全基準(ヘルメット着用等がない)の不備、セキュリティがあまりよくない</li> </ul> |



|         |  |
|---------|--|
|         | <p>(ID のチェックなしで入退場可能等)などが挙げられる。</p> <p>&lt;輸送ルート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取扱荷物の 70%はアジア向けである。残りの 30%はダーバンを通して欧州に出荷される。</li> <li>・ 取扱量は全ての港(特にマプト、ベイラ)で増加しており、毎週約 12~14 のフリート(10,000 トン程度、3 つは大型船)が、ダーバン→マプト→ベイラ→ナカラを通過して貨物をピックアップしている。</li> <li>・ ベイラ港-マプト間、ベイラ-ナカラ間は貨物の運搬に要する日数は 2~3 日である。</li> <li>・ ベイラ港はダーバンの取扱量の約 20%である。</li> </ul> <p>&lt;取扱荷物&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ キリマネ港からは冷蔵貨物船でエビが欧州へ輸出されている。</li> <li>・ ベイラ港からはタバコの輸出が主である(マラウイから鉄道で輸送)。</li> <li>・ ナカラ港からは、冷蔵貨物船によるエビ、及び木材等である。</li> <li>・ その他にも急激に取扱いが伸びている産品があるが企業機密のため明かせないことを了承いただきたい。</li> </ul> <p>&lt;港湾における手続き上の問題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要書類を全て用意していても遅れが生じる。また、煩雑な手続きが多すぎるが、他アフリカと比較においてモザンビークの港が特にひどい状態ではなく、ダーバンとさほど変わらない。港における通関手続きは約 3 日である。むしろアンゴラのほうがよっぽどひどい状態である。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナカラ港からリロングウェ(マラウイ)間は鉄道輸送で約 2 日である。</li> <li>・ 貨物の盗難等セキュリティ上の問題はあまり聞いていない。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 17 日(水) 13 時~14 時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | CaTucha Trading   |
| 4. 先方対応者 | Ms. Natividade da Gloria Bule, General Director   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主たる業務内容としては、①中小企業に対するコンサルティング・サービス(会社登録、仲介)、②マプト内にスタートアップ企業のためのビジネス・インキュベーション・センターの設立、③ビジネス研修事業を実施している。</li> <li>・ インキュベーション・センターを使用している企業は、IT 系、電気関連会社等がある。</li> <li>・ 研修事業では、政府職員の研修や、FTA に備えて国際貿易の講義を実施している。対象は主にキャリアを持っている 25 歳~30 代である。</li> <li>・ 民間企業による研修事業はポピュラーであり、様々な会社が提供しているが、ビジネス・インキュベーター施設はモザンビークには他にはない。</li> <li>・ 施設は、IPEX(輸出促進機構)から提供されているが、運営費は生徒、センターを使う企業により賄われている。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークの SME 開発の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育レベルに関しては、全国レベルの識字率は 60~70%であるがマプト市内では 100%に近く、数学等にも政府が力を入れているので問題はない。</li> <li>・ 社会問題として、HIV の問題が深刻である。</li> <li>・ 労働法については、新労働法が昨年承認され、雇用の硬直性については相当程度改善した。以前は、3 ヶ月の試用期間後は自動的に無期限の正社員となり、解雇が難しかったが、新労働法では 1 年契約で更新を続けられるようになった。</li> <li>・ ファイナンスの問題が最大の問題であり、利子が高い。インフォーマル・ファイナンスはあまりない。</li> <li>・ 中小企業の大企業とのリンケージの問題については、MOZAL は、この課題では失敗であるといえる。初めての試みであるため仕方がないが、創業当初は工場のクリーニングまで全て外国から持ちこんでいた。次第に地場企業との契約も増えているが、今後の大企業の投資においては、政府・国内民間団体が地場中小企業とのリンケージを要請するである</li> </ul> |

|         |    |
|---------|----|
|         | う。 |
| 7. 収集資料 |    |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月17日(水) 13時～ 14時  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | マプト市、産業商業振興部   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Francisco Jasse, Chief of Commercial Dept.<br>Mr. Jaccarias Landa, Industrial Technician in charge of Made in Mozambique   |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要・役割&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同部では、各業種の企業が規制や法律を守っているかを監視すること、市場のモニタリング(品質、価格、賞味期限など)、会社の登記手続きの事務処理、内部の事務などを担当している。</li> <li>・ BAU が設置されるまでは、同部署でマプト市内で登記する会社を担当していた。現在は、多くの作業が BAU に移管された。これは、事務の効率化、汚職追放、貧困削減などを目的として各州レベルで設立されている。マプト市は、首都であり、州レベルの格付けを持っている。</li> <li>・ スタッフは約80人で、産業部、商業部、検査部、経済分析部、人事部、経理部、総務部などで構成される。</li> <li>・ 部長は市でなく、産業貿易省から任命されて派遣される。</li> <li>・ マプト市内の企業のうち、商業については分野ごとに登録されているものについては、細かく把握している。製造業についても、一部把握している。</li> <li>・ 本部署の活動予算は、あとでお渡りする。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業商業部の組織図</li> <li>・ 商業・製造業の登録企業データ</li> </ul>  |

| 1. 日時        | 2007年10月18日(木) 8時15分～9時   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
|--------------|---|---|-----|--------------|----|--------|---|--------------|---|---------|---|----------|---|
| 2. 場所        | マプト市内   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
| 3. 機関名       | Millennium BIM 銀行   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
| 4. 先方対応者     | Mr. Moises Jorge, Director, Corporate Cordination Directorate   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
| 5. 当方出席者     | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
| 6. 面談内容      | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポルトガル資本の銀行である。Jorge 氏の部署は大企業に対する融資を担当している。</li> <li>・ 事業分野(セクター)は問わず貸付を行える。</li> <li>・ 利子については、輸出入関連業者に対してはドル又はユーロ建て貸付を実施している。LIBOR/EURIBOR+1%程度。その他の企業に対しては、メティカでの貸付を行なっている。プライムレート(年率約16.5%)＋スプレッド(2～5%)、短期貸付は1ヶ月＝14.0%、3ヶ月＝14.67%、6ヶ月＝14.90%である。</li> <li>・ 担保については、土地は国有であるため、担保に出来ないため、建物等資産が担保とされる。または、トップ銀行(パークレーズ銀行等)からの銀行保証(L/G)を要求している。</li> <li>・ 中小事業向けの融資は、利子のスプレッドが大きくなるが、あまり変わらない。</li> <li>・ モザンビークにはインフォーマルな貸付市場(ブラックマーケット)もあるが、その他にマイクロ・ファイナンスを取り扱っている機関が15機関ほどある。信用保証であり、利子は一月6%程度である。</li> <li>・ 同銀行の取扱の54%は400程度の大企業(資産200～300万ドル程度)である。全国に77の支店がある。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>州</th> <th>支店数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Maputo (市&amp;州)</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>Niassa</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Cabo Delgado</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>Nampula</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>Zambézia</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> | 州 | 支店数 | Maputo (市&州) | 36 | Niassa | 2 | Cabo Delgado | 3 | Nampula | 7 | Zambézia | 5 |
| 州            | 支店数   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
| Maputo (市&州) | 36  |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
| Niassa       | 2   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
| Cabo Delgado | 3   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
| Nampula      | 7   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |
| Zambézia     | 5   |   |     |              |    |        |   |              |   |         |   |          |   |

|         |   |           |    |
|---------|---|-----------|----|
|         |   | Tete      | 2  |
|         |   | Manica    | 3  |
|         |   | Sofala    | 8  |
|         |   | Inhambane | 5  |
|         |   | Gaza      | 6  |
|         |   | 合計        | 77 |
|         | <p>&lt;ファイナンスの問題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファイナンスの問題としては、利子が高いこと、ブラックマーケットの管理が挙げられる。</li> <li>・ また、市場が自由化されておらず、法律面が煩雑である。例えば、海外送金に関する規制が厳しく、\$5,000 以上の送金は国に申請する必要がある。多国籍企業の収益の国外送金についても同様である。</li> <li>・ その他、北部、中部とのコミュニケーションが難しい。</li> <li>・ 現在、ポルトガルとの間で二重課税協定が結ばれており、南アとも至近に締結される模様である。また、SADC 域内では来年からの貿易自由化に伴い解決される見込みである。</li> </ul> |           |    |
| 7. 収集資料 |   |           |    |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 18 日(木) 8 時 30 分～10 時  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | United Nations Industrial Development Organization (UNIDO)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Steven Dils, Programme Officer   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、青木、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;既往・新規案件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ UNIDO のプログラムは Energy-Environment、Production Capacity Building を通じた Poverty Reduction、Trade Capacity Building の 3 つに大別される。国連では One UN Programme と呼ぶ、いくつかの機関によるジョイント・プログラムの試みを 8 カ国で始めており、モザンビークもそのうちのひとつとなっている。そのため 2007 年より開始予定である新規案件については、全てのカテゴリーで他国連機関との連携で実施している。それぞれの概要は以下の通りである。</li> </ul> <p>(1) Energy-Environment</p> <p>既往案件:「観光振興による環境への影響軽減」<br/>Inhabane においてパイロット・プロジェクトを実施中。特に行政と地域コミュニティ間の関係改善に注力。</p> <p>新規案件:「再生可能エネルギー」<br/>国内 5 ヶ所にて水力発電機材をパイロット的に設置する予定。</p> <p>(2) Poverty Reduction</p> <p>既往案件:「企業創出」<br/>Maputo、Zambezia、Cabo Delgado、Nampula の 4 州を対象として、建築資材に関連した産業のポテンシャルある人材を選定した上で、インドに派遣しトレーニングを行った。帰国後、企業を設立するべく産業連盟 (AIMO) 傘下の CADI(ビジネス・アドバイザー・センター)がアドバイスを実施。</p> <p>既往案件:「民間セクター開発のためのサポート Phase 2」<br/>Nampula 州においてカシューナッツを対象産品とした民間セクター開発をパイロット・プロジェクトとして実施し、ブラジル人専門家を複数回招いての問題点の抽出、ビジネス・プラン作成、機材の使用に関するアドバイスを実施。</p> <p>既往案件:「起業家養成カリキュラム」<br/>中等教育、職業訓練のカリキュラムを、ビジネス・チャンスの見つけ方といった内容を組み込み、より実践に役立つものに再編。</p> <p>新規案件:「民間セクター開発のためのサポート Phase 3」<br/>農産品関連のパイロット・プロジェクトであり、Nampula、Sofala、Gaza の各州を対象地域として 2007 年の終わりまでには対象農産品を選定して開始することになっている。FAO が農</p> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>業の生産性向上、UNIDO がビジネス・プラン作成、加工技術面でのアドバイス、UNDP がジェンダー面で女性の参加、意識改善を担当し、トータルな協力による解決を図る。</p> <p>(3) Trade Capacity Building<br/> 既往案件:「貿易・食品の安全性のための品質管理システム」<br/> マプトを対象地域として、農産加工品を対象にした検査施設・システムの確立を目的とする<br/> 既往案件:「南南間投資促進に係るポジションペーパー作成」</p> <p>&lt;政策支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政策への協力は、過去に産業政策の策定に協力し、2007年には韓国によりAfDB 経由で中小企業政策の策定支援が行なわれた。</li> <li>しかし、策定された政策が Council of Ministers で承認されることはあっても、実際に活用されたことはないと言っても過言ではなく、たなざらし状態となる状況を長年(面談者は7年間活動)観察してきた。これらの経験から、政策策定への協力は効果が薄いと考えている。</li> <li>UNIDO が一部「ライセンス供与期間の短縮化」プログラムを除いて、政府によるアクションそのものでなく、パイロット・プロジェクトで直接民間支援を多く実施しているのは、このような経験があるからである。現場での成功事例を作る方が、結果的に政府の重い腰を上げさせて動かすことに有効である。</li> <li>なお、民間を相手にするプロジェクトであっても、法制度面で多くの障害に直面することになるものの、法律改正のように政府に何かを期待するのではなく、現行法の下でどうプロジェクトを機能させるに腐心する方が現実的且つ効果的である。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | ・Draft UNIDO Programme Summary Matrix 2007-2009   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月18日(木) 9時30分～10時15分  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Cimentos de Moçambique, Grupo Cimpor   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Steffen Kasa, CEO  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>セメント事業は1994年に民営化され、ポルトガルの Cimpor 社が購入した。同社は中・大企業であり、世界シェアでは上位10位ぐらいに位置する。</li> <li>モザンビークにおける生産量は、50万～100万トン程度であり、マプト(マトラ)、ベイラ地域、ナカラ地域に3つの工場を持っている。セメント作りは原料の粉碎と焼成(クリンカー作り)という二つの工程からなり、以前は全ての工場で焼成までされていたが、現在はマプトのみである。マーケットは拡大しており、今後ベイラ、ナカラでも焼成を再開する見通し。</li> <li>殆どは国内消費用であるが、若干ジンバブウェ以外の近隣諸国(マラウィ、ザンビア、コンゴ等)にも輸出している。これらの国へは、以前はジンバブウェから輸出されていたが、不安定な政情のため、ビジネスが拡大したものである。</li> <li>原材料は、マプトでの事業に関しては中国から輸入している。ベイラ、ナカラに関しては国内調達している。</li> <li>ナカラにはモザンビーク唯一の競争相手 ARJ 社(現地企業、経営者はインド系)がある。</li> <li>モザンビーク全国の事業では420人を雇用。清掃、パッケージング等については、中小企業へのアウトソーシングをしている。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークのビジネス環境&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通インフラの点では、セメント事業は輸送費に敏感であり、道路よりも鉄道での物流が好ましい。特にナカラの鉄道はよく止まるため、問題が多い。その場合は道路を使うが、特に雨季の道路の状況はひどい。3月に通ったときには大型トラックが3台も沼にはまり立ち往生していた。ベイラ港からテテ地域への輸送は鉄道の修復が未了であるため、道路輸送のみである。しかし、ベイラでは鉄道の民営化が予定されているため、改善が期待されている。</li> <li>電力が不安定なことも大きな問題である。電気は不足していないが質が非常に悪い。焼成には12MW程度必要であるため自家発電機は持っていない。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 港湾での手続きの問題も大きい。アフリカどこも同じであるが、コネクションが大切である。汚職も問題であるため、港湾での荷卸等は地元企業にアウトソーシングしている。また、キャパシティ不足であり、遅れが良く生じる。さらに、ベイラ港では濁水があり、水深が浅く船を付けられないことが良く発生する。その場合は、マプト又はナカラに立ち寄り貨物を降ろし、船を軽くしてからベイラに入っている。</li> <li>・ 労働法が硬直的であることも問題であるが、解雇に当たって特に問題はない。正当な理由があるか、賠償金を支払っている。労働法は複雑であるため、対応については、専門の法律事務所に委託している。ストライキ等の労働問題も特にない。賃金レベルは平均的であると考えている(タンザニアとは同レベル、アンゴラよりは低い)。</li> <li>・ サービス提供者の質は比較的良好(南アに近いためであろう)。</li> </ul> <p>&lt;CSRについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政府による勧奨はないが、同社の方針で、過去 8 年間で 150 万ドル程度に上る CSR 活動を実施した。</li> <li>・ 2000 年に起きた洪水災害に対する支援として、インフラ復興のために 10,000 トンのセメントを寄付し、モザンビーク島、ナカラ、サラマンガで学校の建て直しを支援した。また、病院設備を寄付、信頼できる教団に対して「精神的な安らぎ」を与える場所を提供するためのセメントを供与するといった事業を実施した。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 | なし   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 18 日(木) 14 時～15 時  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Mozal Community Development Trust (MCDT)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Alcído Maússe, Manager   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;モザール地域開発基金の活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次の 5 つのポートフォリオを構成している。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域インフラ</li> <li>(2) 教育 &amp; 研修</li> <li>(3) 保健・環境</li> <li>(4) マイクロビジネス</li> <li>(5) スポーツ&amp;カルチャー</li> </ol> </li> <li>・ 年間 50 億米ドルを MOZAL から与えられ、5 つのプロジェクトを実施している。資金配分は、地域インフラ関連事業が一番資金を必要とするため大きい。</li> <li>・ 2001 年に開始し、MOZAL から Boane 方向 10 キロ範囲を対象として活動している(マプト方向は他の支援も入っているため、実施していない)。2005 年に第三者監査(世銀、IFC に対してレポートを提出)が実施され、コミュニティーに対する良い効果が確認され、モザール 20 キロの範囲まで拡大することになった。</li> <li>・ その他、専門学校をモザンビークの 10 州に一校ずつ建設するという取り組みを、各地域にプレゼンスを有する NGO との協力で実施している。</li> <li>・ 政府は中等学校の建設を進めているが、現場では技術者・エンジニアが不足している状況にあり、むしろ専門学校を建設するべきと考えている。</li> <li>・ MCDT の運営は MOZAL から独立しており、同社の直接的なマーケティングのツールとしては一切使われていない。最近始められている CSR はマーケティングのものが多い。</li> <li>・ さらに、MOZAL は、小企業と大企業とのリンクの促進のため、MOZLINK というイニシアティブをコカコーラ社等 25 社と CPI とで実施している。</li> <li>・ JICA からの協力隊が MCDT によって建設された学校で教えている(コンピューター &amp; 化学の先生)。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークにおける CSR 活動・政府の役割等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MOZAL によるものが同国内における初めての事業である。他の企業がこれまで実施していなかった理由は政府が促進していなかったためであろう。</li> <li>・ モザンビークに新規参入する企業は、どこも CSR 事業を行なっている。SASOL、CBRD 等の企業は CSR 部署を設置している。</li> <li>・ 政府からどのプロジェクトを実施するかという指示、介入はない。地域のニーズを最優先し</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>て、地元リーダー等の意見を参考に地域ごとに要望調査を実施し、MCDT が優先順位を付したりリスト作成し、これをベースに政府と交渉している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大規模投資には CSR 活動の義務化を法律によって明記するべきと考えている。例えば、Ernst &amp; Young が良い CSR 活動に対する賞を出している。このようなものをもっと作れば CSR 活動が促進されるだろう。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 18 日(木) 15 時～15 時 30 分  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Ernst & Young(会計事務所)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Hermenegildo Come, Transaction Advisory Services, Partner (Accountant)<br>Ms. Albená Todorova, Manager (Lawyer)   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;税制&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モザンビークの税制は、例えば VAT 還付が 30 日以内とされているところを数ヶ月或いはそれ以上必要とされるという点を除けば、基本的に税法に書かれている通りに実行されている。</li> <li>また、税務当局職員による汚職の問題もあまり見られず、他国で多々見られるような優遇税制の申告により税務調査が入り、結果的に高い税を求められるといったような不都合は見られない。</li> </ul> <p>&lt;会計制度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際会計基準が採用されており、2010 年以降は全ての中小零細企業も従わなければならない。これは国内企業にとっては負担であろうが、将来的に外国からの投資企業が国内中小企業と取引を行う、或いは下請け関係となる際には、プラスに作用すると考えられる。</li> </ul> <p>&lt;労働法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>労働法が改正されたとはいえ、解雇の規定等は依然として企業にとっては厳しいものである。ただし、労働法の各種規定、定義に関して、例えば合法・違法ストライキの定義など非常に明確に規定されており、判断する人間の裁量によって判断が異なる可能性は低い。その意味では、雇用する側にとっても分かりやすいものであると言える。</li> </ul> <p>* 別途 Price Waterhouse Coopers も訪問し、同様の質問をして確認した結果、ほぼ同じ回答が返ってきた。そのため、他国で頻繁に見られるような税務当局者の問題、労働法解釈をめぐる問題等は大きくない模様(面談者: Mr. Ahmad Essak, Ms. Carolina Balate, Tax Service Consultant)。なお、モザンビークでは Accountant、Lawyer になるための国家試験はなく、大学での関連過程を終了すること、Lawyer ではプラス 2 年の士補としてのトレーニングが必要とのこと。</p> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 19 日(金) 9 時～10 時 15 分  |
| 2. 場所    | マプト市郊外   |
| 3. 機関名   | MODET (洗剤企業)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Alcído Maússe, Manager   |
| 5. 当方出席者 | 青木、今井、スエナガ(通訳)、Joaquim(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1995 年に民営化によって設立された企業である(モザンビーク資本)。公営企業は 1972 年に設立された。</li> <li>民営化された当初機械類は老朽化しており、投資として基礎インフラにこれまで約 200 万米ドルを投入した。</li> <li>フルタイムで 72 人を雇用している。</li> <li>工場は一つであり、42,400 m<sup>2</sup>の敷地を有し、そのうち工場スペースは 7,000 m<sup>2</sup>である。ここ</li> </ul> |

で 35 種類の洗剤・洗浄剤を製造している。

<製造プロセス>

- ・ 原料の硫酸は、南アから輸入している。但し、南アも海外から輸入していると思われる。トラックで月に 2～3 回輸入(マプト回廊を通過)している。国境通過に関する問題は特になく遅れもない。
- ・ ボトルのプラスチックに関しては、PT プラスチックは地元の企業から、PE プラスチックはインドから輸入している。ラベルは地元の会社に委託している。
- ・ 液体のみであり、粉状のものは製造してない。公営企業時代は液体も製造しており、使用されていないイギリス製の大型機械が今でも放置されている状況にある。
- ・ 卸売業者等からの需要によって製造量を調整している。
- ・ 2007 年 2 月にインドから機械を購入し、プラスチックボトルの成型を実施するようになった。
- ・ 洗剤の製造ラインは 1 本であり、毎日違う製品を製造している。

<販売>

- ・ マプトに出荷するものが多いが、卸売業者が他の地域にも出荷している。
- ・ 500 程度の顧客を持っており、そのうち 20～25 は卸売業者である。マプト市内にある南ア資本等の大手スーパー(Shoprite、Game、Mica、Maputo Shopping Centre)と契約している。
- ・ 販売は増加している。1995 年の創業当初は月 20 トン程度であったが、現在は月 70 トン程度を製造している。しかし、まだ製造キャパシティには余力があり、年 6000 トンまで製造できる。ただし、そこまでの需要がない。
- ・ 競争が激しく、利益率が良くない。卸売価格の表を作成しており、そこから卸売業者との間では多少割引をしている。

<競合>

- ・ 同社は、マーケット・リーダーであり、市場シェアの 35%程度を占める。他にも国内企業はあるが、全て小さい企業である。50～55%は多国籍企業である。
- ・ Unilever が一番の競合相手であり、製品は南アから輸入されている。以前は Colgate 社の工場がモザンビークにあり、競争相手であったが同社は撤退した。

<技術力、製品の品質・安全管理の確保について>

- ・ AIMO 協会の会員(会費制)であるため、定期的に安価で提供される研修事業に従業員を参加させている。
- ・ 安全基準に関しては、ISO9000 を取得する準備を進めている。
- ・ 工場内の試験場でチェックするとともに、マプトにある試験場でも品質をチェックすることもある。
- ・ 技術力の向上のため、Palmolive の元従業員を雇用して品質管理にあたっている。製品開発はあまり実施されていない。

<マーケティング>

- ・ テレビコマーシャル、ポスター、スーパー等でのデモンストレーションを実施している。
- ・ 洗剤等は、低所得者向け及び中高所得者向けの製品を製造している。

<課題・支援の可能性>

- ・ パッケージ・ラベルの品質が悪いことが挙げられる。
- ・ 政府から産業に対する支援が一切なく、競争が激化している。多国籍企業との競合は非常に厳しい。さらに、現在は輸入品に対して 30%の関税が関わっているが来年施行される自由貿易協定によって SADC 域内市場が自由化される(しばらくは調整期間あり)ため、さらに厳しい状況になる。政府に保護を要望する。
- ・ 南ア、ジンバブエ、アンゴラ等にも輸出したいが、それも難しい(これら諸国には既に地場企業が存在し、価格(生産量が多いため規模の経済がある)・品質ともに競争力が高いため)。
- ・ 販売量は増加しているものの、モザンビーク国内に購買力が低いため、依然需要が低い。
- ・ 南アより賃金は安い、生産量が少ないためフル稼働させていない状況である。そのため結果的にアイドリング時にも給与を払っているため、実質賃金は南アの企業よりも高いぐらいと思われる。また、労働法も規制が多く、年金 7%及び労災(これは必須でない)を支払っている。

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>JICA/日本に対しては、資金援助ではなく技術移転をお願いしたい。例えば花王の技術者に教えていただきたい。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月19日(金) 11時～12時  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Millennium BIM 銀行   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Miguel Chaves, Director Coordenador, Dir. Coordenação Commercial Sul<br>Mr. Fernando Almeida, Director de Balcão, Dir. Coordenação Commercial Sul   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個人向け事業は預金ベースで30%～40%であり、法人向けが60～70%である。全事業の債務不履行率は2%程度である。</li> <li>マーケットシェアとしては、Millennium BIM がトップで67%程度であり、残りをBCI、Banco Austral、Standard 銀行が等しく分けている。Standard 銀行は法人向け及び中高所得者のみを対象としている。</li> </ul> <p>&lt;SME ファイナンス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業エリアの区別はせず、信用分析を実施し、財政的実施可能性・信用があれば貸している。信用分析の基準は、①事業の財政(過去三年間のバランスシート、損益計算書等)及び②銀行との口座取引の歴史(借越の有無等)。また、短期であるのか長期の融資にもよる。</li> <li>保証は、①建物に対する担保、②機械等の資産、③銀行口座、④個人保証がある。土地保有が認められていないため、土地購入のための融資は実施しない(建物に付随した土地の所有権となっている。つまり、建物が建っている土地は建物所有者のもの)。</li> <li>個人口座からの融資で資金を確保している場合が多いので、SME 事業の取扱数は分からないが、SME ファイナンスは増加している。</li> <li>金利については、ドルとメティカルと両方ある。メティカルの融資に関しては、プライムレート(16.5%) + 1～8%のスプレッド(これはインフラが高いためである2006年のインフレは13%)。輸出業者のみに対してはドル建ての融資を認めている(政府が繰入額50%を義務化しているため。輸出業者の場合は免除されている)。LIBOR + 2～6%のスプレッドである。</li> </ul> <p>&lt;SME のビジネス環境&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建設業は非常にリスクが高い。建物が完成するまで所有者として登録できないため、建築が途中で頓挫してしまった場合等は担保とならない。</li> <li>外国人はドル建て口座を持つことができ、本国送還も自由であるが、国内企業に勤務する外国人はレジデント扱いで認められない。海外送金は月5,000ドルまでである(法律は頻度についてグレーであったが、銀行間で月一度の額とすることを合意している)。</li> <li>メティカル通貨はドルとは変化ない。中央政府の外貨準備はドルで保有しており、全てドルとの変化が激しい。</li> <li>昨今、貸付の増加が見られるSME 産業としては、輸送業、建設、サービス(旅行会社、ホテル、レストラン等)、農業が挙げられる。マプト、ナンブラ、一部テテでの伸び率が良い。</li> <li>モザンビークで銀行口座を持っている人は10%以下であろう。BIM 銀行は70万～80万口座を保有している。</li> </ul> <p>&lt;SME の阻害要因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スキルの欠如(管理者 &amp; 一般従業員)、起業家精神の欠如、インフラの問題(鉄道、水、道路(農道等)、通信)が挙げられる。</li> <li>政府は、①税制面のインセンティブを与える、②SME 基金を設け、銀行が信用分析を実施し、高金利を補助する制度を作るべきである。米国、フランス等では実施されている。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |   |



|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月19日(金) 8時30分～9時15分  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | School of Economics and Management: Escola Superior de Economia e Gestao (ESEG)   |
| 4. 先方対応者 | Dr. Diogo Guilande, Rector<br>Ms. Flora Jannet Chrispen Matches, Secretary to Rector  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ESEGは2年前に設立された私立大学であり、経営実務で使える知識を学ぶことを目的としている。対象は政府、民間を問わず既に職を得て働いている人材であるため、全ての講義は17:45以降に行われている夜間専門の高等教育機関である。</li> <li>現在のところ、Maputoの本校以外にBeira、Chimoio、Chokwe、Teteにも分校があり、Nampulaでも近々開講予定である。学生数は約2,000人で、うち半数以上はMaputoキャンパスで学んでいる。</li> <li>カリキュラムは経営管理、会計、経済、法を基本コースとして、経営に関わる諸科目を学べるようになっており、4年間の課程で、Lycee(学士に教員免許を加えたものと同程度の学位を授与されることに成っている。授業料は月150ドル(逆に講師の報酬は1レクチャーあたり25ドル)。</li> <li>2年しか経過していないため卒業生はまだ出ていない。しかし、他私立大学からの学生の転籍を受け入れ、それまでの単位も認めることにしているため、今年12月には初めて56名が卒業する予定である。</li> </ul> <p>&lt;設立経緯&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>設立者である学長は、現在も国立Eduardo Mondlane大学(UEM)経済学部の教授であり、昼間はUEMでオペレーションズ・リサーチ、国際経済といった科目を教えている。</li> <li>しかし、自身もUEMを卒業し、25歳にして従業員180名の乳製品製造企業でManaging Directorを務めた経験から、モザンビークの経済発展、貧困削減のためには、理論中心ではなく実務を学んだ人材を多く輩出し、企業活動をより促進する必要があるとの認識から、ESEGを設立したとのこと。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月19日(金) 11時～12時  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | 漁業省   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Inacio Domingos, Dept. International Cooperation,<br>Mr. Silvano Macaneta, マプト漁港管理責任者<br>Ms. Luis Silva, IDPPE 他2名  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;モザンビーク漁業の概況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、年間の漁獲量は、約10万トンで減少傾向にある。GDPの2%、輸出の8%を占める。</li> <li>輸出品目のうち、えびは、個人の漁師の場合、クーラーに氷を積んで漁をする。セミ・インダストリアルもしくは、インダストリアルの場合、捕獲後、船の中で冷凍する。また、近くの漁港で、量、品質の検査を受ける必要があり、もし、品質が低い場合については、輸出の許可は下りない。</li> <li>日本、スペイン、ポルトガル、ブラジルなどの船が多数を占めている</li> <li>えびの養殖は、ベイラ、キリマネ、ペンパで行なっている。河口周辺の養魚地で地場の会社と外資のJVで経営されている。養殖がはじまってから、5年ぐらいたつ。</li> <li>稚魚を育てたり、漁業技術を移転するような水産試験場というものは存在していない。</li> <li>国としての漁業セクターにおける方針としては、人材育成、生産の増加である。</li> </ul> <p>&lt;加工業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会主義時代は、国営の缶詰工場がマプトとベイラの2箇所にあった。民営化された後、経営がうまくいなくなり閉鎖されたため、今は1つもない。スーパーにある缶詰の全てが輸入品である。</li> </ul> |

|        |   |
|--------|---|
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 簡単な日干しや、塩漬けの技術という点では、塩、そして燻製の技術は昔からある。小さな漁村においても、加工作業所のようなところがあり、簡易加工している。しかし、技術が未熟である。漁業省ではこれらの技術指導も行なっている。</li> <li>・ はまぐりは、主に貧困層の自給用であり特に加工しているものではない。主要な漁獲物としては、北部では、主に釣竿でつる魚。中部では、えび、南部では、いわし、まぐろ、ロブスターなどである。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最近策定された漁業セクター開発計画では、小規模インフラ(港)、魚の加工保管倉庫(保冷施設)などの推進を掲げており、これへのサポートが必要である。</li> <li>・ マプトの漁港では、日本の水産無償により約 13 百万ドルで港の施設のリハビリが行われた。他の漁港のリハビリ支援も必要である。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Master Plan of Fishery Sector</li> <li>・ Brochure of Ministry of Fishery</li> <li>・ Strategic Plan for the Artisanal Fishers Sub-Sector (PESPA) April 2007</li> </ul>  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 19 日(金) 10 時-11 時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Small Industry Development Fund (FFPI: Fundo de Fomento da Pequena Industria)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Apolinario Panguene (Executive Director)  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FFPI は 1990 年 3 月の Decree によって設立された、工業商業省傘下の中小企業向け金融支援を行う機関である。ただし、現在でも同省の下に位置づけられ、若干の予算が降りてくるものの、2002 年 12 月の改正 Decree により、Private Limited Liability Company となったこともあり、人件費その他のコストのほとんどは、金利による収益でカバーしなければならない。</li> <li>・ 実際にクレジット供与を開始したのは 1995 年であり、マプトに加えてマニカ、ソファアラ、ナンブラ、ザンベジア、ニアサに支所がある。現在の顧客数は約 660 であり、その多くは商店やサービス業が占めている。</li> <li>・ なお、中小企業金融機関として、GAPI や NovoBanco が競争相手であるとの意識を持っているとのこと。</li> </ul> <p>&lt;クレジット・ライン&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在提供している 6 つのクレジット・ラインは、全てドナー (AfDB、世銀、SIDA) による資金供与から原資を得ており(合計 400 万ドル)、貸付条件、対象地域・業種も各ドナーが出してきた条件にそのまま従っている。</li> <li>・ 例えば、AfDB 拠出によるものはソファアラとナンブラの 2 州で漁業関連企業のみを、また世銀の資金ではニアサの小企業のみを対象とするといった具合である。</li> <li>・ ローンの前平均額は 1 万ドル前後であり、金利は年 20% 程度となっている。借り際には担保が必要となるものの、モザンビークでは個人による土地所有が認められていないため、これを満たすことが出来る中小企業は皆無に等しい。そのため、実質的には各地域の行政による保証を企業が得ることで、貸付を行っている。</li> <li>・ 返済率は、Sofala でのクレジット・ラインで 95% という数字がある。他はよくて 85% 程度であり、Nampula のように広大な州でスタッフの目も行き届きにくくなる場合には低い返済率となっていることは否めない。</li> <li>・ また、新規の顧客開拓のための情報は、業種別 Association を通して行うことが多い。中には登記もされていない所謂 Informal Sector の企業が多く、それら企業にはまずは登記を済ませよう指導している。なお、手続きに要する時間はここ 1~2 年で大幅に改善され、数日あれば可能である(ライセンスの供与は別申請が必要)。</li> <li>・ なお、特に地方では FFPI の顧客となる事業主は字が読めないケースが多い。そのため、各クレジット・ラインを説明したパンフレット等は作成せず、口頭で説明することにしている。</li> </ul> <p>&lt;非金融支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ FFPI のこれまでの経験から、非金融支援を受けた企業のパフォーマンスや返済率が受け</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>ていない企業よりも良好であることは明らかであり、可能な限りビジネス・プラン作成、マーケティング、品質管理、経理事務といったアドバイスを受けることを顧客に勧めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>FFPI のスタッフも若干のアドバイスを行ってはいるものの、選任スタッフがいるわけではなく限界があるため、AIMO 傘下の CADI や CTA、Enterprise Mozambique といった組織との連携を行っている。</li> <li>なお、同じく商工省傘下の組織で中小企業向けのトレーニングを実施していた IDIL は、近いうちに組織が廃止されることが決定している。新たに策定された中小企業政策では、非金融支援のために Institute for Supporting SMEs という組織を設立することになっており、これが設立されると FFPI も吸収され、金融・非金融支援を扱う一つの組織が誕生することになっている。ただし、新組織の設立はドナーからの資金供与があればという条件付きであり、計画のみ存在する状態で、動き出すのは早くても 2009 年以降になる見通しである。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>面談した Executive Director は、もともと AIMO のボード・メンバーだった人物であり、民間出身である。そのため、再び民間に戻ることを希望しているとのこと。実際に、天然ガス会社の幹部ポストの誘いをうけているようであり、半年後には交代している可能性が高い。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>FFPI Briefing、Organization Chart</li> <li>Budget 2007、MIC Operation Cost per Sector、</li> <li>Summary of Budget for MSME Strategy Implementation</li> </ul>  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 19 日(金) 11 時 15 分～12 時 15 分   |
| 2. 場所    | ヨハネスブルグ   |
| 3. 機関名   | JETRO   |
| 4. 先方対応者 | 岡田次長  |
| 5. 当方出席者 | 吉田、今村(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;モザンビークの経済見通し&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この数年、7～8%台の成長を続けているが、その大半は MOZAL とガス田といった大規模プロジェクトが引っ張っているのが現状</li> <li>一方で、投資が入り、マクロ経済が安定することで、通貨高が維持され輸入が増えるため、消費財が増加するという状況にもある。結果として貿易赤字が拡大している。</li> <li>また、MOZAL 関係のサービス産業も発生している。たとえば、アルミ輸送のための車両メンテナンスサービスなどである。一方で、アルミそのものに関係した裾野産業などの発展は困難であろう。</li> <li>モザンビーク全土にわたって、電気、水、道路などのインフラが不足している状況にあり、輸出振興は難しいだろうというのが大方の見方である。かつて、MOZAL の影響で投資熱、輸出熱が高まったが、こうしたボトルネックのためにさめつつあるのが現状。マルハも、加工技術、インフラの未整備による加工産業の限界から撤退した。なお、インフラという点では、特に南部アフリカ全般で電力不足が深刻。南アですら輸入し始めたところ。</li> </ul> <p>&lt;開発の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミネラルの点では、中部(バイラ付近)で石炭開発が進んでいる。良質の石炭は輸出、燃料炭は、その場で火力発電用として使用するという組み合わせを計画していると聞いている。ただし、港までの輸送のための鉄道網の整備が必須である(トラック輸送は割に合わない)。</li> <li>一村一品という視点では、各村の特産品という可能性はありえると考えられる。ただし、輸出振興ではない。南部アフリカでは食料が不足傾向にあり、こうした点を補う形での一村一品もありえるのではないかと。また、大工場への供給という点での特産品開発もありえる。工場の裾野、スーパーの裾野産業という点での食品加工業などが考えられる。</li> <li>日本企業支援という視点では、モザンビークでは MOZAL しかないのが実情。三菱商事は、BHP BILLITON を通じて、環境負荷軽減、無事故に関する考え方、施策を学んでいるところと聞いている。</li> <li>南アでの官民連携という点では、理論的には十分ありえるが、民間企業とのスピード感の違いは顕著である。自動車業界など、次年度の新車投入に向けた早急な改善を希望</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>するというような即応を必要とする状況である一方、官のやり方は 1 年程度をかけて準備、調査するというスケジュールである。</p> <p>&lt;JETRO による支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ JETRO では、1999 年ころから現在に至るまで、生産性向上、改善に関する専門家を派遣し、トヨタ、日産などからの要望を受けて、その関連企業への指導を行なっている。しかし、ニーズは大きい、敢えて実施してほしいという程度ではない。彼らは独自でも対応できる能力を十分に有しているのが実際であり、工員養成においても独自のアカデミーを開設していることが端的に示している。</li> </ul> <p>&lt;CSR&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業 CSR という点では、従業員の安全のためには、地域の安全が必須という考えからきている。しかし、そこまで企業でカバーできないというロジックで官へアクセスしたというのが実際であろう。ブリジストンも地域の学校支援を行なっていると聞いている。</li> <li>・ CSR は、相互の定義の仕方によるところが大きい。官にすれば開発支援であっても、企業側にとって見れば、本業に関連するという必要性から生じていることもある。</li> <li>・ 南アは産業政策を検討しているところ、と聞いているが、政府の人材不足は深刻であり、実施は相当の困難を伴うと思われる。鉱山開発などは地域の形成にもつながるため、学校や医療などとの組み合わせで権益を取得するというシナリオが最適であり、そこで官との連携も生まれる可能性がある。</li> </ul> <p style="text-align: right;">以上</p> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進出日系企業リスト</li> <li>・南部アフリカ情報(新聞記事の抜粋)</li> </ul>  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 19 日(金) 11 時 45 分～12 時 30 分  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Ministry of Labour   |
| 4. 先方対応者 | Ms. Nordestina Sitole, Directorate of International Cooperation  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;戦略&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2006 年 3 月に新たな National Strategy for Employment が策定された。</li> <li>・ 重点分野は、雇用の促進、女性の職場での地位向上、職業訓練の強化、児童雇用対策の実施である。雇用に関しては、特に女性や障害者といった社会的弱者が職を得るには困難な状況にあるため、これら人材が自ら起業するようなサポートの実施を考慮中である。</li> </ul> <p>&lt;実施&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略は策定されたものの、政策を実施するには予算が無く、ドナーによる協力に頼らざるを得ない状況にある。そのため、国際協力局では各ドナーに新戦略のプロモーションを行い、優先分野を説明するなどしている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 19 日(金) 14 時～15 時   |
| 2. 場所    | ヨハネスブルグ   |
| 3. 機関名   | 三菱商事  |
| 4. 先方対応者 | 西山機械部長、池田金属部長、三船金属部アシスタントマネージャー   |
| 5. 当方出席者 | 団長、今村(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;MOZAL 進出の経緯&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モザンビークは、現状 MOZAL 以外は何もないといってよい。もともと、モザンビーク政府の優遇措置(法人税実質ゼロ)により、現地に工場を設置したのが背景。原料は豪から輸送し、モザンビークで製錬しているが、アルミ製錬のコストは、3 分の 1 が電力であり、豪からの輸送費はたいしたものではない。現状、南ア ESKOM からの電力供給は総コストの 10 分の 1 程度であり、また、アルミの価格高騰もあって、十分な利益を上げている。</li> <li>・ アルミの仕向け地は欧州である。もともと、相場商品でもあり、MOZAL への出資決定に</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>当たって、日本向けにこだわったわけではない。</p> <p>&lt;CSR 活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>MOZAL による CSR は、MCDT (Mozal Community Development Trust) を通じて行なっている。MCDT は、MOZAL からは独立した組織で、毎年約 6 億円の出資を受け、専任職員により支援策の発掘、審査、実施を行なっている。MOZAL の半径 20km を対象地域として、小規模ビジネス、教育、保健、衛生等を対象としている。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークの可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資源がある以上は魅力があるといえるが、現在、モザンビークでは、何があるのかすらわかっていない状況である。リン鉱石や石油もあるといわれているが、現状は出ていない。経済開発ファクターに乏しい国の 1 つであることは間違いない。</li> <li>経済インフラの不足も深刻である。MOZAL が全電力供給量の 6 割を消費しているが、ジンバブエ国境のカボラバッサダムから 2,000km のグリッドにより送電しているものの、ロスが大きい。また、送電ルートはジンバブエ、南ア、スワジランド経由でモザンビークに送られているが、ジンバブエが電力購入料金を支払えない状況が続いているものの、送電ルート上は送らざるを得ず、モザンビークとしては未収金が積み重なる状況で送電しているのが現状である。</li> <li>港湾インフラとしては、マプト、ベイラは深度が浅く、大型船には不向きである。石炭を欧州に出すには 6 万トン級が採算上必要であるが、その時点でこの 2 港は使えない。浚渫を続けているが、その容量の問題もあって追いつかず、結果的に経費としても魅力が薄い。一方でナカラは天然の良質港であるといえる。</li> <li>ただし、石炭などミネラルの積み出しには港までのインフラ(鉄道)が必要であるが、地域的な現象として降雨による洪水が多く、本年初も洪水が発生し鉄道が流されるという自他が発生している。その意味で、経済インフラへの投資も慎重にならざるを得ない状況がある。</li> <li>観光資源はあるものの、やはりインフラの問題が大きい。陸路で野移動には四駆が必須であるし、電気、水なども行き渡っていない。またペンバへの航空賃はマドリッドへの航空賃よりも高いなど、価格的にも魅力がそがれる状況がある。</li> <li>官民連携という点では、具体的には思いつかないが、双方でやらざるを得ないという認識はある。MOZAL と連携するのであれば MCDF と関係して実施することも一案だろう。また、技術者、教員不足も顕著である。</li> <li>また、モザンビーク、ザンビアではサトウキビを活用したバイオ燃料の可能性もあるほか、南アでは脱硫などの環境技術の移転も重要な支援分野である(日本を 10 とすれば南アは 2 というところ)。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 2007 年 10 月 19 日 16 時～17 時、11 月 5 日(月) 14 時 20 分～15 時半   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | General Union of Cooperatives (UGC)   |
| 4. 先方対応者 | Dr. Fernandes Domingos, Executive Director  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳):10/19、舟橋、キムラ(通訳):11/5   |
| 5. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内戦と貧困にあえぐ女性のための組織として 1980 年に設立された。当時は 7 つの組合(総会員数約 250 名)だったものが、現在では 175 の組合(総会員数約 5,000 名)で構成される上部組織(UGC は日本でいうところの事業協同組合或いは企業組合である小規模組合をまとめる協同組合連合会のような組織)である。今でも会員の 95% が女性である。</li> <li>組合会員からの手数料は、例えば 200 羽のひなを提供するとき、組合会員は 50MT を UGC に上納する。各組合は、自主性をもって経営されており、独立採算である。これが UGC という連合会によってゆるい結びつきでつながっている。</li> <li>組合会員の事業の中でメインの産業は農業、畜産だが、組織が大きくなるにつれて他分野にも進出した。今では、野菜、フルーツ(バナナ、マンゴー等)、花卉、カシューナッツの他、鶏、牛、ヤギ、豚などを扱う。また、苗を育て組合に配布するサービスも行っている。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>1983 年にモザンビークで史上最悪と言われた食料不足となった折、マプトを救ったのは UGC のキャベツだったと今でも語られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、上記以外に、組合員に資金を貸し付けるマイクロ・クレジット機関を有し、高校(1ヶ所)、商業学校(1ヶ所)、訓練センター(2ヶ所)を運営する。学校は当初組合員・スタッフの子供のみが対象であったものの、今は誰でも入ることが出来る。訓練センターは、学校に行けなかった若者を対象に UGC の事業に関連した訓練を行っており、座学の他、企業での実地訓練もある(日本政府が 82,000 ドルの機材を供与)。</li> <li>さらに、病院(4ヶ所)、ラジオ局も運営している。</li> </ul> <p>&lt;主要事業&gt;</p> <p>(1) カシューナッツ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>苗を育てる施設、プランテーション、加工施設を有し、イタリア、スペインに輸出も行っている。</li> <li>加工施設は収量からすると1ヶ所で十分なためマプトのみに設置し、マプト郡だけでなくナンブラヤガザといった都市からトラックで運んでここに集約し、加工している。ただし、せいぜいナッツにピリピリや塩を加える程度までの加工が現在の限界であり、さらなる加工工程の実施には、技術・施設共がないのが実状である。アイデアとしては、現在、ブラジルから輸入されており割高となっているジュースを加工・製造するなど、いくつかある。(他の事例は確認できず)</li> </ul> <p>(2) 養鶏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全国で最大規模(年間3百万羽)の設備を備え、UGC 会員組合からの鶏肉を AMA(モザンビーク養鶏業協会の頭文字)ブランドとして卸している。主に国内消費用。飼料のほとんどを輸入しておりコストが高いものの、最も低価格で鶏肉を市場に供給している。施設としては、飼料工場、卵の孵化施設、ひよこを鶏に育てる施設、解体施設を有する。</li> <li>ただし解体といっても、部位ごとに切り落とす段階にも行かず 1羽単位で販売している。部位ごとに解体したほうがより価格は高くなることは分かっている。さらに鶏肉をウィンナー、ハム、ハンバーガー、ソースを注入するなど、より加工を加えたものが売れるであろうという感触も掴んでいる。しかし、プラスチック・トレイ、パック用ビニール、秤など部位ごとに解体した鶏肉をパックするための基本的な機材が国内にないため、出来ないでいる。</li> <li>なお、ブラジルからの鶏肉が多く入ってきているものの、ブラジルも同様に 1羽単位で輸出しており、解体・パックは南アで行われている。そのため付加価値の多くは南アに落ちているというのが実際に起こっていることである。</li> </ul> <p>&lt;ドナー協力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>UGC が支援を受けているドナーとしては、イタリアとスペインである。専門家が派遣され、UGC の組織改革に関する協力を行っている。また、アフリカ開発銀行からの融資を受け、灌漑施設整備、加工機械購入、肥料購入などに充てた。現在返済中である。支援前にはカシューナッツの収量 6 トンだったものが、現在は 75 トンとなっている。なお、農業省には国際機関などの支援をうけると、仲介役として、交渉が円滑となるような支援を受けている。</li> <li>日本に対しての要望は、加工部分について今後改善すべきことがたくさんあるため、例えばカシュー・ジュース作りなどを支援して欲しい。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | なし   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 22 日(月) 9 時～10 時 30 分  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | World Bank   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Boris E. Utria, Sector Leader, Sustainable Development Department  |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、キムラ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;モザンビークのポテンシャル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モザンビークは急速に発展している国であり、回廊整備、エネルギー、港湾リハビリ(ナカラ、ベイラ、マプト等)のメガ・プロジェクトが今後も目白押しである。例えば、エネルギー分野では現在計画されているものだけで 20 億ドル強の投資が必要であり、パンナンクアの発電施設単体でも 10 億ドルと試算されている。農業に必要なインフラも灌漑、道路等、今</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>後 10 年間で 50～100 億ドル規模の投資が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、バイオ燃料にもポテンシャルがある。この分野で知られているのはブラジルであるが、モザンビーク国内の農業生産を考えると、ブラジルと同規模のレベルにはすぐ追いつけると考えている。原料としてはサトウキビだけでなくジャガイモ、メイズ、マンゴーなど、国内で生産されている様々なものが考えられる。食料を燃料生産にまわすと国民用の食料が足りなくなるのではという懸念については、例えば現在でも大量のフルーツが輸出用に港の倉庫に保管されたまま各種手続きの遅れで腐ってしまう状況が多々見られることもあり、これら無駄にされている部分を活用するという考え方も出来る。なお、ギニア・ビサウではインド企業がカシューナッツの皮を燃料にしている例もある。</li> <li>なお、メガ・プロジェクトでは見過ごされている分野として自然災害対策が挙げられる。この分野への対応は非常に重要であり、日本のように地震などの経験が豊富な国への期待は高い。</li> </ul> <p>&lt;モザンビーク政府の問題点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政府は必ずしも透明性が高いとは言えない。例えば、パンナンクア・ダム発電施設の入札に際して、政府幹部が関係している企業が落札しており、適正に参加する民間企業を審査することが困難なデュー・デリジェンスの問題に直面している。</li> <li>政府はメガ・プロジェクトのそれぞれに 20% の出資をしようとしているが、このような問題のために世銀も（資金の用意はあるが）投資を控えざるを得ない状況である。</li> </ul> <p>&lt;世銀のプログラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Country Partnership Programme では 3 つの柱が設定されている。このうち Sustainable &amp; Broad Based Growth の分野では、政府のキャパシティ向上等を通じた Strengthened Economic Growth Potential のプログラムや、Starting business の円滑化（登記日数の短縮化、コストの軽減等）、中小企業金融の拡充（FFPI への資金供与等、なお同じく金融へのアクセスを目的とした Enterprise Development Project は既に終了している）、ICT 化の促進を進める International and Local Business Enabled プログラムを実施している。</li> <li>ただし、世銀として TA は直接行わず、資金を供与し実施は他機関との連携という形を採用している。また、連携機関がモザンビーク側の組織である場合、詳細設計は世銀でやって内容を特定してから資金を供与している。</li> <li>なお、世銀内部の Department の担当割り若干変更している。面談者はエネルギー、農業、社会開発など多様な分野をみる部署のヘッドであり、他に法律、政策に絡んだ Enabling Environment や民営化に関する内容を扱う Private Sector Department などがある。これは現行戦略をより円滑に進めるための内部組織変更であるため、これに伴う戦略の見直し等はない。</li> </ul> <p>&lt;ドナー・コーディネーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モザンビークでは他国以上にドナー間の連携が活発に行われている。例えば、面談者が議長を務めるエネルギー関連のドナー・コーディネーションでは、主なドナーとして EU、スイス、フランス、ノルウェーが参加し、毎月 1 回はミーティングを開催している。目的は、ドナー同士が同じ協力を実施することを避けるのはもちろんのこと、モザンビーク政府との政策対話をドナー全体として推進するという意味合いがある。これは他分野でも同様であり、JICA が民間セクター開発など新しい分野に参入するならば、いつでもウェルカムである。</li> <li>エネルギー分野の議長としては、あまりにも多くのことがなされており誰も全体像を把握していない状況に陥っているため、ドナー協力のマッピングを行うことの必要性を感じている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・The World Bank Group in Mozambique</li> <li>・Mozambique Country Partnership Strategy</li> </ul>   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 22 日(月) 8 時 30 分～ 9 時 30 分             |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | 観光省  |
| 4. 先方対応者 | Mr.Romualdo Karmo, Chief of Cooperation Department |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)                                   |
| 6. 面談内容  | <組織概要>   |

|        |   |
|--------|---|
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観光省の職員数は約 200 名である。</li> <li>・ 観光については、いろいろな資源があるが、特に北部の観光地は道路などの整備状況が悪いので、インフラとともに開発を促していくことが必要である。</li> <li>・ また、2008 年には、SADC で Regional Integration という EXPO で、モザンビーク製の産品をプロモーションするフェアが開催される予定である。</li> </ul> <p>&lt;観光政策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国全体として観光開発計画は、2025 年までの計画がある。観光は、経済開発にとって大事な位置を占めている。観光省自体は設立されて 5 年足らずであるが、戦略プランを作成している。そのなかで、次の 5 つを重視している。       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人材育成:ホテル運営を勉強する大学を3つ設立する予定がある。また、レストラン、ウエイターの育成も念頭においている。そして、環境保護区については、内戦などでダメージを受けているので、インフラなどを作って保護する必要がある。その人材育成にも力をいれるつもりである。</li> <li>(2) 環境保護区を守ること</li> <li>(3) コミュニティディベロップメントプログラム(農村部の開発で、動物と人々の生活との共存をはかること。)</li> <li>(4) 投資の勧誘などによるホテル建設</li> <li>(5) 観光のプロモーション</li> </ol> </li> <li>・ 現在動物保護区などの観光収入の 20%が、周辺コミュニティの生活改善の資金として還元されている。(環境税の 1 種)</li> <li>・ また、観光プロモーションについては、我々は余力がなく、知識も乏しい。この部分に日本から支援をして欲しい。</li> <li>・ モザンビークにおけるホテルの運営は、中小規模のものは、モザンビーク人が行っている。大規模のものは、外国人もいる。我々は、できるだけモザンビーク人と一緒に JV をすることを薦めている。</li> </ul> <p>&lt;観光政策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マプト回廊周辺の観光開発については、南ア、ジンバブエにまたがる SDI、マプト州南部の ELEPHANT RESERVE、ザンビアとの国境付近にあるリンポポ国立公園が中心的な観光地である。とくにリンポポでは、動物が国境を越えて自由に行き来している。</li> <li>・ 観光客用のおみやげ物について、統一的な規格はなく、みやげ物店として許可を発行するようなシステムは現在のところない。カシューナッツだけ現在証明書が発行されている。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | ・Strategic Plan for the Development of Tourism in Mozambique 2004-2013  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 22 日(月) 11 時 15 分～12 時 30 分   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | National Institute for Employment and Vocational Training (INEFP)   |
| 4. 先方対応者 | Ms. Abiba Maseguece Bacon Abada Tamale, Director General<br>Mr. Rogerio Membewze, Director of Employment<br>Mr. Fabias Manguisa Bazima, Director, Center for Electro-technique Vocational Training  |
| 5. 当方出席者 | 澤野、今村、舟橋、今井、キムラ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ INEFP は労働省傘下の機関であり、全国 8 ヶ所(Tete, Capo Delgado, Zambezia, Gaza 以外の州に存在)の職業訓練所を管轄するほか、日本でいうところのハローワークである雇用センター(全国に 23 ヶ所)での就職支援も行っている。職員数は 100 名弱であり、本省から降りてくる予算は限られている。そのため、訓練所でのフィーが重要な運営資金となっている。受講料は 1 講座 Mt200 であり、地方自治体から貧困層にあることを証明されれば無料となる。(なお最低賃金は、工業、商業、サービスで 1600Mt/月、農業、畜産で 1400Mt/月)</li> <li>・ 職業訓練の対象者としては、失業中で職を探していると雇用センターに登録した人材が優先的に受講することが出来、空きが出る場合には、公募でその他の人材を受け入れることにしている。ただし、18 歳以上、7 年間の学校過程を終えていることが最低条件として求められる。一般的に受講者の学歴は低く、高卒文型の人材は手に職がないこともあり</li> </ul> |



|         |   |
|---------|---|
|         | <p>職を得にくいと、トレーニング期間が比較的短い公的訓練所でコースを受講し、手取り早く職探しに活用するといった傾向が見られる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、民間の大企業から委託を受けて、INEFP に隣接した Center for Electro-technique Vocational Training で、従業員のトレーニングを行うケースもある。主な顧客は、Mozal、Sasol、Maragra Sugar Mill、Kempe、Coca Cola、Xinavane Sugar Mill、Mittal などである。</li> </ul> <p>&lt;新戦略&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新たに2015年までの雇用職業訓練戦略が2006年に策定された。ここでは特に若年層の雇用創出に重点が置かれ、目標は100万人の新たな雇用創出である。総予算は1億7,500万ドル。2007年の目標は、全国で年間2,500人の雇用を生み出すことであり、2007年9月30日までに1,900人が達成されている(1グループ12~16人で期間は3,6,9ヶ月の3種類がある)</li> <li>職業訓練分野の新しい方針としては、民間の訓練所との連携があげられる。現在のところ、全国に120の民間訓練所、16のトレーニング・センターが存在しており、これら機関とのネットワークを構築するべく動いている。まず民間訓練所の動向把握のためにINEFPへの登録制とし、3ヶ月ごとに報告書を提出することを義務付けている。また、各訓練所間の情報交換をより活発に行うための施策も実施予定である。現時点では、機械訓練センターのCAD、ITコースでAIMOとの連携の事例もある。</li> <li>また、政府5ヶ年計画、PARPA IIでも強調されている民間セクターのニーズに適合した人材の育成という点については、まず三者(官、民、労働者が参加)会議の開催が方針として打ち出されている。今のところ実現はしていないものの、ここで民間ニーズの吸い上げを期待している。</li> <li>さらに新たな試みとして、訓練の修了者が定職に就くための企業での実習を始めている。これは最初の6ヶ月までは国が費用の75%を負担するというものであり、これまでに4州で1,000人ほどが利用した。また、徒弟工として見習いで企業に入るという制度も始め、こちらは12ヶ月間であり、その後同じ企業に正式採用されるケースも出てきている。</li> </ul> <p>&lt;コース&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コースの内容により参加者の差が大きい。例えばIT、電気関連のコースは人気が高く、常時定員以上の応募者がある。一方で、配管、ブロック作りといったコースは不人気で人が集まりにくい。</li> <li>最近の新しい試みとしては、失業者が雇用されるのではなく、自ら起業することが出来るようなノウハウを身に付けるといった視点をコースに取り入れている。これについてはILOの協力を受けており、Trainers' Trainingのパッケージを活用しながら講師を養成している。また、観光分野ではモバイル訓練としてホテル等でコック、ウェイターのトレーニングを実施もしている。</li> <li>各州の訓練所では、それぞれの州の特色に合ったトレーニングを実施するようにしており、例えばマニカ州では農業中心のカリキュラムが組まれている。</li> </ul> <p>&lt;センター内視察&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>INEFPに隣接されたCenter for Electro-technique Vocational Trainingでは、主に大企業からの委託研修を実施している。MOZALを始めとして、外国直接投資による企業も多いため、英語でのコースも行っている。講師はAfrica Training Technologyを通して派遣されてきており、主に南アから来ている講師が多いと見受けられた。</li> <li>産業界からのニーズが高い分野としては、冷凍、機械修理・維持管理、自動車、PLC等の機材の使い方が挙げられる。</li> <li>なお、センターは5Sが行き届いた工場のようにきれいで、工具類がストックされている場所も整頓されていた。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Strategy for Employment and Professional Formation in Mozambique 2006-2015(ポルトガル語)</li> <li>・2007年カリキュラム(ポルトガル語)</li> </ul>   |

|        |                              |
|--------|------------------------------|
| 1. 日時  | 2007年10月22日(月) 14時30分~15時30分 |
| 2. 場所  | マプト市郊外(マントラ)                 |
| 3. 機関名 | Pintex(塗料製造会社)               |

|          |   |
|----------|---|
| 4. 先方対応者 | Mr. Mumbaraque Abdulrazac 社長  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1965 年に民間企業として設立された。1975 年の独立後、一時国有化されたが、1996 年に民営化された。競争入札で現社長が購入することになった。</li> <li>・ マプト市周辺に製造業者は 4 社あるが、純粋のモザンビーク資本の会社は Pintex 社のみである(ただし、社長は南アジア系のルーツを持つモザンビーク人、その他はモーリシャスからの技術供与、ポルトガルからの資本等を受けている)。</li> <li>・ 90%以上がマプト周辺向けであり、輸出も一切実施していない。</li> <li>・ マプト周辺の市場の大きさは、年間 3 百万リットル程度と考えられており、Pintex 社の市場シェアは 30%程度である。その他の会社もほぼ同規模である。また、南アフリカからの輸入品との競争にさらされている。品質は南ア製のもののほうが良いが、Pintex・国内のものの方が価格が安い。</li> <li>・ 従業員は 60 人、うちパートが 4 人。技術者に関しては、南アの塗料業者に研修に出した。国から指定された最低賃金を上回って支払っている。従業員(工場作業員)の学歴はスタンダード 6~9 年卒業が平均である。また、大学(社長の母校)からインターシップ生を常時引き受けている。ただし、必ずしも就職には結びつかない。</li> <li>・ (「品質の確保・商品改良は如何に実施しているのか?」という問いに対して、)全てに際して需要を考えてビジネスをすることが大切と考える。商品改良に関しても、消費者からのコメント・苦情があった場合に品質を見直している。消費者からのコメント・苦情があった場合に品質を見直している。</li> <li>・ 顧客は、金物店が 60%程度、建設会社が 20~30%程度である。</li> <li>・ 塗料の製造コストの 80%は原材料。20%は管理費等の内訳は、人材 60%、電気 5%。水 3%等である。</li> <li>・ PVA、エナメル、産業ペンキ、ニス等の種類を製造。高品質、低品質でも分けている。</li> <li>・ 安全管理については、制服着用だが、手袋、マスク等は着用していない。</li> </ul> <p>&lt;ビジネスの阻害要因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気については、停電が激しく、特に夏は非常に不安定であるなど、大きな課題であった。機械が動かさなくビジネスをストップせざるを得ないことが頻繁に起きたが、この問題は 8 割方解決したが、現在も停電はある。また、他国との比較では分からないが、電気代が高いと感じている。</li> <li>・ 水については、限られた時間(一日 6~7 時間)にしか水が出ず、頻繁に断水する。</li> <li>・ 原材料は色素、賦形剤、乾燥剤等であるが、ほとんどは南アフリカから輸入される。月に 1~2 回のトラック輸送及びダーバン港から船便が年間 4 回程度、またエジプトからも仕入れているものもある。さらに、ペンキを売る容器(バケツ等)も南アからの輸入である。チタンも南アから現在輸入されているが、最近モザンビーク北部でも採取できるという話がある。チタンは高価であるため、輸送費等を考慮して国内産が安ければ切り替えたいと考えている。</li> <li>・ 輸送インフラについては、北部にも輸出したいと考えているが、北に輸送する交通網(道路)が全く整備されていないので交通費が高くなり困難である。船で輸送する場合でも、マプト港からベイラやナカラ港への輸送はマプト港-ダーバン港の輸送の 2 倍以上といわれている。</li> <li>・ 港湾での手続が煩雑であることによる延滞がよく起きている。</li> <li>・ ファイナンスの点では、新しい機械を買おうにも、金利が高いので借りられない。運営に当たっても、取引先企業(南ア企業)から 60 日間のサプライヤー・クレジットをもらってまわしている。製造機械は、国営企業時の機械をそのまま使っているため老朽化している。例えばエナメルを製造するのにここでは 24 時間かかるが他国にある新しい機械では 2~3 時間で製造されていると聞いている。</li> <li>・ SADC との自由貿易圏が設立されるのが心配である。現在は塗料の輸入品に対して 20%の関税がかかっている(原材料の輸入には 7.5%。社長によると、これは SADC の自由化でも下がらない)が、それがなくなったらモザンビーク企業に勝ち目はない。</li> <li>・ 資金がないため、広告費用は費やせない。ロコミ等に依存している。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>原材料を国内のものを使う(例えばカシューナッツからのオイル)可能性に関する調査を実施したい。この分野で支援があるとありがたい。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月22日(月) 15時～16時  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Italian Cooperation   |
| 4. 先方対応者 | Mr.Losario Marapusse, Local chief in charge of Private Sector   |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織・活動概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>イタリア政府は、SUPPORT TO PRIVATE SECTOR というプロジェクトで、農業関連の中小零細企業をサポートしているが、このプロジェクトは、4年間の期間を経て、本年12月に終わる予定である。</li> <li>全体の予算は、5.39百万ユーロ、1件あたりの融資最大額は、5万ドルである。主にプロジェクトは、洪水で災害にあった地区の農業関連の企業に対して低利(10%以下)で融資していく仕組みである。</li> <li>いままでに約100社への融資を実施した。返済期間は4年間、すでに返済を始めた企業もある。現在返済状況は順調である。</li> <li>融資は、産業貿易省の民間セクター支援局を通じて行なわれている。この資金は、リボルビングファンドであり、産業貿易省がその運営をすることとなっている。融資先についても彼らが探して行っており、我々はそれを承認するのみである。</li> <li>融資企業の所在地としては、マプト州が全体の3割、その他は、イニヤンバネ州とガザ地区である。精米や、貿易関連そして農民組合などにも融資している。また、本プロジェクト以外にも、COMMODITY AID という農業機具などを無償で提供するプロジェクト(20万ドル)なども実施している。</li> <li>イタリア政府は、主としてラテンアメリカとアフリカに重点を置いている。また、プロジェクトベースでなく、国家予算に直接援助するようなスキームも持っているが、これを実施しているのは、イタリアのみである。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | なし。   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月22日(月) 15時～16時   |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | United Nations Development Programme (UNDP)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Ndolamb Ngokwey, UN Resident Coordinator/UNDP Resident Representative<br>Ms. Naomi Kitamura, Deputy Resident Representative<br>Mr. Ngila Mwase, Senior Economic Advisor, Economic and Policy Analysis Unit   |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、キムラ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;Trade &amp; Private Sector Development&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同プログラムでは、貿易政策、輸出戦略に関する協力を行っている。商工省をカウンターパートとして、特に法制度面での環境整備を行っている。政策ペーパーは単にコンサルタントを派遣して作成しているのではなく、あくまでも商工省とのパートナーシップでスタッフのキャパシティ・ビルディングも考慮している。なお、策定中の政策には、特定産業、例えば漁業を取り上げて、その加工品の質を上げるための施策についても盛り込まれる予定である。</li> <li>また、海を隔てた別地域との貿易だけでなく、近隣国との Internal Trade Promotion が重要だと考えている。SADC の Trade Protocol では Common Market for Eastern and Southern Africa (COMESA) というイニシアチブを通して、関係政府職員のキャパシティを向上させる動きがあり、これを活用した協力も可能性がある。</li> </ul> <p>&lt;Sustainable Business Development&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同プログラムでは、現行法では投資家の負担が大きい労働法の改正、投資家のための</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>One Stop Shop 設立などを目指して協力を進める予定でいる。また、中小企業に関連した案件としては、スペイン政府の資金による職業訓練がある。ここでは借り手である企業のみならず、マイクロ・クレジット機関、信用金庫といった貸し手、さらには組合などを対象にして、それぞれに必要なスキルの向上を図っている。</p> <p>&lt;Integrated Support for Local Business&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同プログラムでは、産業、農業、保健衛生といった多様なセクターは相互に関係しているとの認識の下、多面的なアプローチを行っている。まずは Nampula をモデルとしてスタートし、今後は Capo Delgado などに拡げていく予定である。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Secondary School や Vocational School における Entrepreneurship 講座を実施しており、若年層からのビジネス・マインド醸成を目指している。今のところ、2004 年に 4 校でスタートしたプロジェクトは、現在 41 校にまで拡大された。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | なし  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 22 日(月) 16 時～ 17 時   |
| 2. 場所    | マプト  |
| 3. 機関名   | 日本大使館  |
| 4. 先方対応者 | 三木大使、山西三等書記官   |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、キムラ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;政府の政策とドナーによる支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今まで BHN に重点が置かれ、産業振興には手が回らない状態であったが、SADC における関税撤廃(2008 年 1 月から)、力が入るようになってきた。しかし、簡単ではないことは承知している。メガプロジェクトが振興し、成功を収めているが、持続的な経済発展という意味では、地場産業の振興が重要である。</li> <li>USAID による MF など民間支援事業を実施している他、民間企業ベースでも進出があるが、採算が第一であり、質の高い労働力の不足、インフラの不足、労働法の制約など、企業活動におけるボトルネックが多いのが現実である。</li> </ul> <p>&lt;一村一品&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一村一品という視点では、商工大臣等関係者に対して、同運動のアイデアを各地方に徹底し、有望製品の特定を進めるよう進言しているが、具体的にどのように進めるかというところまでとまっているのが現状である。質の向上策など、有望製品を集めてどうするかという計画立てが必要である。</li> </ul> <p>&lt;ナカラ回廊と北部地域支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナカラ回廊については、道路、鉄道というインフラが整備されれば、ベイヤに流れている物流が戻ってくると考えられる。</li> <li>道路のリハビリについては、早急な実施を望んでいるものの、詳細設計の資金繰りにおいて、デッドロックに乗り上げている。</li> <li>同州は、人口も多く、農業の盛んな地域でもあり、こうした点での開発にポテンシャルがあると考えている。しかし、インフラが弱く、治水を含めた水の管理が重要である。</li> <li>また、モザンビークでは、ベトナムとの三角協力についての検討が進められており、ザンベジア州に調査団が派遣されたところである。生活環境やコミュニケーションの課題もあるところ、ブラジルを含め、こうした三角協力の可能性も検討に値すると考える。</li> </ul> <p>&lt;職業訓練との関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わが国が協力を行なううえでは、職業訓練が1つのテーマとしてありえるが、卒業生を吸収する産業がなければ意味がない。モザンビーク政府としては、不十分な学歴しか得られない低所得層への支援を進め、低技術によって成し得る生業を身に付けさせることを考えているようであるが、日本の得意とする職業訓練は一定の教育を修めたうえでの訓練を想定しており、モザンビーク政府の要望に応えることは難しさがあることを伝えている。なお、こうした Formal から外れた職業訓練は労働省の傘下であり、通常の職業訓練、技術訓練は教育省の管轄にある。</li> <li>また、モザンビークの特性として、ビジネスマインドのある人材が少ないという印象を受けており、こうした人たちをどのようにエンカレッジするのかということも課題である。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>&lt;その他総論&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いずれにしても、調査により示される協力の方向性、成果を実際の活動に結びつけることを、念頭において調査を進めていただきたい。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月23日(火) 9時～10時30分  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Institute for Export Promotion (IPEX)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jose Fernando Jossias, Managing Director<br>Ms. Eduardo Salomao, Head of Department, Trade and Market Information Centre  |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、キムラ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>商工省傘下の輸出振興機関であり、1990年に設立のための法律を制定、1991年に実際のオペレーションがスタートした。スタッフ数は49名、これにはベイラとナンプラの支所にいるスタッフ10名(5+5)が含まれる。</li> <li>主な業務は、政府の輸出振興政策の実施であり、特に他国貿易関連機関(JETRO、ITC等)とのやり取り、民間企業への情報提供、民間企業からの意見聴取、見本市へのミッション派遣、モザンビーク製品のプロモーション(有望企業・製品の発掘とWeb上での紹介)があげられる。</li> <li>地方事務所では、マプトで決定される方針の実施が求められている。具体的には、民間との対話、解決策の提案、輸出手段の指導、市場調査などである。また、コンピューターを設置し、中小企業によるインターネットへのアクセスを可能としている。</li> <li>年間予算は年70万ドル、そのうち35%が人件費、40%が施設維持管理のために必要であり、事業に使える予算は非常に少ない。かつてはIPEXの中に振興基金というものがあり、関税収入の一部を充ててIPEXの組織運営・事業で活用されていた。しかし、1997年に基金を廃止すべきとの世銀の提言があり、1999年に消滅。</li> <li>なお、企業から政府への対話窓口としての機能も果たしている。例えば、マラウイ向けの塩輸出に関連して、鉄道の遅れが問題とされた。よくよく調べると塩そのものにコードが入っていないことが問題と判明、また税関職員が鉄道の到着する時間におらず検査に遅れがあることも判明した。結果的に、商工省、企業、IPEXの話し合いにより税関職員が鉄道到着時刻にいるよう徹底し、それに加えて検査機材を商工省予算で手配することとなった。</li> </ul> <p>&lt;産業の現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重点分野としては、輸出の6割を占めるアルミが目立つものの、国内全土にそのインパクトが行き渡るわけではない。そのため政府5ヶ年計画、PARPA IIでは、国内産業の多様化を目指している。商工省は中小企業の育成を重点課題として位置づけており、どのセクターが有望で、そのセクターを支援するには何が必要とされるかといった事項はおおむね分かっている。しかし予算が少ないのが問題であり、中小企業への支援はドナーからの援助次第である。</li> <li>また、貿易戦略が今のところ無く、アドホックな事業のみが行われている。ただし、ドナーによる協力が出てきた政策を、そのまま受け入れるつもりはない。例えば UNDP の Integrated Framework で取り上げられた政府の問題点は、内容は間違っていないと認めたが、そこに書かれている対策に従うつもりはない。そもそもプロジェクト予算の中に UNDP のコストが30%も含まれているのが納得できないとのこと。</li> <li>なお、産業政策にはセクター別の戦略もある。例えば、林業や食用油などに関する調査を一部コンサルタントに委託して実施し戦略を策定した。</li> </ul> <p>&lt;Made in Mozambique&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在39社が認定されている。認定されるためには、いくつかの条件をクリアし、IPEX、商工省工業総局、関連省庁の間で承認される必要がある。この目的は、国内企業の育成と、国民が自国商品を買うという意識を喚起することが第一であり、必ずしも輸出促進のための活動ではない。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>&lt;一村一品&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元々、大統領が訪日の際に、マラウイ、ベトナムでの日本の協力を聞いたことで感化され、帰国後、商工大臣に指示、IPEX が担当機関として指名された(既にIPEXからAOTS 研修に 1 名参加)。今のところ、来年開催される TICAD IV のフェアに参加し、最低 2 つの製品を展示することを目標としている(カシューナッツと民芸品が有望とのこと)。</li> <li>要請中の専門家に期待しているのは、製品の特定、開発、パッケージング、輸出指導までを、具体的にどう進めていくかを示してもらうことである(ただし調査団より輸出と製品開発等の全てを一人の専門家に求めるのは無理と説明)。既に一村一品の一般的な説明は受け、おおよその流れは理解したものの、具体的な行動が分からないのが実情である。</li> <li>また、大統領が全知事に説明した後、2 つの州(マニカ、カーポ・デルガド)ではアクションプランを作る動きがあるが、実際の策定は専門家待ちの状態である。</li> <li>関連した動きとしては、商工省の農地工業化促進 Unit も、農産物の付加価値増加を目指しており、一村一品と連動して農村部を活性するべく、特別予算をつけることになっている。例えば Made in Mozambique に加えて一村一品のプロセスで開発された製品には、それが分かるような表示シールを付けるといったことが考えられている。</li> <li>なお、一村一品でも重要な要素となる生産者と他事業者との連携について、組合活動の現況から将来的な状況を考えると(社会主義だったこともあり組合という表現にはセンシティブで協会と呼ぶようにしている)、存在はするが機能しているかどうかは疑問ではある。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | ・IPEX Brochure, Export Statistics 2006   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 23 日(火) 10 時～11 時  |
| 2. 場所    | マプト市   |
| 3. 機関名   | S.E. Ginwala Filhos, Lda (食用油、洗濯用固形石鹼)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Filipe de Oliveira, Financial Director(ポルトガル人、経営者の子息)  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1945 年に設立、Grupo InterPortuguese 社から 4 年前に MBO によって購入した。食用油(大豆油及びヒマワリ油)及び洗濯用固形石鹼を製造している。食用油は年間 4,000 トン、洗濯用石鹼は 3,500 トンを製造している</li> <li>主に南部・マプト市周辺の市場に供給している。洗濯用石鹼に限り Niassa 等北部からバイヤーがいる。また、洗濯用石鹼に関しては、クライアントを通してマラウイに輸出されていると聞いている。</li> </ul> <p>&lt;原材料&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大豆は米国及び南米から、ヒマワリは南米から原油の状態で購入している。また、以前はパーム油を製造しており、当時はアジア(マレーシア、インドネシア)から輸入されていたが現在は使われていない。</li> <li>石鹼はココナッツ・オイルを使っており、イニャンパネ州で産出されるものを利用している。本来は距離的に近いザンベジア州からも取り寄せられるが、インフラが悪く輸送費が高いため使われていない。また、タロという動物油は南ア及び中国から輸入している。</li> <li>国内のココナッツ・オイルは 10～15 の仲介者や中規模農家と契約している。小規模農家は仲介者や中規模農家に売っている。</li> </ul> <p>&lt;インフラの問題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マプト周辺のみ自社トラックで供給している。北部からはバイヤーがトラックを持ってきているが、苦勞すると聞く。しかし、近年は改善している。</li> <li>港湾に関しては、原油をバルクで買っているが、保存する場所がないのが問題である。現在保存倉庫を建設中であり来年完成予定。SouthComAfrica が輸入を管理している。</li> </ul> <p>&lt;人材&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従業員は 100 人程度である。ローテク産業であり、OTJ が中心である。</li> <li>新製品開発等の R&amp;D はしていないが、品質管理の試験場がある。</li> <li>年に一回程度政府から労働基準及び環境基準を遵守に関する査察が入る。</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>労働法に関しては、解雇が難しいのが問題であり、そのため短期(6ヶ月)契約にしているが、一度しか更新できないのが問題である。しかし当社は、季節労働者(種子の圧搾)に55人程度必要としているので、契約で問題はない。</li> </ul> <p>&lt;競合他社&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>洗濯用石鹼に関しては、国内に12社あるのみで輸入はない(ローテク、低収益であり、重いので、わざわざ輸入されていない)。市場シェアは15%程度であり3位程度である。</li> <li>現在、石鹼はフル稼働で生産し売り切れているが、これ以上機械に投資をしてキャパシティを増やすのは、同商品が基礎製品であるため、今後国民の所得向上に伴う需要拡大も見込めないため、難しいと考えている。</li> <li>植物油に関しては、国内は10社程度であるが、南ア(ヒマワリ油)やアジア(パーム油)からの製品との競合が激しい。現在は、10%程度の市場シェアを有するが、南アからの植物油の関税は20%が段階的に下がっていくことになっており、今後は不透明である。</li> </ul> <p>&lt;ファイナンス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バイオディーゼルの需要増に伴い植物の原油価格が急上昇しているので原材料価格が上がっており大変である。</li> <li>銀行からのローンは年率が約20%(メティカル建て)と負担が大きいため、サプライヤークレジットに頼っている。</li> <li>マーケティングの費用は殆どない。TV広告のみ実施しているが、高いので難しい。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月23日(火) 11時30分~12時30分  |
| 2. 場所    | マプト市郊外  |
| 3. 機関名   | UGC カシューナッツ工場   |
| 4. 先方対応者 | 工場長、UGC 担当者 Mr. Sambane   |
| 5. 当方出席者 | 青木、今井、スエナガ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>加工の工程は、次のようである。<br/>大きさを選別→煎る→外皮を取る。→乾燥→内皮をけずりとる。→味付け→パッキング</li> <li>13の農業組合からカシューを仕入れている。現在の年間生産量は75トン。1日の生産量は280キロである。2010年までにカシュー園を1200ヘクタールにまで増やす計画あり。</li> <li>カシューの木は、海の近くで育ち、1ヘクタール辺り、125本を植える。7年目の木で、殻込みで大体1300キロの現在量が収穫できる。現在のFOB価格は、キロ当たり、4.5~5ドル。インド、ベトナム、ブラジルなどのカシューナッツを中心に国際価格が決定されている。</li> <li>工場で働いている人数は、担当者75人である。月給は65ドル。1日8時間、月22日労働である。より生産量を上げれば利益があがる。はじめは、年配の女性などを雇っていたが、立ち仕事できついため、今は、主に近隣の若い女性を雇っている。</li> <li>カシューが採れる村でも、大きな鍋を使って煎り、カシューナッツを作ることは可能である。</li> <li>他のより大きな工場は、より機械化されている。昔は、国営の大きな工場があった。</li> <li>現在、7.5万トンは、加工されずにそのまま輸出されている。3.5万トンは加工されて輸出されている。我々の加工品は、国内での販売、及びマプト港から輸出される。80キロサックの形で輸出される場合、輸出税が18%かかる。加工した場合には、0%である。しかし、世界銀行が国にローンの返済を求めているため、加工せずに輸出することが奨励されている。加工と未加工では利益が3倍違う。80キロサックのFOB価格は、240ドル。加工した場合の味付けなしのパックでは、11.3キロのパックで、60ドルである。</li> <li>このプロジェクトはアフリカ開発銀行からの支援を受けており、機械をブラジルから購入したとき、ブラジルからその使い方を指導する人が来た。</li> <li>また、今後販路を広げるためにHACCPの取得、ISO9001の取得などを考えている。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | なし。   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月23日(火) 11時～12時30分   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | United States Agency for International Development (USAID)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Kevin L. Armstrong, Deputy Mission Director<br>Ms. Christine de Voest, Private Enterprise Officer   |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;事業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>USAID のモザンビークでの事業は大きく、HIV/AIDS-Health、 Democracy /Governance、Rural Income Growth、Trade &amp; Investment に分かれる。このうち予算的は前2つが圧倒的に多い。</li> </ul> <p>&lt;Rural Income Growth&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>調査部門から現場でのパイロット・プロジェクト実施まで幅広い支援を行っている。調査は政策策定の基本として重要との認識に基づいて支援している。例えば農産物の生産高、コストに関するデータは、農業省の Early Warning Method で出てくるデータと Household Income Survey から出てくるデータで大きく異なるため、この解消を目指している。具体的には、ミシガン州立大学の支援(Campus Back Stop)を受け、農業省統計局のキャパシティ・ビルディングを実施し、リサーチャーも育成中。これは競争力のあるリサーチを行うには研究所そのものへの支援ではなく、有望なリサーチャーを直に支援すべきとの考えに基づき、キャッサバ、ポテト、豆といった農産物に関する研究を行っているリサーチャーへのグラント供与である。よい研究には賞を授け、最終的にリサーチ結果と各ドナーとをつなぐことが目標である。</li> <li>他プロジェクトとしては Rural Business Development Program があげられる。これは農産品のマーケティング、加工工程・販売までも含めた Value Chain 化、組合のフォーマル化に伴う登録など各種手続き等、農村のビジネス振興に関わる様々な側面で、コンサルタントがアドバイスをを行い、投資も呼び込むというものである。具体的には、ナカラにおける Techno Serve(インド系コンサルタント会社)と Kurusa(農民の Association)、マニカにおける ACIDI による活動などがある。このプログラムにおける各産品に関する事例は次の通り。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)カシューナッツ<br/>インドの技術とオランダの投資、それに商工省の保証基金を組み合わせることによって、2001/2002年には工場が1つのみ存在、収益も9万ドルだったものが、2006/2007年には工場が16に増え、収益も2,400万ドルへと大幅な成長を実現。</li> <li>(2)バナナ<br/>チキータはアフリカ全土のオペレーションの中心としてモザンビークを据えていることもあり、USAIDを通して同社と地域を結び、マーケティング面での強化を図っている。同時に新たにバナナの木を植えて育てる管理全般、検査技術に関するキャパシティ・ビルディングも政府のトレーニング・センターを活用しつつ実施。このようなトレーニング、経営管理手法へのアクセス促進、Value Chain 化を図ることにより、特に中東、東欧向けの輸出が増加した。</li> <li>(3)林業<br/>森林一体を握っている関係者との交渉を進め、木材加工セクターの新規参入業者にとってビジネスを行いやすい健全な環境を整備するためのプロジェクトを実施中。</li> <li>(4)養鶏、加工<br/>小規模事業者では輸出まで行うことは困難なため、一つのブランドの下に多くの事業者を統合する方法を採用。統一の独自ブランドAMAを確立してマーケティングを行い、中東向け輸出等を画策している。しかし、港で必要手続きを待っている間に期限切れになり廃棄をよぎなくされるなど問題も多い。</li> <li>(5)観光<br/>コンサルタントを派遣して振興策を策定している。</li> </ul> </li> <li>なお、商工省は金属加工業でのプロジェクト実施にも興味を示しているとのこと。また、ゲイツ財団との共同で Opportunity Bank に出資し、農村を順回するモバイル銀行事業も行っている。</li> </ul> |



|         |   |
|---------|---|
|         | <p>&lt;Trade &amp; Investment&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商工省、CTAにコンサルタント(Techno Serve)が入り政策支援を通じたキャパシティ・ビルディングを行っている。また、Private Sector Forum などを開催し、キー・ノート・スピーカーに米国の著名なエコノミストを呼んでの講演を行った他、大臣・副大臣を対象にした経済セミナーも実施。ただし、これまでの事業経験からすると、一般的に政府省庁は民間セクターの動きにはあまり敏感ではないと言わざるを得ない。</li> </ul> <p>&lt;ドナー・コーディネーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ USAID は Private Sector Working Group の議長である。他メンバーは世銀、イタリア、GTZ、UNIDO、UNDP、EU などであり、日本にも是非とも参加してもらいたい。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | 地方も含め関係者のコンタクト先を提供された   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月23日(火) 14時～15時   |
| 2. 場所    | マプト市   |
| 3. 機関名   | 産業貿易省、Agro-processing Technical Unit   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Delcio Alfazer, Public Administration officer<br>Ms. Elsa Lecimbe, Agronomist  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同ユニットでは、農産加工の工場の設立のプロモーションを所掌している。小零細企業の支援が中心であり、民間の大規模工場は支援対象ではない。</li> <li>・ ただし、この部門から、なにかの技術指導をしているわけではなく、現在 UTPIR という、農村部での農産物の加工を推進するプロジェクトを考えている。現在そのプロジェクトを支援してくれる資金を探しているところである。</li> <li>・ 具体的には、デモ農園を作り、そこでトマトやパイナップルを栽培、そしてそれらを加工し、トレーダーや、より大きな加工業者に販売するようなことを考えている。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | ・UTPIR プレゼン資料。   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月23日(火) 14時～15時   |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Embassy of Sweden  |
| 4. 先方対応者 | Ms. Maria Vink, Agriculture Programme Coordinator  |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、キムラ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モザンビークはスウェーデンにとって最重点協力国のうちの一つであり、年間1億ドルの予算を投入している。大きな理由は、1975年以來協力を継続していること、内戦後の開発の方向性を評価しているからである。なお、予算の半分強は一般財政支援にあてられる。</li> <li>・ また、スウェーデンは Agriculture Working Group の議長であり、財政支援を進める国のグループ G19 にももちろん参加している。G19 は、政府の最もハイレベルの人間との対話を持てる場である。なお、Private Sector Working Group は、案内のメールは受け取っているが出席どころか返事もしていない状態とのこと。</li> </ul> <p>&lt;Economic Development&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Private Sector Development に関しては、Niassa 州に集中して協力を行っている。ここに財団を設立して(Malonda Foundation: malonda は現地語でビジネスの意)、これを通じたプログラムを実施(年間予算 300 万ドル)。同州を選定した理由は、最も貧しい州の一つであることが大きい(財団の設立に際しては、多くの法的問題も算出したとのこと)。セクター別のプロジェクト概要は以下のとおり。</li> </ul> <p>(1) 農産品</p> <p>香草、ごま、パプリカを生産する NGO を支援。ただし、同 NGO のプロジェクト・マネジメントの経験不足からあまりうまくいっているとは言えない。</p> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>(2) 林業<br/>         土地利用権を有する権利者より財団がアクセス許可を得る。ここを通して 4 企業(スウェーデン、ノルウェー、ジンバブエ、オーストリア、これに Harvard Investment Fund も行動出資)が参加して製紙工場を設立した(フィンランド企業も近々参加予定)。なお、1 つの製紙工場が稼動するには 50 万 ha の森林が必要であり、モザンビーク政府は同じ広さの地域で植林を行うことを求めている。現在のところ 20 万 ha の植林は終了。</p> <p>(3) 観光<br/>         エコ・ツーリズム、ハンティングを目的とした観光地の開発を開始した。財団を通して、まずは各種施設の整備を進め、同時にヨーロッパからの観光客を対象にしたプロモーションを行う予定。</p> <p>(4) コミュニティ開発<br/>         Nakssa に Business Centre を設立し、モザンビーク人コンサルタント+Techno Serve コンサルタントによる経営アドバイスを実施している他、地元弁護士を活用して投資家への法律アドバイスをを行っている。その結果、独立以来同地域で初めての本格的な投資誘致に成功した。また、郵便局を通じた貯蓄の仕組みを開始した。ただし、同事業は準備段階の各種交渉で 4 年間を要した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これまでの経験では、農業省など政府はそれほど効率のよい組織だとは言えない。なお、上記以外では、CTA のビジネス・プラン策定に関する支援を行っている。CTA は、かつては動きが早い組織だったが最近幹部間の確執もあり、プロジェクトをやる相手としては少々信頼性に欠ける。また、農業分野へは財政支援で 500 万ドルを投入している他、DFID が主導する土地問題対策にも参画している。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スウェーデンからの投資は少ない。また、投資している企業も、例えば南アへの鉄道が整備されるという条件で進出していた輸送会社 1 社は、鉄道整備が進まないことに業を煮やし撤退を決めるなど、ますます減る傾向にある。ただし、バイオ燃料に興味を持つ企業は少なからずあるとの情報もある。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ The Malonda Program of Niassa, Mozambique - A Private Sector Development Initiative Review of Its First Implementation Phase</li> <li>・ Draft Business Plan for CTA</li> </ul>   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 23 日(火) 15 時~16 時   |
| 2. 場所    | マプト市  |
| 3. 機関名   | AGRO ALFA S.A.R.L(金属加工(産業用、農業機械))   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jose Alves, Chairman of the Board of Directors  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11 年前に民営化されたモザンビーク資本の会社であり、従業員 230 人を抱える企業である。工場は 24 時間操業である。</li> <li>・ 7 年前までは、畜力耕機、トラクター等農業機械を中心に生産していたが、現在は産業サービスへとシフトしており、鉱山機械、金属類、パイプ等を生産している。MOZAL に対するサプライヤーでもある。また、水道ポンプ等も製造している。</li> <li>・ クライアントは、モザール、ベイラ港、セメント工場、Matola ガス会社(産業用ガス)等である。</li> <li>・ MOZAL と Rights Agreement を持っており、現在、同社から 90 人をモザールへ派遣している。また、MOZAL の前にある産業自由区域(政府が CPI を通じて建設したもの)にモザンビーク企業で唯一プロットを購入した。免税されているが、水道や電気はマプト市内よりも高い。また、停電が頻発するなど品質が悪いことが問題である。</li> <li>・ 輸出は 5%以下。輸出するよりもまずは国内市場に提供したいと考えている。</li> <li>・ マプト、マントラ、ベイラに工場を持ち、キリマネ、ナンプラにオフィスのみを有する。また、テテの資源関係の会社(GBZ)も購入した。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の 30%のみが会社の工場に勤めており、70%は現場に勤務している。職員 230 人のうち、外国人は南ア人が 3 人である。</li> <li>・ サプライヤーとして、鉄、ペンキ等は国内のブローカーを使っており、特殊なポンプ等以外は出来る限り国内の会社を通じて供給している。ゴム等も国内で作られているものを購入しているが、品質的な問題もない(南ア製のものも問題は多い)。</li> <li>・ 年間 10～15%程度の伸び率である。会社を購入したときの従業員は 50 人程度だったのが現在は 200 人以上となった。高付加価値付けを目指している。</li> <li>・ フェアな競合他社は 3～5 社であろう。その中でも同社はトップ 2～3 社にはいる。その他にインフォーマルセクターや不正な輸入業者が多い。</li> </ul> <p>&lt;ビジネス環境&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境は良くなってきているが、改善スピードが遅い。</li> <li>・ 労働法については、新しい法が今月末に施行されるので多少改善されることが期待されているが、硬直的であり、フレキシブルではない。技術移転を促進するために外国人の雇用を認めるべきと考える。外国人を雇用しやすくなったからといって国内の人材が雇用されないわけではない。企業にとっても、国内人材の安定的な雇用は重要である。</li> <li>・ 税制面では、法人税は 32%である(農業以外、産業及びサービスの法人税)。南アの税制は、法人税は安く所得税が高い。また、VAT に関してもモザンビークは 17%、南アは 14%程度である。</li> <li>・ 関税については、現在 SADC 諸国からの輸入に対する関税は対象製品について 2.5～7.5%である。SADC 域内の FTA 協定によって 2012 年までに完全に自由化される予定であるが、自由化に向けて会社として準備を進めている。</li> </ul> <p>&lt;人材&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材育成に関しては OTJ が多いが、職種によって異なる。溶接工に関しては学校で、整備士に対しては研修講師を招いている。監督者研修は内部研修を実施している。</li> <li>・ 労働者に対して、労働組合に必ず加盟するよう勧めている。</li> <li>・ 賃金に関しては南アと比較して特に安いということはない。</li> <li>・ 安全衛生を第一に考えている。政府からの促進はなく、国際基準を使っている。</li> </ul> <p>&lt;ファイナンス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な課題として、R&amp;D に関する政府からのファイナンスがないこと、IFC が経営に関して干渉しすぎること、SME ファイナンスが確保できない、利子が高すぎるといったことが挙げられる。</li> <li>・ また、起業が非常に大変である。起業に対するインセンティブがないため、若い企業家が全く増えていない。</li> </ul> <p>&lt;CSR&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従業員の社員、その次に地域に対する支援を実施している。例えば、青年団等をサポートしたり、水道パイプを提供したりという事業を実施している。また、メンテナンス・サービス等は地元の会社と契約することによって地元経済を支援している。</li> <li>・ 会社では次の 3 つの政策を掲げている。①衛生安全、環境に関する地域を対象とする政策、②HIV/AIDS 予防(従業員のみならず家族にも。早期発見を目指した定期健診、カウンセリング等)、③品質確保である。</li> </ul> <p>&lt;支援の必要性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材育成について、中等教育に対する支援が多いが、むしろ技術学校、職業訓練所、農業学校等が必要である。経済成長していてもフォーマルな就業率は 5～10%程度と変わっていない。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 23 日(火) 15 時 30 分～ 16 時 30 分  |
| 2. 場所    | マプト   |
| 3. 機関名   | Rio Doce Mozambique   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Galib Chaim, Director<br>Mr. Renato Ferreira Silva, Human Resources General Manager<br>Mr. Fabio Bechara, Control, Financial & It General Manager |

|          |  |
|----------|--|
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、キムラ(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;モザンビークにおける最近の活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在北西部において石炭採掘のプロジェクトを開始したところ(モアディセプロジェクト)。F/Sを2005年から今年まで実施し、本年6月に正式にモザンビーク政府から開始許可が下りたところである。原料、燃料用合わせて、年間1200万トンの算出を想定している。</li> <li>現在は、設備工事の準備中である他、鉄道(セナ鉄道)、港湾(バイラ)利用料の交渉を行っており、遅くとも来年1月までには決着をつけたいと考えている。日本がナカラに関心を持っていることは聞いているが、サイトから遠いこと、プロジェクト開始とタイミングが合わないことから、バイラ利用を選択している。</li> <li>セナ鉄道については、世界銀行の支援(100mil\$)でリハビリ中であるが、容量が200~300万トンと小さいため、CCFB(バイラ鉄道会社:インド51%、モザンビーク49%出資の今セッション)が600mil\$を出資し、600万トンまで増強する予定である。</li> <li>今回プロジェクトでは、別会社(AES:USA 資本)によるプロジェクトにおける発電事業(1500万w)への供給も想定している。今回プロジェクトのインフラ整備という点では、小規模ながらジェネレーターを持ち込むため、電力の問題はない。</li> <li>産出された石炭の市場は、現在調整中であるが、世界中が対象であると考えている。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークに対する評価&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>F/S調査の結果、モザンビークは政治状況も安定し、南部アフリカ市場自体が今後も成長が見込める等、投資環境としての問題はなかったことから、投資の判断が下された。</li> <li>人材の点では、プロジェクト開始後5年間は、モザンビーク人70%、その他30%という割合、その後は徐々に労働法基準(9:1)に近付けていくことで合意されている。人材育成は既に開始しており、プラント建設に際しての工員育成を別会社に委託する形で進めている。公的機関(INEFP)とも契約している。INEFPは、資金の問題はあるが技術力は高いと評価している。</li> </ul> <p>&lt;CSRについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会部門への貢献(CSR)については、モザンビーク政府との間で、今後35年間に亘って、教育、保健、インフラ、農業について支援をしていくことについて合意している。ただし、投資条件ではなく、あくまでもRio Doseによる社会貢献であり、優先分野等について政府と合意したというものである。F/S時に650万ドルを病院、学校、農業施設、孤児院などのリハビリに充てることを計画している。詳細についてはプロジェクト開始後に決定される予定である</li> </ul> <p>(その他、先方から、ナカラ回廊に対する日本の支援可能性、及びJBICとの統合後のポリシーの見直し可能性、支援コンポーネントについての質問あり)</p> |
| 7. 入手資料  |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月23日(火) 16時~17時  |
| 2. 場所    | マプト市  |
| 3. 機関名   | Africom Ltd.  |
| 4. 先方対応者 | Chief Operation Officer, Mr. Roopak Bhadra  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同社は12年前にカナダ国籍のインド人により設立された会社である。KASSEKAというブランド名で、とうもろこしと小麦の製粉を行なっている。小麦については、原材料を輸入し、ここで加工、そして国内市場で販売している。とうもろこしについては、国内の原材料を、港近くにある工場で加工している。マプトにある工場は、IFZ内にある。現在4つの工場を持っている。</li> <li>その他、我々はモザンビークに4つのグループがあり、Meic, Socsimoは、上記製粉業を中心に、Oceanicは、石鹼、洗剤を生産、Lubiracは、建設資材を生産している。</li> </ul> <p>&lt;地方での展開可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナカラ港はマプトに比べて使いにくい。むしろ、バイラ周辺、ザンベジア周辺により興味がある。</li> </ul> |

|        |  |
|--------|--|
|        | <p>&lt;マプト回廊&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マプト回廊ができて、流通の面では便利になったと思うが、これは基本的に南アのためであり、モザンビーク側では、それほど大きな便益がないと考える。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | なし。  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月23日(火) 17時～17時50分   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | African Development Bank (AfDB)   |
| 4. 先方対応者 | Ms. Alice Hamer, Resident Representative<br>Mr. Cesar A. Tique, Agriculture and Rural Development Specialist<br>Mr. Joao David Mabombo, Infrastructure Specialist   |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、キムラ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ AfDBの予算は3年サイクルで動いており、2007年末に現行のサイクルが終了する。そのため来年度以降の予算については流動的で、具体的に何にいくらと明確には言えない。おおよそ全体で1億5千万～2億ドルとなる予定。</li> </ul> <p>&lt;各分野での活動&gt;</p> <p>(1)Agriculture セクター</p> <p>(ア)Family Sector Income Enhancement Project<br/>UGCという農業協同組合を通して鶏の加工に関連した業者を振興(マプト)。ただし、コーディネーターが昨年去ってしまったこともあり組織内で若干のコンフリクトがある。総予算135万ドル。</p> <p>(イ)Rural Finance Intermediary Support<br/>モザンビークではかつて国民開発銀行というものがあり農村での貸付を行っていた。しかし民営化後は農村から撤退し、特に綿花、タバコの産地では銀行機能が皆無である。そのため、同地域の住民がお金を預ける先は、国内ではなく国境を越えたマラウイの銀行(総額2000万Mtにも上る)という状態となっている。<br/>このような状況を変えるため、AfDBがGARIと呼ばれる Rural Development Fundを通してマイクロ・クレジット機関に資金を供与するのが同プログラム。ただし、通常の条件では金融機関は農村部には行かないため、金融機関への貸付の際に通常ならば金利13～15%程度のところを農村で貸し付けることを条件に10～11%としている。(審査方法などを説明したマニュアルも整備)<br/>一般的にマイクロ・クレジットは、最低2000Mtを数ヶ月単位という短期中心に金利月5～6%で貸し付ける。農村での資金需要は旺盛なため、AfDBの資金をより低利で借りることが出来たマイクロ・クレジット機関は、かなりの利益をあげている。これまでに21の金融機関が申請し、9機関が出資を受けた(Malanga Bank、FDM: Womens Bank等)。また、最近では Banco Austral や Millenium BIM といった大手銀行も興味を示している。総予算153万ドル。なお、FFPI向けの出資はこれとは別プログラムであり、こちらは漁業セクターのみを対象にしている。</p> <p>(ウ)Women's Entrepreneurship and Skills Development<br/>ポルトガルからのファンドを活用し、コンサルタントがビジネス手続き等についてのアドバイスを行う。ただし、まだスタートしていない。予定総予算250万ドル。</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナカラ回廊の道路については、日本側も知っているように F/S 終了、次にDDを予定。2009年には動いているとの認識。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | Mozambique's Status of Loans as at 30 September – Ongoing   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月24日(水) 10時～11時  |
| 2. 場所    | マトラ郡  |
| 3. 機関名   | マプト州産業商業部   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Goan Luis, Juridicail counselor<br>Ms. Laurinda Saeuze, Chief of Industrial Dept.   |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マプト市の産業商業課と同様に、検査課、経済分析課など、8つの課が同様な形で組織されている。すべての州は同じような構造となっている。ただ1つ違うのは、ここでは、観光部門についても組み込まれている。全体のスタッフ数は52人である。</li> <li>マトラ郡内にある大企業は、中央政府が担当、我々は、小零細企業を担当している。主に、検査や登録などが仕事である。外からの支援については、我々はその仲介役をする。一部、零細企業に対して、ビジネスのトレーニングなどの指導をしている。</li> <li>部長はMICから派遣されてくる。そして州知事が承認する。</li> <li>また、州内の各郡においても、どのような産業商業部がある。それらの長は、州から任命される。常に頻繁に連絡をとりあっている。</li> </ul> <p>&lt;予定事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、トマトなどの保存の効かない農作物を加工し、保存するための倉庫を作るプロジェクトを推進する予定である。</li> <li>これは、MICのアイデアと関係しているが、現在、モザンビークでは地方分権化がすすんでおり、多くのことは、我々が独自に決められるようになっている。また、今後、農業部と産業部が一緒になって、経済活動部となる予定である。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | なし。   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月24日(水) 10時30分～13時   |
| 2. 場所    | マトラ   |
| 3. 機関名   | MOZAL   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Raitt Marshall, General Manager S.A.R.L / Mr. Frans-Jozef Jaspers, Materials Management Manager   |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、今井、キムラ(通訳)、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>MOZALは世界でも3本の指に入る屈指の製錬事業と認識している。モザンビーク人労働者のWork Ethicsなど、隣国と比べても非常にモラル、モチベーションが高いと評価している。学歴を有する人材でも就業機会が限られていたというような歴史的背景もあつてか、(隣国に比しても)新たな知識、技術の習得に熱心であり、loyaltyが高い。従業員の中には、MOZALで働か死ぬかしかないと訴える者もいるくらいである。</li> <li>現在、モザンビーク人労働者の割合は95%であり、労働法における規定以上の割合を達成している。なお、MOZALが労働法や関連法規上の特例を受けているようなことはない。</li> <li>人材育成については、年間2.5mil \$を投資している。主として、外部への委託、INEFPへの委託を行なっているが、その背景としては、モザンビークへの貢献というような意味合いもある。</li> </ul> <p>&lt;周辺産業との関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広い意味での関連産業育成という点では、周辺に250社(ガーデニング、ケータリング、エンジニアリングなど)と関係を有しており、こうしたサービスサプライヤーに対してビジネスプロセス、人材資源管理、財務管理などの技術支援を行なっている(メンターシステム)。</li> </ul> <p>&lt;今後の展開&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フェーズ3の拡張については、周知のとおり電力供給の問題がある。ESKOM(南ア電力公社)によれば、2011、12年まで十分な供給が確保できないとのことで、現時点ではPhase3についてのF/Sを実施しているところである。</li> </ul> <p>意見交換後、工場敷地内を視察した。工場内においてNo Harmを目指しており、安全管</p> |

|         |                                |
|---------|--------------------------------|
|         | 理が徹底されており、敷地内もきわめて整然としている印象あり。 |
| 7. 入手資料 |                                |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月24日(水) 14時～15時半  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Mozambique Chamber of Commerce   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Manuel Notiso, Secretary General<br>Mr. Rafael Chibivolje, Coordinator of GAPIMO-IP Department   |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、今井、キムラ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 27年前に設立、法律で設立が規定されているものの政府からの資金は一切入っておらず、運営資金は約500社あるメンバー企業からの年120ドルのフィーのみである。予算は十分でなく、メンバーへのサービスを十分に行えているとは言えない。</li> <li>・ ベイラに支部があり北中部を管轄、ナカラにもオフィスはないがスタッフが1名常駐している。</li> <li>・ 会頭は軍の将軍、国防大臣、外務協力大臣を歴任した人物で今は実業家となっている、任期は3年、副会頭も実業家である。</li> <li>・ 全ての予算は8名の委員より成るAdvisory Councilで承認される。委員は各セクターの代表者で構成されており、例えば農業部門の課題は農業セクター担当の委員から提起される。事務局を取り仕切るSecretary Generalは専任であり、現在は設立以来ずっと商工会議所で働いている人物がその任にある。</li> <li>・ なお、社会主義国であったにも関わらず他国と異なりメンバーシップは義務ではない。</li> </ul> <p>&lt;サービス内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商工会議所の提供するサービスは以下のとおり。       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 他国企業とメンバー企業を結ぶパートナーシップ・プロモーション</li> <li>(2) 他国企業とのビジネス・ミーティングのアレンジ</li> <li>(3) 工業所有権、商標の登録手続き支援、啓蒙</li> <li>(4) Certificate of Originの発行</li> <li>(5) 外国投資家に対するモザンビーク企業の調査(企業の取引銀行を通してConfidentialな情報も収集出来、場合によっては中銀とも連携する)</li> <li>(6) 外国投資家に対する国内パートナー企業の紹介、各種手続きの進め方の紹介</li> <li>(7) 大統領の外国訪問に同行するビジネスマンのリスト作成</li> <li>(8) セミナー開催(例:大学教授による新労働法の解説)</li> </ol> </li> <li>・ 外国投資家に対するサービスは、政府にもCPIという投資促進機関があるため、免税措置のある5万ドル以上の投資案件についてはCPIが担当、商工会議所はそれ以下の投資に関する業務を行う。</li> <li>・ 将来的にはアドバイザー・サービスを行うセンターを作りたいと考えている。しかし、現在のところはアドバイザー・サービスを行うことが出来るスタッフがいない。また、一般的にモザンビーク人ビジネスパーソンは、ビジネス・プランを作成するといった話の前に資金をくれという傾向にあり、このような考え方を変えないとアドバイスをしなくても効果が低い。</li> </ul> <p>&lt;他機関との関係&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商工会議所はAIMO同様にCTAのメンバーであり、世界中の商工会議所ネットワークを通じた情報収集と海外への情報提供が可能であることから、特に国際関係を担当している。また、CADIは商工会議所のメンバーであり、AIMOの60%の企業が商工会議所のメンバーでもある。AIMOは工業セクターの代表として商工会議所のAdvisory Councilのメンバーとなっている。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークの産業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業として目立つ分野は名の通った企業が並ぶアルミ、天然ガス、電力が第一に挙げられる。モザンビークは、MOZALのような大企業が統計上の数字を引き上げているのは事実である。しかし、一国の経済が5～7社の企業のみで成り立つのは健全ではなく、数多くの企業が支えるという形が望ましいと考えている。そのためにも中小企業振興は重要である。</li> <li>・ モザンビークでは過去には中小企業が多かったし、繊維産業も輸出国であった(大きい工</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>場も 6 つ存在)。しかし、それら企業は既に姿を消したか残っていても存在しないに等しい状態にある。理由の一つとしてあげられるのは輸入原料への課税である。これを減税すれば輸出のための価格が下がり、輸出にプラスに働くと考えられる。現状ではモザンビーク国内でも国内製品が高すぎるという状態にあり、繊維は競争できずに中国製、ドバイからの製品に取って代わられた。加えて SADC内の関税が近々撤廃されるが、その後は国内製品がさらに売れなくなるという状態に陥るとの危機感を抱いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、独立後は企業が国営化され、長年同じ機材を使用し続けるという状態であったため、国内企業には古い機材のまま残るといった状態になった。そのため外国とのビジネス・ミーティングでも、通常はモザンビーク企業がサポートしてくれるパートナーを探す必要があるという事情を抱えるため相手よりも立場が下になっているのは否めない。中小企業をはじめとする大多数の企業は何らかの対策を政府も取る必要があり、その意味でも一村一品に注目している。</li> <li>なお、国内にはプラスチック、ペンキ、砂糖(輸出用のエクセスが国内に滞留)、セメント(1社のみ)、カシューナッツ(世銀に加工は全てつぶされた)、ファイバー・セメント、ジュース、とうもろこし粉、農機具、タバコ、綿、茶、漁業、食用油、石鹼など多様な産業が一通り揃ってはいる。また、南ア企業をはじめとして観光への投資登録数が増えている。</li> </ul> <p>&lt;政策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新中小企業政策に関しては、政策を作ったこと自体は一定の評価が出来る。また、商工会議所の意見も反映されているので、まずはじめのものが出来たと考えている。しかし満足はしておらず、さらなる施策が必要である。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | ・Chamber of Commerce Brochure   |

| 1. 日時      | 2007年10月24日(水) 16時～16時半   |         |        |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
|------------|---|---------|--------|------|--------|------------|-----|-------|--------|---------|-----|---------|--------|----------|-----|---------|--------|----------|-----|---------|--------|
| 2. 場所      | マプト市内   |         |        |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
| 3. 機関名     | Rovuma Micro Credito  |         |        |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
| 4. 先方対応者   | Ms. Angeleena, Loan Officer   |         |        |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
| 5. 当方出席者   | 舟橋、キムラ(通訳)  |         |        |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
| 6. 面談内容    | <p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2007年6月に設立した同社は、最近モザンビークで増えているマイクロ・クレジット機関の一つである。まだ支店はなく、第1号店の動向次第で支店網を拡大するかどうかの決定が経営者によりなされるとのこと。</li> <li>貸付には大きく2種類あり、個人向けと事業者向けである。1日に訪れる顧客数はおおよそ10～12人であるが、条件を聞くだけの人もいる。</li> </ul> <p>&lt;貸付条件&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>借入金額</th> <th>期間</th> <th>月返済額</th> <th>期間全体金利</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,000Mt まで</td> <td>3ヶ月</td> <td>400Mt</td> <td>20.00%</td> </tr> <tr> <td>5,000Mt</td> <td>4ヶ月</td> <td>1,562Mt</td> <td>24.96%</td> </tr> <tr> <td>10,000Mt</td> <td>6ヶ月</td> <td>2,250Mt</td> <td>35.00%</td> </tr> <tr> <td>20,000Mt</td> <td>6ヶ月</td> <td>4,500Mt</td> <td>35.00%</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;貸付に必要な書類&gt;</p> <p>(1) 事業者向け<br/>住民証明書、事業許可証、物資の調達を証明する領収書等、経営者のIDカード、水・電気料金の支払い明細</p> <p>(2) 個人向け<br/>住民証明書、労働契約書、IDカード、水・電気料金の支払い明細</p> | 借入金額    | 期間     | 月返済額 | 期間全体金利 | 1,000Mt まで | 3ヶ月 | 400Mt | 20.00% | 5,000Mt | 4ヶ月 | 1,562Mt | 24.96% | 10,000Mt | 6ヶ月 | 2,250Mt | 35.00% | 20,000Mt | 6ヶ月 | 4,500Mt | 35.00% |
| 借入金額       | 期間  | 月返済額    | 期間全体金利 |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
| 1,000Mt まで | 3ヶ月   | 400Mt   | 20.00% |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
| 5,000Mt    | 4ヶ月   | 1,562Mt | 24.96% |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
| 10,000Mt   | 6ヶ月   | 2,250Mt | 35.00% |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
| 20,000Mt   | 6ヶ月   | 4,500Mt | 35.00% |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |
| 7. 入手資料    | Brochure(ポルトガル語)  |         |        |      |        |            |     |       |        |         |     |         |        |          |     |         |        |          |     |         |        |



|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月24日(水) 16時30分～17時30分   |
| 2. 場所    | マトーラ(マプト郊外)  |
| 3. 機関名   | AFRISAL DO MAR, S.A.R.L Groupo S.C.I.(製塩業)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Rajat Roy, Managing Director 他1名   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 150～250人程度を雇用している。1年のうち、6～9ヶ月間は250人程度を雇用。その他の季節には150人程度を雇用している。70,000Mtnの最低賃金を支払っている。</li> <li>・ 資本がないため、生産を増やすことが出来ない。</li> <li>・ 競合も何社かいるが、塩を清浄する施設を持っているのは同社だけである。</li> <li>・ 殆どはマプトでの消費(40%のマーケットシェア)だが、15%程度は南ア、ジンバブウェ、マラウイ等に(トレーダーを通して)輸出している。国内向けという点では、ナカラ、ペイラに塩田があるためモザンビーク北部への出荷は微量である。マプト市内での南ア製品との競争はない。</li> <li>・ 南アへの輸出に関税はかからない。輸送費がネックとなるが、南ア、マラウイと比較すると競争力がある。</li> <li>・ 塩の消費は基礎産品のため消費量はあまり増えない。産業用にはソーダ灰生産に使われるが、モザンビークで作られていない。</li> <li>・ 生産は300%の伸び、売り上げも2003年の3～4倍である。</li> <li>・ 機械のメンテナンス等の技術支援が必要である。</li> </ul> <p>&lt;モザンビーク経済について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数値上は成長しているが、実際にはMOZAL等大企業がデータを吊り上げている。貧困率は以前高い。しかし、他のアフリカ諸国と比較すると政府の安定性がある。一番の問題は社会問題となっている貧富の差の大きさであり、ミドルクラスがないことである。</li> <li>・ また産業もMOZAL以外には育っていない。経済の70%がモザールとも言われている。</li> <li>・ ナカラ地方の石油精製所が設立されたら状況が変わるかもしれない。また、今後セメント業に対する投資も増える見込みであり期待されている。</li> <li>・ 政府は、もっと中小企業や雇用が育成される産業に重点を置くべきである。特に、ハイテク産業ではなく、塩のようなローテク産業を促進するべきである。</li> <li>・ ファイナンスは利子が高い。</li> <li>・ 新しい労働法は、1999年以前に設立された会社にとっては関係ない?(1999年以前からの従業員には旧労働法が適用され退職金を払う?)</li> <li>・ 一般にモザンビーク人はよく働く。ただし、英語の語学バリアはあるだろう。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月25日(木) 14時30分～15時30分  |
| 2. 場所    | ナンプラ市内  |
| 3. 機関名   | -   |
| 4. 先方対応者 | Mr. John Mutori 氏(コンサルタント)  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;ナンプラの有望産業について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プラスチック産業(プラスチック袋、屋根の下敷きにするビニール(茅葺きの屋根の下に敷く)。</li> <li>・ カシューナッツ加工</li> <li>・ ジュース生産&amp;ヨーグルト?(OASIS社)</li> <li>・ セメント</li> <li>・ コカコーラ</li> <li>・ ビール(CDM)</li> <li>・ 重砂</li> <li>・ ホテル・建設業</li> <li>・ マイニング(貴石?)</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月25日(木) 14時半～15時   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | Nampula Province Directorate of Planning and Finance  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Mussa Ime, Director<br>Mr. Ivan Vazquez,<br>Ms. Iris Rosario  |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モザンビークでは地方分権化をまさに進めつつある時であり、州のポテンシャルを如何に伸ばしていくかが重要である。具体的には人材育成、中小企業育成のためのサポート、上水施設、道路の整備、保健、教育など多様な分野の開発が重要であり、経済開発分野だけでなく貧困対策のための協力をお願いしたい(調査団からは、多くの分野が重要であるとは理解しつつ、対象が広すぎても焦点がぼけてしまうため、今回は経済開発、特に地域産業に絞った視点から調査を行う旨説明)。</li> <li>本調査団が来る2日前までセミナーを開いていた。テーマは Local Economic Development Strategy であり、まさに絶好のタイミングで調査団はナンブラにきたと言える。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月25日(木) 15時15分～18時  |
| 2. 場所    | ナンブラ市内   |
| 3. 機関名   | Nampula Province Integrated Development and Coordination Unit(UCODIN)  |
| 4. 先方対応者 | Ms. Felicidade Auxilia Muiocha, Chief of Technical Secretariat<br>Mr. Ivan Vazquez, District Advisor<br>Ms. Iris Rosario, Rural Development Officer<br>Mr. Bonifacio Saulosse, Delegate, CPI Nampula Office  |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、青木、キムラ(通訳)、スエナガ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;州開発戦略&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>UCODINは、ナンブラ州のあらゆる分野における開発全体を統括し調整する機関であり、州知事からの指示がダイレクトに降りてくる直轄の組織である。ここで策定された現行の Strategic Plan for the Development of Nampula Province 2003-2007は、以下を柱とする州の開発戦略であり、間もなく終了する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 零細中小企業育成</li> <li>(2) 人材育成</li> <li>(3) インフラ整備</li> <li>(4) 行政組織の強化</li> <li>(5) 天然資源の持続的な開発</li> </ul> </li> <li>今年で終了することもあり、現在、評価を行っている最中である。5つの柱のうち、零細中小企業育成については、残念ながら目標を達成できなかったという結論にせざるをえない。その理由としてあげられるのは、州全体の戦略の柱に盛り込まれたにも関わらず、この分野の明確な戦略、アクションがなかったことが挙げられる。現在、Local Economic Development Strategy(EDEL)を作成しており、この反省に基づき具体的な方針とアクションを盛り込むよう配慮している。</li> </ul> <p>&lt;新経済開発戦略&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>州レベルには Provincial Economic Programme があるものの、参加型で策定したこともあり、社会開発(インフラ、教育、保健分野等)に関係する内容が大半を占めている。企業振興は含まれない。</li> <li>一方で、EDELは5カ年の郡レベルのアクションも含めた計画である。モザンビークの行政組織の最小単位は郡であり、ある程度の予算配分を受けていることもあり、これらを独自に活用できるようになることが重要である。</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ EDEL の目的の1つは、Mind set を転換することにある。また、各地域の活動のバリューに差異が生じないよう、アンブレラとしての基準計画(生産からCSを作るというものでもある)。</li> <li>・ PPP の考え方にに基づき、大学、NGO などを取り込んだ地域の経済開発計画パートナーシップフォーラムを設立予定である。</li> <li>・ 現在策定中の EDEL は、以下の 6 項目を柱として設定している。       <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 法整備</li> <li>(2) 金融制度の改善</li> <li>(3) 技術、人材育成</li> <li>(4) 地域企業の国内外市場へのアクセス</li> <li>(5) 情報のとりまとめと提供サービスの向上</li> <li>(6) 教育の向上</li> </ol> </li> </ul> <p>(1) 法整備<br/>       現行法の範囲内で地域開発に活用できる施策の特定を進めている。これについてはマイクロ・クレジット、農業、土地利用法など様々な日本の経験を教えてほしい。特に中小企業基本法がどのような視点から制定されたか、また実際にどう役立っているかの経験は有用である。</p> <p>(2) 金融制度の改善<br/>       地域における投資を支援するための金融制度改善イニシアチブが必要である。ナンブラ州では 27% の郡にしか金融サービスがなく、銀行やマイクロ・クレジット機関がある郡でさえも、資金が循環しておらず、零細中小企業に寄与しているとはいえない状態にある。そこで州・郡が中心になってうまく機能する形を作りたいと考えている。例えば、ブラジルの農村経済基金などについては情報を集めて参考にしている。日本の中小零細企業向け金融機関がどのようにサービスを実施しているかを教えてほしい。少なくとも郡レベルでも全体で 1.5～2 億ドルの資金があるところ、これがもっと循環するような環境整備を進めたいと考えている。</p> <p>(3) 技術・人材育成<br/>       ビジネスを始める際のビジネス・プラン策定などアドバイザー・サービスの拡充、生産者連盟・組合組織の形成、零細企業を対象にしたトレーニング・センター(ブラジルを参考にしている)を通じたスキル向上といったサービスを、NGO やローカルレベルの開発機関を窓口として提供することを考えている。日本では企業をどうサポートしているか、生産者に対するサービス提供の状況などを教えてほしい。<br/>       例えばカシューナッツに関して、現況では多くの農家は生産したカシューを活用できず、結果的に多くが腐ってしまう状態である。これを中レベルの技術にアクセスすることによって、付加価値を高められるような対応が求められている。パッケージングも大切と考えているものの、機械が高価であるのが導入のネックになっている。そこで公共の機械センターを作り、誰もが利用できるようにしたい。機械化を推進することは、広い土地を有効利用することにもつながる。<br/>       別の例としては自動車修理が挙げられる。ナンブラを走る車両の 90% が日本製でそのうち 95% が中古であり、10～15 年経っているものがほとんどである。そのため、修理のニーズが当然多くなるが、これを修理する技術の不足は深刻な問題である。ここでは最新の技術は必要なく、少なくとも日本でいうところの 20～30 年前の中レベルの技術でいいので、訓練センターのような場で技術を教えられる体制を整えたいと考えている。部品そのものについてもわざわざ南アなどから輸入しなくてもいいように、また偽物の流通を防ぐ意味からも、簡易なものについては国内で調達できるようにしたい。<br/>       また、若者の農村離れを防ぐにはビジネス・チャンスがあると認識されるようになる必要がある。Rural Economic Development Forum で PPP( + 大学、NGO) を進め各パートナーのネットワーク化を推進し、ビジネス・チャンスの発掘にも努めたい。なお、ナンブラには、マネジメント、行政、農業、教育、コミュニケーション、医学の分野で学べる 6 つの大学がある、この他に、工業商業高校と農業高校もある。</p> <p>(4) 地域企業の国内外市場へのアクセス<br/>       郡レベルで自分たちのリソースを考慮し、ビジネスにつなげるための方向性を特定する</p> |
|--|--|

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>能力の強化が重要である。そして商品の特定、Value Chain の確立、マーケティングの実施、物流の方法といったことについての考えを理解してもらう必要がある。例えば、ある郡で、ひまわり栽培のプロジェクトがあったが、売り先までを考えたわけではなく販売段階でつまづき失敗に終わった。これを是正するには、方向性を定め、何を作って売り先をどう見つけるかといった一連のプロセスを郡レベルで実施できるようにならなくてはならない。そのためにはプロセスの標準化を進めて、これを普及する過程で関係者の考え方を変える必要がある。</p> <p>各郡には年 700 万 Mt の補助金を供与するという政策があるものの、現状では全額をダム建設、トラクター購入に投入するなど、短絡的な単一的な使い方しか出来ていない。これを全体的な戦略に基づいて有効活用できるようにしたい。大分で始まった一村一品の活動はこれに重要な示唆を与えてくれるものであると考えており注目している。</p> <p>(5) 情報のとりまとめと提供サービスの向上<br/>見本市やマーケティングに関するデータベースの運営管理など、その機能はまだ初歩レベルであり強化する必要があり、こうした点での支援が必要である。</p> <p>(6) 教育の向上<br/>学校教育において、起業家精神教育を取り入れる方針でいる。こうした科目の導入は、州レベルで実施可能となっている。また、仕事に対する姿勢 (Work Ethics) を如何に教えるかを重視しており、日本で小学校からの意識改革をどう実現しているかについて学びたい。但し、識字率が低い地域であることは念頭におく必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他分野ではナカラ回廊が重要な位置づけをもっているとの認識で、農村地域の発展に寄与することを期待している。また、空軍基地の国際空港化を画策し、Moma では重砂開発のメガ・プロジェクトも開始された。ナカラ港でも経済特区を設置する動きが始まっている。これらインフラを中小零細企業育成につなげる必要がある。</li> </ul> <p>&lt;ドナー協力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ USAID をはじめとするドナーによるプロジェクトは、3～4 の郡でパイロット・プロジェクトのみを実施している。そのため全ての住民にインパクトがあるわけではない。EDEL を基点に各 NGO がそれぞれの活動を明確に出来るような標準を作りたい。活動の重複を避ける意味からも標準は大切である。</li> </ul> <p>&lt;CPI によるプレゼンテーション&gt;<br/>(投資促進のための優遇策が説明されたが、既にマプトのCPI本部で確認済みのため省略)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナンプラ州の有望産品としてはカシュー、ピーナッツ、綿、ジャトロファがある ジャトロファは大統領も力を入れておりバイオ・ディーゼルに使われるもので、既に 223ha で試験栽培中。州全体では、他農産物用も含め、450 万 ha の農地利用可能な土地があるが、現在はこのうち 17%のみが使用されているに過ぎない。農業の問題点としては、改良された種が導入されておらず生産性が低いこともあげられる。</li> <li>・ 林業、観光 (エコツーリズムを含む) もポテンシャルがあり、投資法後の承認リストをみると 2003～2007 年では農業関係が多く観光がそれに続いている。また、2007 年 10 月より始まった Moma 郡の重砂開発メガ・プロジェクトがもたらす波及効果への期待は大きい。インフラについては、送電網は 2 つの郡以外は整備されており、電話はナカラ回廊沿いならば携帯がつながる。</li> <li>・ 今後は投資法の活用を郡レベルに広げることを考えている。なお、プロジェクト申請と承認については、10 万ドル以上は大臣承認が必要であるが 5 千～10 万ドルならば州政府の承認のみである。(ここでいう投資承認は国が用意しているインセンティブを利用し CPI が関与する場合であり、ライセンス供与など各省が出すものについては、別途許可が必要とされる)</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Strategic Plan for the Development of Nampula Province 2003-2007 (CD-ROM)</li> <li>・ Local Economic Development Strategy (ポルトガル語)</li> <li>・ CPI Nampula Province Presentation (ポルトガル語)</li> <li>・ Mozambique in Motion (CD-ROM)</li> <li>・ Factor of Mozambique (ポルトガル語)</li> </ul>  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月26日(金) 9時15分～10時45分   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | IPEX ナンプラ事務所  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jahamo Sale Galina, Director  |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、今井、キムラ(通訳)、Joaquim(通訳)(敬称略)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本部とミッションは基本的に同じである。しかし、本部は政策策定への関与、ナンブラでは政策の実施を担当している。政策の関連では調査を通じて本部へ提言を行なっている。</li> <li>(事務所代表は)ポツワナでのトレードフェアから火曜日に帰国したところであり、また昨年、横浜での AOTS の一村一品の研修に参加した。</li> <li>主な業務の1つとしてフェアの実施がある。ナンブラ州では、ナンブラ市及び周辺住民を対象として、世界観光週間中に民芸品のフェアを実施した。ニアサ州ではまだ実施していない。カボデルガド州では、ペンバ市及び周辺住民を対象として商業・産業総局とともにトレードフェアを実施した。国際的なレベルでは、国際フェアにおいて商品のサンプルを展示するなどしている。</li> <li>その他、輸出業者から価格、市場可能性等の問い合わせに対するアドバイスを行なっている。</li> </ul> <p>&lt;ポテンシャルのあるセクター&gt;</p> <p>(1) 塩については、ナカラ港付近に塩田がある。IDIL (Local Industry Development Institute: 地方経済・開発のための機関。組織体としては廃止されたが、現在も商工省の職員としてそのまま担当している。)を通じた基準認証の強化等が必要である。UNICEF が、ヨード添加の視点から支援をしており、添加用の機械が供与される予定。</p> <p>(2) 材木については、伐採には許可が必要となっており、植林が義務付けられている。現状、100社の伐採業者が登録をしている。現存の輸出業者は99%が外国人であり、地元の人材はマーケットへのアクセスがない。ビジネスの可能性等を地元で説明しており、モザンビーク人がもっと参入することを期待している。材木輸出協会を設立したいと考えており、関係企業と調整を行なっている。モザンビークでは黒い木とピンク色の木が取れるので、加工して民芸品の輸出も促進している。(輸出の制限として、黒い木に関しては貴重であるため、未加工材木の輸出は100%禁止している。その他の木に関しては40%が加工してあれば残りの60%は無加工でよい)</p> <p>(3) カシューナッツについては、次の3点について支援を実施している。</p> <p>(ア) 国立カシューナッツ研究所(National Caju Institute)がカシューナッツ生産業者の育成・サポートについて関心を示しているので共同で実施していきたいと考えている。</p> <p>(イ) カシューナッツを中心としたフェアの実施を考えている(まずは地区レベルで実施し、その後州レベルに拡大したい)。</p> <p>(ウ) NGO とパートナーシップを組んで、生産協会に対して輸出促進の研修を実施している。例えば、ナンブラ州では ULIPA_ODES(国内の NGO、ドナー等から多数の支援あり)が実施している。</p> <p>&lt;一村一品&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事務所代表本人が普及活動を実施している。カボデルガド州政府に対して説明を実施し、次の3つの製品が一村一品の対象として推進されることになった。</li> </ul> <p>(1) コメ: 大統領がこの地区のコメが好物という背景もある。州の農業省が精米機を供与する予定である。</p> <p>(2) 民芸品: アガカーン財団がペンバ市周辺、タンザニアに近い北部等で伝統的なバッグ(葦類を利用した籠)作りを支援している。</p> <p>(3) カシューナッツ: 主に女性が生産しており、W180(大きさに関する国際基準)という一番大きく、国内では最高級品のカシューナッツが生産されている。デンマークの ADIPSA から、パッケージング、マーケティングに対する支援等の技術協力が実施されている。一村一品では、きちんとした品質管理をし、パッケージング、ブランドをつけるところまでを実施したい。 <li>中長期的には、同運動を郡レベルから、州レベルへ拡大していきたいと考えている。</li> <li>パイロットとして、カボデルガド州を選んだ理由は、①事務所代表に土地勘があること、及</li> </p> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>び②現在、UNDP の主導で進行中の地方分権化計画プログラム担当者が、同プログラムの推進と一村一品は相乗効果を持つと考えたことによる。また、同プログラムでは、各州に年間 7,000,000Mtn 独立予算が配賦されており、同予算を活用した実施に相当と考えられたためである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Rural Development Strategy のセミナーで一村一品の説明を実施したが、その際も州レベルの関心が非常に高いことが確認された。</li> <li>・ これらは、将来的には輸出を想定しているものの、現在はまだ、マーケット化に関する調査が出来ておらず、どのくらい売り上げ見込みがあるのか等を調査する必要がある。</li> <li>・ IPEX の考える加工とは、瓶詰め、缶詰などパッキング、パッケージング、魚販売でも切り身にするという程度のものである。</li> </ul> <p>&lt;ナカラ回廊における物流&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸送されている主な産品は、ナカラ方面へは農産品（胡麻、サイザル、カシューナッツ等）、ナカラからナンブラ、マラウイ方面に関してはマラウイへの輸入が多い。その他、ニアサ州等からの塩も輸送されている。</li> <li>・ 鉄道輸送が多く、火・木・土はナカラから内陸向き、月・水・金は内陸からナカラ港向きの貨物列車が走っている。</li> </ul> <p>&lt;ナンブラ州における Made In Mozambique 運動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナンブラ州の企業では、①Sonil Lda 社（タバコの葉栽培・販売、茶、製紙）、②MAIAIA 社（倉庫業の他、小麦粉、クッキー、亜鉛鉄板を生産）が認証を取得した。</li> </ul> <p>&lt;北部の地域特性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モザンビーク北部にはタンザニア製品が流通している。例えばタバコに関してはタンザニア製が独占している状況である。一方で、正式な輸入手続きを経っていないものも多く、VAT 付加もままならない状態である。</li> <li>・ 主な産品としては、①胡麻（タンザニアからアジア方面に輸出される）、②モザンビーク国内に乾燥する技術がないため、タンザニアで乾燥されたカシューの実が造酒のため国内に逆輸入されることもある、③タンザニア国内における伐採が禁止されているため、木材が輸出されている。</li> <li>・ また、カシューの実、胡麻などは正式な輸出手続きを経ずにタンザニア国内で販売されているものも多い。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 26 日(金) 11 時～12 時半  |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | ACIANA  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Antonio Pereira Momade, President<br>Mr. Jose Marques Monamela  |
| 5. 当方出席者 | 吉田、澤野、今村、舟橋、今井、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナンブラ州の企業協会である ACIANA は 1991 年設立の非営利組織であり、メンバー企業数は 405(ナンブラ州の企業数は約 3,000)、専任スタッフ 2 名＋秘書で運営されている。また、専任の会長は CTA のスタッフでもある。</li> <li>・ 活動内容は、地域の民間セクター振興を目的として、企業開発プロジェクト(トレーニング・コース)の実施、組合化の推進、メンバーを代表しての政府に対する提言を通じたビジネス環境整備(CTA を通して提言を行う)、他組織との窓口業務である。基本的に ACIANA のほとんどのプログラムは、中央政府の政策の方向性とも一致しているといえる。</li> </ul> <p>&lt;企業開発プロジェクト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドイツで始まりブラジル北部で広まった FOR TAL ELER と呼ばれる中小企業振興のためのプログラムに参加し、2006 年 12 月よりメンバー企業向けのトレーニングを実施している。具体的には、レクチャー形式で基本的な経営スキルを講義する他、コースに参加する中小零細企業をセクター別のグループ単位でまとめ、グループワークで事例を使った問題点の抽出、改善案の提案などを行う。</li> <li>・ 一般的にモザンビーク人は、ビジネス・チャンスと思われるとみんなが飛びつくため、すぐにチャンスではなくなり、うまくいわず借金が返せなくなるパターンが多い。このような例から抜け</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>出すような企業が、コース参加者から出てくることを期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ レクチャーと実戦形式の組み合わせは、参加者の評判もまずまずであり、現在のところ概ねうまくいっていると言える。ただ、参加者の中には学校に行っていない人もおり、それほど高くない参加者のレベルに合わせて実施していることもあり、参加者がその場では満足しても継続的に実践してもらえるかには疑問もある。そのため、トレーニングを実施した同じグループの企業と、コースで一緒に作業をして共同意識を高めるとともに、研修後も組合として機能するようサポートしている。現在までのところ、組合化のサポートを行っているトレーニング・コース参加済み業種は、ナンブラ市では散髪、大工、製粉、養鶏、自動車修理の5つ、それ以外では養蜂、牧畜、農業、漁業、製塩の5つである。</li> <li>・ 参加者はフィーを払い、一部は ACIANA の運営費に、他はコンサルタント(モザンビーク人+ブラジル人)への報酬となる。</li> </ul> <p>&lt;資金調達への仲介&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ トレーニング・コースのフェーズ1を終えるとフェーズ2では Finance を学ぶこととなっている。ここで資金計画・調達等の知識を得た企業を束ねて ACIANA が金融機関と交渉し、グループとして資金を借りられるよう金融機関とのつなぎ役も果たしている。交渉する金融機関は、零細企業が多く融資額が小さいため大手銀行ではなく、GAPI などマイクロ・クレジット機関である。今のところ実績は少ないが、トレーニングに参加する企業が増えればグループも増え、金融機関へのインパクトも大きくなると考えている。</li> <li>・ 基本的に中小零細企業は恒常的に資金の問題を抱えているにも関わらず、貸付には担保を要求されるため、借りることが困難な状態にある。ナンブラ州にも5つのマイクロ・ファイナンス機関があるものの、状況は同じであり、グループ単位での貸付交渉はこのような状況を打開する一案であると考えている。</li> <li>・ なお、一般的にマイクロ・ファイナンス機関では、利子率が年 23~25%という高いものとなっている。住民は給与を受け取るため銀行口座はほとんどの人がもっているが、貯蓄はほとんどなく、自前の資金でビジネスを始めることは難しい。</li> </ul> <p>&lt;産業と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナンブラの有望産業としては、綿、カシューナッツ、とうもろこし、ピーナッツ、タバコがまず挙げられる。農業は広大な土地があるが機械化されておらず、商業ベースの生産が行われていない。</li> <li>・ また、農産品の新商品開発などが重要で多様化を進める必要がある。漁業、観光業も可能性があるものの、サービスレベルが低いので改善の余地が大いにある。牧畜は、ツェツェバエの管理プログラムによって牛を使った農耕も可能になった。適している土地は多いものの、牧畜のための基本インフラが整備されていないことがネックとなっている。</li> <li>・ 土木分野は測量、見積、品質管理が弱いので納期を守れないことが多く、他産業をサポートするレベルになっていない。仮に土木事業が実施されるとしても、技術力の低さからマラウイ、ジンバブエ、南アの会社に仕事をとられてしまうことが多々ある。</li> <li>・ また、有望産業という観点からはずれぬが、自動車修理もニーズの高い分野である。しかし、修理工場のほとんどはインフォーマルな会社であり、修理工は資格も持たず営業している。これらをどうフォーマル化してサービスの質を一定させるかが課題である。それに加えて、部品はドバイ産の偽物が多く、レファレンス番号も役に立たない状態で、自動車関連産業は改善されるべき点が山積している。</li> <li>・ インフラについては、電気は大幅に改善され整備が進んでいる。しかし水供給が深刻な問題である。灌漑設備もなく農業は天候任せであることは否めない。なお、飛行機の便は多く、マプトからの日帰りビジネスも可能である。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | ・Brochure   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月26日(金) 10時~11時                  |
| 2. 場所    | ナンブラ市内                                  |
| 3. 機関名   | ナンブラ州農業部                                |
| 4. 先方対応者 | Mr. Ide, Agricultural Extension Officer |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)                        |
| 6. 面談内容  | <ナンブラ州における農産品>                          |

|        |   |
|--------|---|
|        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在ナンブラ州では、カシューナッツの他、綿花、胡麻、タバコに力を入れている。タバコ工場は、Sonil, Canam の2つある。テテ州で栽培されているタバコの葉を加工して、タバコを作るもしくは、葉をマラウイに輸出している。</li> <li>・ タバコ、綿花については、農家は契約栽培であり、工場側は、種と肥料を与え、収穫物を買取るシステムである。</li> </ul> <p>&lt;ナンブラ州の概況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リチングとナンブラ間は、車で焼く1日の距離である。</li> <li>・ 州内の灌漑については、統計上の500ヘクタールよりも少ない。</li> <li>・ タバコは、雨季に合わせて植える。灌漑システムそのものは、極めて新しいシステムである。</li> <li>・ 農家は土地の所有権はなく、使用权のみである。いい土地をもとめて農民は移動する。実際にどこが誰の農地ということについては、周辺の空いている土地を自由に耕しているという感覚であり、所有権はなくても、それにより多くの制約を受けることはない。移動先としては、都市部は失業率が高く、仕事はない。農村で農業をして、現金収入を得たほうがよいという考えを持っている。また、町には難民が沢山入り、治安が悪い。そのため、農村部内での移動となっている。</li> <li>・ モマとアンゴチエのみでやしの木などのプランテーションを行なっている。以前は、工場があり大規模操業であったが、現在は、工場がなく小規模となっている。</li> <li>・ また、シエトロファについて、昨年全郡で試験的に作付けしている。2月に播種、8月に収穫する。</li> </ul> <p>&lt;技術指導&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 州政府では、栽培についての技術指導をしている。主に自給用作物についての栽培である。Agrarian Investigation Instituteと共同で実施している。</li> <li>・ 耕作への水牛利用をする場合、役務後、水場で休息させる必要があるが、適所に沼がない。現在、牛を使用して耕作を試みようとしている。</li> </ul> <p>&lt;一村一品&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一村一品の推奨作物としては、マンゴの加工、カシューナッツのジュース、オレンジなど、ミニ加工がいいアイデアであると考え。カシューナッツについては、非常に小規模の加工である、1回に農村だと500グラム程度しか加工できない。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | なし。   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月26日(金) 11時30分～12時30分  |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | ナンブラ州鉱物資源エネルギー局   |
| 4. 先方対応者 | Diretor of provincial office of Mineral resources and Energy  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;埋蔵資源について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナンブラ州としての鉱物毎の生産量データは有している。ただし、鉱物資源についての詳細な調査をまだなされていない。宝石については、どの郡でとれるかは、はっきりしている。しかし、どのくらいとれるのかについては、具体的にはわかっていない状況である。たとえば、モマの調査には、21年の歳月を要した。重砂は、海岸沿いの4つの州でのみ採れる。</li> <li>・ 金については、住民により、Murupula, Moma, Namtei, Mukoboraの4ヶ所でとれる。極めて原始的な方法で採られている。</li> <li>・ ライムストーンについては、ナカラ、ムカンタ、ムコリル周辺。埋蔵量がわかっていないので、調査する必要がある。</li> <li>・ 水晶は、ナカロワで採れる。アクアマリン、トルマリンは、その他の地区である。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存の採掘が始まっている地区への支援が欲しい。Momapo, Nekuburi, Murupula, Moma, Nakarowa, Malemaの地区である。たとえば、現在、素手で作業を行っており、危</li> </ul> |



|        |  |
|--------|--|
|        | <p>陰である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、個人の採掘を組織化する必要がある。来週の火曜日に現地をぜひ訪問して欲しい。</li> </ul> <p>&lt;販売ルート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金は、加工業者に対して直接販売、あるいは輸出業者に販売される。現在、1 グラム当たり、180 から 200MT で取引されている。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナンブラ州地質・地震関連資料</li> <li>・鉱物資源生産量データ</li> </ul>   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 26 日(金) 14 時～15 時半   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内   |
| 3. 機関名   | North Corridor Development Corporation (NDC)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Manuel Macoba, Executive Director of Railway of NDC<br>Mr. Sergio Paunde Director of Administration and Human Resources  |
| 5. 当方出席者 | 沢野、吉田、今村、船橋、青木、今井、キムラ(通訳)、スエナガ(通訳)(敬称略)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ North Development Corridor は運輸通信省管下の Nacala Development Corridor の下に位置し、鉄道、港湾、および個別の大きなプロジェクトの管轄を行なっている。鉄道分野はナンブラ、港湾はナカラに本部がある。個別のプロジェクトとしては、モマの重砂プロジェクトやタンザニア国境の橋梁プロジェクトなどがある。</li> <li>・ 鉄道については、6 機の機関車により平均 70 便/日を稼働させている。編成としては、機関車 2 機+25 貨車(1,000t級)と機関車 1 機+13 貨車という組み合わせがある。ナカラ回廊は起伏が激しく、この編成が限界である。</li> <li>・ 鉄道は、貨物を大陸奥地に輸送するのが目的であり、港は貨物の輸出入業務が目的である。乗客輸送は、ナンブ拉克ワンバ間(553km)のみである。かつては、ナカラ-ナンブラ間も旅客輸送を行なっていたが、道路が整備され、より安価なバス利用に乗客が流れた。また、機関車数の不足により同路線は廃止された。</li> <li>・ ナンブ拉克ワンバ間の道路が整備されたとしても、鉄道での輸送運賃は、40 フィートコンテナで 850 ドル、車だとその 3 倍の値段であり、それほど心配していない。</li> </ul> <p>&lt;NDC の運営&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NDC は民営化され、アメリカ企業(Rural Development Cooperation)にコンセッション、運営されていた。代表は、Fernando Porte、鉄道部門と港部門のコーディネーションをしており、事務所はマプトにある。</li> <li>・ RDC への民営化は 1999 年に開始されたが、複雑な手続きを踏んでおり、またすべて終了していない。RDC は、民営化後のマラウイの鉄道(Central East African Railway)の運営改善を担当した会社でもある。同社は、2005 年から運営改善を受注し、運営管理、融資(オービック: Overseas Private Investment Corporation から)を担当していたが、状況があまり芳しくないため、今は、NDC が運営担当を取り戻した(米側が半ばあきらめたのが実情との由)。融資についても、別の資金源を模索中である。</li> <li>・ 大雨の場合、500 メートル間隔に(契約により)人を配置し、線路状況を確認する体制をとっている。</li> </ul> <p>&lt;地域開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NDC は鉄道周辺の地域開発にも力を入れている。ニアサ州では、植林プロジェクトを実施しており、10 年後を目途に木材の輸出を想定している。</li> <li>・ ナカラ-クワンバ間は 20 年までに復旧作業を了したが、現在はクワンバーリシガ間(現在、262km を 26 時間)の線路復旧に力を入れている。リシガ-マラウイ国内間(67km)の復旧は未了であり、パートナーを探しているところである。</li> <li>・ その他、地域開発の観点から、雇用創出を図っていく方針であり、周辺企業に対してもサービス提供を呼びかけているところである。</li> </ul> <p>&lt;物流について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナユチ(マラウイ)とエントレ・ラゴス(モザンビーク)の間は、5、6 時間、クワンバとナカラの間は 13 時間、クワンバーリシガは 48 時間である。クワンバでマラウイの列車に接続替えを</li> </ul> |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>してマラウイ側にはいる(軌道幅が異なる由)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マラウイからの貨物は、砂糖、豆、一般貨物、ジャガイモなどである。モザンビークからの輸送は、通常貨物、肥料、セメント用のライム、とうもろこし、タバコ葉などである。タバコの葉は、マラウイで加工の上輸出されている。</li> <li>今後、半年のうちにザンビアの貨物の取扱いも始める予定であるが、現在、ムチンジ(マラウイ)と、チパタ(ザンビア)の 26 キロが線路で結ばれていない。</li> <li>マラウイ国境での通関は、2 時間程度で済んでいる(それぞれの国で 1 時間ずつ)。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | なし。   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 26 日(金) 16 時～18 時   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | Sonil Ltd.  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Momad Khalid, Chairman  |
| 5. 当方出席者 | 今村、舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1949 年に現会長の祖父が設立した。同社の事業は多岐に渡る。主なものとしては、タバコ、茶、製紙、印刷、卸・小売販売(タイル、セメント、家具、文具、書籍)がある。</li> <li>現会長は 2003 年に父親が亡くなり跡を継いだ。現在 43 歳だが、既にビジネスに 25 年間携わっている。社会主義政権時代には、事業を国に接收されたものの、1998 年以降の民営化に際して再び事業を手に入れ、今に至っている。</li> <li>パートナーが会長を含め 5 名おり、全員が会長の兄弟(会長は三男)である。また祖父の代より、事業を行う土地の住民に対して病院や学校を設立するなど福祉事業も多数行っている。</li> </ul> <p>&lt;事業概要&gt;</p> <p>(1)茶</p> <p>ソコネにて茶葉を栽培し乾燥するまでの工程を行う。茶葉はウリア成分を加えた遺伝子組替の中国茶(心臓にプロテインを供給し健康に良い)、アッサム茶(インドより技術者を 1 名招聘)を年 500t 有機栽培し、バルクで販売している。輸出も行っており、輸出先はケニア、タンザニアが中心、近い将来にはインドにも輸出を開始する予定である。価格は 1 パック 1 ドルだが、ケニア人はこれを 2.2 ドルで販売している。</p> <p>内戦で施設の多くが破壊されたため、新たに建物を建設し機械も導入した。10,000ha の土地を使えることになっているものの、現在は 700ha のみ使用。敷地内には 120km の道路と発電施設が整備されている。また、労働者(約 1,000 人)のみならず周辺住民(約 1 万人)も使えるクリニックも 2001 年に設立(当初は看護師のみ勤務、現在は医者も勤務)し、学校も設立した。全額で 350 万ドルを投資したが、全て自己資金でまかかった。</p> <p>(2)製紙、印刷</p> <p>製紙事業は 2007 年に買収した部門であり、全て自己資金で投資した(政府からの支援はなく銀行もアフリカはリスクが高過ぎると見向きもしないため)。政府機関への納入業者としては国内 1 位であり、近い将来パルプ用の 2 百万本のユーカリを植林する予定でいる。</p> <p>印刷事業では日本製(ハマダ)の機械を使用、理由は 8～10 年間ほとんどメンテナンスなしで使用可能であるからである。イギリス製は 30 年間もつが、機器の性能の更新を勧告すれば、それほど長期間は必要ない。</p> <p>(3)タバコ</p> <p>マレマとリバウエでタバコの葉を栽培している。栽培した葉は、タバコを生産するまでの中間工程の機械が高価であるため所有しておらず、国内のタバコ・メーカーに販売するか輸出に回される。年生産量 200 万 kg のうち輸出は 130 万 kg、主な輸出先はマラウイで、1kg1 ドルで販売される。また、肥料を南アから、種をジンバブエから輸入している。国内販売先は、2006 年までは世界的なタバコ・グループの Alliance と提携していた。</p> <p>栽培は、Sonil 社が使用許可を持つ土地で 14,000 の個人栽培者に栽培を行わせ、買い付けるというシステムをとっている。同社も葉を刈り取るシーズンには、約 400 名を雇用(少ない時は 100 名)する。</p> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>また、同社は中間工程までの処理がなされたタバコ葉をジンバブエから輸入し、最終の紙巻工程、パッケージングを行い、Popular ブランドで国内販売している。最終工程のための機械は、ドイツ製 1,500 万ドル、日本製 800 万ドル、インド製 450 万ドル、中国製 350 万ドルと多様であるが、日本製を使っている。</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 労働法が最近改正され、企業側にとってもかなり良くなった。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | ・Company Presentation(CD-ROM)   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 26 日(金) 16 時～17 時  |
| 2. 場所    | ナンブラ市内   |
| 3. 機関名   | IKURU(ナッツ類の農協・輸出業者)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Moises Sebastiao Raposo, Manager   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2003 年に設立された。ニアサ州、ナンブラ州、ザンベジア州にある 21 の農民組合から成り、8,500 の農民を代表している。</li> <li>・ 農民の平均農地面積は換金作物を生産する農民に関しては 5ha、非換金作物を生産する農民に関しては 2.5～3ha 程度である。</li> <li>・ 以下の指導を通じて、農民を市場にリンクすることを目標としている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 農民に対して基金を提供</li> <li>(2) ナンプラ中央倉庫を有し、保存可能</li> <li>(3) バイヤーとの値段交渉</li> <li>(4) 季節終了時に配当金を渡す</li> </ul> </li> <li>・ また、現在、落花生、カシューナッツ、胡麻、大豆、その他豆類(cow pea 等)の 5 つの農作物を取り扱っている。</li> <li>・ 英国 VSO からのボランティアを複数受け入れている(フィリピン人女性等)。</li> <li>・ カシューナッツ及び落花生に関しては、Fair Trade 認証を受けており、英国等に輸出されている。胡麻に関しても現在申請中である。</li> </ul> <p>&lt;生産量・輸出状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸出及び国内消費両方で年間総額 100 万米ドル、2,000 トンの売り上げ(2006 年)を記録している。2006 年が輸出開始の最初の年である。</li> <li>・ 現在の契約例としては、以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 落花生(小さいもの)を 200 トン程度英国に、350 トンを南アに輸出している。</li> <li>② カシューナッツ 60 トンを輸出(主に欧州向け)</li> <li>③ 落花生(大きいもの)を 36 トン南アに、消費用と動物飼料として 500 トン英国に輸出。</li> </ol> </li> <li>・ バルクで売っており、最終製品はイギリス、南アで個々の袋詰め、包装される。フェアトレーディング製品の買い付けを専門とする英国 Twin Trading が一括して Fair Trade 製品を買い付けている。</li> <li>・ 胡麻は、現在年間 30 トン輸出されているが、綿生産からゴマ生産に切り替える農民も多く、2001 年から急激に伸びている。現在、1 ヘクタール当たり 350kg 程度収穫されるが、タンザニアやナイジェリアではその倍以上が収穫できる。(土地(雨量が少ない海岸沿い等)、気候といった条件は揃っている(灌漑は必要ない)。来年からは肥料を導入する予定である。</li> </ul> <p>&lt;物流&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これら産品は、ナンブラからナカラ港を通して輸出している。</li> <li>・ カシューナッツ以外は日持ちが悪いため、鉄道ではなくトラック輸送である(鉄道は安いですが、毎日走っておらず時間がかかりすぎるため)。</li> </ul> <p>&lt;フェア・トレード認証について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農民から直接購入されていることが条件となっている(IKURU では登録済み農民団体のみと取引している)。</li> <li>・ 年に 1 回はフェア・トレード認証団体からの検査が入る。一トン当たり 110 米ドルというプレ</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>ミアム価格で売買されるためその配当金がきちんと農民へ還元されているか等を調査する。</p> <p>&lt;品質管理・衛生について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 南アの PPECB という試験所に製品を送り、国際スタンダードに基づいて品質管理を行なっている。</li> <li>・ 各ステージで品質管理はされている。IKURU 内に品質管理を専門に扱う技術者を雇用し、生産段階での視察、加工工場での品質管理等を行なっている。</li> <li>・ 落花生等に関してはヨーロッパ等で炒るため良いが、カシューナッツは最終品を輸出しているので、特に衛生面に気をつけている(制服、手洗い、マスク着用の徹底等)。</li> <li>・ Twin Trading 社は年 2~3 回チェックのため現地に視察している。また、マネージャーに対する年 1 回ロンドンでの研修がある。</li> </ul> <p>&lt;阻害要因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸送費、港湾でのハンドリング・フィーが高い。例えばナカラでは、コンテナあたり約 7,000Mtn もかかる。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胡麻については、現在年間 30 トン輸出されているが、綿生産からゴマ生産に切り替える農民も多く、2001 年から急激に伸びている。現在、1 ヘクタール当たり 350kg 程度収穫されるが、タンザニアやナイジェリアではその倍以上が収穫できる。モザンビークでは、雨量が少ない、海岸沿い等、気候や立地条件は揃っている他、灌漑は必要ない。来年からは肥料を導入する予定である。</li> <li>・ カシューナッツについては、Oedeon、Antracnose という 2 つの病害があり、政府が有料で農薬を提供している(季節の終わりに支払う)。栽培に関する技術指導が必要である。</li> <li>・ 落花生についてポテンシャルがあり、輸出が急成長しているが、生産キャパシティが間に合わない。現在は全て手作業であり 1 週間あたり 50kg の生産量である。皮むき機械を購入したいが資金がない。加工工場従業員の給与は最低賃金である。</li> <li>・ ファイナンス面では、農業に対するマイクロ・ファイナンスを取り扱う機関が少ない(土地所有権がなく担保がない)ことが問題である。代表的な機関としては Gapi、Novic(オランダの NGO)、Ecologic Finance(英国)、AMODER 等がある。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 27 日(土) 12 時~13 時   |
| 2. 場所    | ナンブラ州アンシロ   |
| 3. 機関名   | 道の駅   |
| 4. 先方対応者 | 道の駅スタッフ   |
| 5. 当方出席者 | 沢野、吉田、今村、船橋、青木、今井、キムラ(通訳)、スエナガ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>(店舗スタッフに立ち話でインタビュー)</p> <p>&lt;施設概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 売り上げの一部がスタッフの給与となっている。</li> <li>・ 現在スタッフは、7 名、交替制。1 人、1 週間に 3 日勤務する。オープン時間は午前 7 時から午後 10 時である。</li> <li>・ 1 日 10 台程度の客があり、夕方 4 時頃以降がピークである。</li> <li>・ 6M の浅井戸があり、ポンプにより水を上げ、トイレと事務所に使っている(視察時は、前日夜の落雷でポンプアップが停止状態となっていた)。</li> <li>・ 野菜(トマト、人参、ピーマン、キャベツ)などを販売所で販売する予定。大きく育ったものを中心に置き、小さいものは断っている(Mr.浅田、MAZU による指導)。その他、今後レストランを開設する予定がある。</li> <li>・ キオスクのレンタルスペース使用料は 1 日 5MT である。昼までにお金を支払う必要がある他、客が来ても来なくても支払う必要があり、多くの人が使うのが億劫になっている。</li> <li>・ 道の駅のパンフレットを配布したり、ラジオで宣伝したので、周辺の住民の認知度はある。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | なし。   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月29日(月)9時～10時  |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | CETA - Nampula(建設業者)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Antonio Ghinrungo, Director   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路整備及び架橋工事(事業の60%)、並びに学校、病院住宅等の建設(事業の40%)を行なっている。</li> <li>もと、国営企業であったが、独立した企業であり、本社はマプトにある。マプト、ベイラ及びナンブラに支社・作業場を持ち、キリマネ、ペンバ、リシंगा、インバネに小規模の事務所を持っている。</li> <li>ナンブラ支社がモザンビーク北部を管轄しており、ナンブラからアングシエ、モマを通る道路整備等を実施。また、今年はナンブラで小規模の病院の建設、ナカラで大規模の病院の建設、ナマパで医師の住居建設等を実施した。</li> <li>政府からの受託が大部分である。また、JICAの道路事業(Ribaube 近辺)の下請けも実施した。年間約1,500万米ドルの事業規模である。去年より今年は契約が減少している。今年で終わる契約が多いため、来年以降が懸念される。</li> <li>建設資材のうち、アスファルトは南ア及びエジプトから輸入し、ナカラ港からトラックで内陸輸送している。港湾の状況等はマプトで管理しているため把握していない。建物建設用のセメントは国内の業者から購入している。品質上の問題はない。</li> </ul> <p>&lt;ナンブラにおける建設業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>建設ラッシュであるが、民家はDIYによる建設が主流である。モマにおける資源関係やナカラの石油精錬所等大型プロジェクトのため出張者が増えていることもあり、ホテル建設は増えている。</li> </ul> <p>&lt;ビジネスの阻害要因等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政府の仕事は支払の遅延が多い。1～2ヶ月の遅延は通常であり、6ヶ月以上の場合もある。2005年の業務が支払われていないものがある。政府と契約書を交わしており、補償金等も規定されているが、税金面等他のことが面倒になる恐れがあるので文句は言わない。</li> <li>政府からは通常25%の前金が支払われる。</li> </ul> <p>&lt;政府の道路インフラ整備の取り組み&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政府は道路のリハビリに熱心に取り組んでいる。農地と道路を繋げるプロジェクトを積極的に実施している。</li> <li>ナカラ回廊の整備とモザンビーク南北を繋げる道路に特に注目している。</li> </ul> <p>&lt;人材&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従業員はナンブラで350～400人。そのうち、4人は土木技師、3人は機械工、10人は技術者である。その他の従業員は大工等の技能労働者から非熟練労働者までいる。</li> <li>この町における技能労働者の人材確保は問題である。マプトやベイラから人材を派遣している。職業訓練学校等もナンブラに存在するが、ニーズにマッチしているものが、あまりないため、社内で研修している。</li> <li>従業員の給与はマプトと変わらず、非熟練労働者に関しては月約1,800MTN、熟練労働者に関しては3,500～4,000MTN程度である。</li> <li>マプトやベイラ等から派遣される従業員には住居を提供している。</li> <li>また、HIV/エイズ検査を無償で実施、予防のためビデオの上映、コンドームの配布等を実施している。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なお、社会奉仕として、工事中に建設されたサイトでの従業員用のキャンプは地域社会に寄付している。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月29日(月) 9時半～11時  |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | Mozambique Institute of Export Promotion (IPEX), Central Regional Office  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jose Agapito Correia, Director<br>Mr. Manuel Quimo Sipanela, Technical Officer  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;管轄州の産業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中部地域オフィスはソファラ、マニカ、テテ、ザンベジアの4州を管轄している。</li> <li>ソファラ州は、道路などの基礎インフラが整備され、ベイラ港、そこからジンバブエに延びるベイラ回廊を有する。産業としては、鉄パイプ製造(ポルトガル資本)、水産、製粉、木材、パン製造機械の企業がある他、農産品として有名なものとしては、ごま、大豆、ひまわり、カシューナッツ、とうもろこし、トマト、パイナップル、バナナ、ライチ、マンゴー、サトウキビ、綿があげられる。このうちカシューナッツは、南北の他州から買い付けに来るほどの生産量がある。また、サトウキビからバイオ・エタノールを製造する工場がある。</li> <li>マニカ州も農産品(唐辛子など)が中心で、英国資本で英国に輸出している野菜、チーズ、花、靴、農業用簡易道具(くわなど)、鉱物(金、グラナイト)といったものが有名である。テテ州は、タバコ、綿、石炭、川魚、ワニ皮、牛・やぎ肉が目立つ産品である。ここにはマラウイに延びるテテ回廊が走っており、ベイラ回廊ほどではないにしても物流に関して重要な役割を担っている。</li> </ul> <p>&lt;課題と支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般的に農産物が共通している産業である。しかし、小規模(コミュニティ、NGO)の事業で加工機械もほとんど導入されておらず、付加価値を高めるためには機械化(パッキング用を含む)による加工部門の強化が必要である。</li> <li>加工のスキルを有する人材を育成しようとしても、そもそも訓練のための機械がないことがネックとなっている。同分野の管轄州におけるドナー支援としては、オーストリアによるPROMEC(カシュー、パイナップルの加工強化支援)などいくつか実施されているが、それ程多くはない。</li> <li>なお、現在、モザンビークから農産品を輸入している国は、加工された農産品ではなく単に原材料が欲しいだけかもしれない。その場合、加工部門の振興は、現在の顧客も無く危険性をはらんでいる。しかし、リスクを犯してでも加工分野の強化に乗り出さなくては、国の産業の将来的な発展は望めないと考えている。</li> </ul> <p>&lt;一村一品&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マニカ州では大豆からコーヒーを製造している農家があり、ソファラ州ではベイラ周辺の洞窟からこうもりの糞を採集し、ここから肥料を製造する住民がいるなど、工夫を凝らして新製品を開発しようとしている事業者もいる。日本が一村一品の協力を行うならば、このような事業者を中心に支援してもらいたいと考えている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | ・Exporters' Directory 2002  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月29日(月) 10時半～11時半   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内   |
| 3. 機関名   | KPMG   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Nuno Rego, Nampula Office Manager, Advisory  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;モザンビーク北部の経済について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナンブラのモザンビークの成長地域となっており、今後の発展を見込んでKPMGは6ヶ月前にオフィスを開設した。</li> <li>テテは、石炭鉱業、エネルギー等が中心である。</li> <li>ナンブラは農業が中心である。インド人の農家(「ファミリー」)が事業を行っている場合が多い。次第にアグロ・プロセッシングが発展しており、落花生やカシューナッツ生産が普及している。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>(1) カシューナッツ生産に関しては、大手 2 社がありいずれもポルトガル人の経営である。</p> <p>(2) 落花生は南アからの出資が多い。パッケージングまでがされている。</p> <p>(3) 綿生産は、一社大手がある(インド系モザンビーク人経営)</p> <p>(4) パナナは、Chiquitta 社が技術支援し、MATAWUSKA 社(白人系ジンバブエ人及びオーストリア人)が 4,500 万米ドルの出資を計画している。12 月にプロジェクトが開始される予定であり、ダム 2 つの建設を含む。農園、事業の建設等に 3 年間程度かかるが見込まれている。</p> <p>(5) トウモロコシ、小麦粉(輸入される)の加工業等がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工業・製造業では、セメント、植物油、石鹼等の製造業者がいる。</li> <li>・ また、スペインの Infinita 社によるバイオ燃料用植物(ジャトロファ)の生産プロジェクトが開始される見通しである。モザンビークでは燃料製造工場は建設せず、植物のままをヨーロッパへ輸出する予定。</li> <li>・ ナカラ湾北部に石油精錬プロジェクトが実施される。中東から原油が輸入され、精錬される。これは北部のタンザニア国境近くの石油抽出事業とは別である。</li> <li>・ 観光に関しては、モザンビーク島には 5 ツ星ホテルがある。また、モマ近辺の 2 つの島にも観光業のポテンシャルがある。</li> <li>・ マプト市よりも北部経済のほうが成長率は大きい。これは、大規模事業の参入に伴うものだけではなく、中小企業にも言えることである。南部には実体経済はなく、ドナーからの資金で成り立っている。生産、価値の付加がない。一方、北部には独立した経済が成り立っている。一部南部に出荷されるものもある(カシューナッツ等)。</li> <li>・ 鉱業に関しては、産業鉱石のほか、アクアマリン、ターマリン等がニアサ、クアンバ等で採掘できる。多くはライセンスを取得せずに不法で実施している。</li> </ul> <p>&lt;ビジネスの阻害要因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材不足が深刻である。大学ではマネジメントと法学部しかなく科学系の専門はない。</li> <li>・ ファイナンスは大きな問題ではない。</li> <li>・ 最大の問題が汚職である。大きな規模の会社でも脱税行為が多いが、多くは政府官僚に対する汚職のため発覚しない。例えば、中国が違法である丸太のまま木を輸出していたが、ストップされるまでに 9 ヶ月もかかった。</li> <li>・ 手続きは多いが、ビジネスに阻害になっているわけではない。インフォーマルセクターが多いのも手続きの煩雑さのためではない。また、政府は簡素化しようとしており、例えば会社名の登録に以前は 10 日以上かかったが、今は 2~3 日で出来るようになった。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 29 日(月) 12 時~12 時半   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内   |
| 3. 機関名   | Industria Micanicaa (林業・製材業者)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jose Anuisse Afrinane, 経営者   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 製材業者として、木の伐採及び木板の製造するライセンスを取得している。木材を大工に売っている(学校用の家具等に使われている)。従業員は 20 人程度である。</li> <li>・ 伐採は、Mecunburi、Lalaua や Nhussi 川沿いで実施されている。伐採用のトラクターが一台あるだけであり、木板を輸送する手段を持たないため、ナカラにはいけず、ナンブラ周辺のみが市場となっている。</li> <li>・ 木の種類は、Umbila、Jambirre、Chamfuta、Metonha 及び Metil である。前者 4 種類は家具用、後者はやわらかいため安く、建物の基礎作り(セメントで周りが固められる)及び足場に用いられるものである。これらは長くまっすぐの木である。African Blackwood(グラナディア)や Rosewood(紫檀)は輸出向けであり、ナンブラでは需要がないため、伐採・製材していない。</li> <li>・ 伐採する際に、植林のための費用として 15%の税金を払っているが、政府による植林はされていない。</li> <li>・ 海外(中国)からの参入が急増している。70~80 歳から 100 歳程度の木を通常切ってい</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>るが、新規参入業者は 20 年程度の若い木を伐採してしまっているのが懸念される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>銀行融資は利子が高く、担保が取られる等、リスクが高いため、ファイナンスは実施していない。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 29 日(月) 12 時半～13 時  |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | Sofala Province Secretariat Office  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Antonio Maquisa, Permanent Secretary  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;ソファアラ州概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベイラ回廊(鉄道)を通じた貨物輸送は、州だけでなく周辺国にとっても重要であり、ソファアラはその基点となる州である。</li> <li>また、ザンベジ川に橋梁(カイア橋)を建設する計画があり、これは国の南北を結ぶために非常に必要なインフラである。必ずしもベストの形で進んでいるわけではないものの、電気・道路の整備は計画通り進み、少しずつだが着実に進展を見せていると言える。</li> </ul> <p>&lt;戦略策定&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、州の開発戦略を策定中であり、2007 年中に完成する予定である。これは 5 ヶ年計画であり 2013 年までのものとなる。</li> <li>国の戦略である Government's 5 year Programme や PARPA II といった全体方針とは共通の方向性をもっているものの、これらはあと 2 年で終了してしまう。2 年間で計画を現実化させることは非常に難しく、実現までを想定すると最低 5 年間は必要とされる。策定中の戦略の期間が、PARPA II の 2009 年までと異なるのはそのためである。</li> <li>しかし、方向性が同じで、次も変わらず重点課題と考えられる点が多く含まれることもあり、整合性という意味での問題はない。仮に、次の PARPA で方針の大きな転換が見られるとしても、若干の修正を加えるのみで十分であろう。</li> <li>新戦略の柱は、産業、農業(機械化、アクセス道路整備、水産を含む)、社会開発(保健・教育)である。このうち産業については、農産品(パイナップル、綿、カシューナッツ、トマトなど)加工の振興、中小企業の振興 民営化により停止に追い込まれた多くの産業の復活が重要課題である。</li> <li>また、実際のアクションの中心となるのは、行政を通してビジネス環境を整備することであるため、州として特定の組合、NGO などと連携して何かを行うといったことは考えていない。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 29 日(月) 15 時～15 時 50 分   |
| 2. 場所    | ベイラ市内  |
| 3. 機関名   | Austrian Cooperation for Development, District and Municipality Support Project  |
| 4. 先方対応者 | Ms. Sandra Esser, Project Manager  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;活動概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オーストリア政府は大きな予算をモザンビークに投入できるわけではなく、ソファアラ州に絞った協力を実施している。活動の柱は、Decentralization、Water/Sanitation、Agriculture の 3 つである。</li> <li>州政府と同じビル内にあるプロジェクト・オフィスは、Decentralization のみを対象としたものであり、インフラ整備(小規模な橋、学校など 40 程度)、地方政府行政官のトレーニング(Municipality と District の両方を対象とする)等を行っている。</li> </ul> <p>&lt;地方政府システム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Municipality の長は選挙で選ばれる(現在 33、近い将来 District がいくつかの Municipality に改組される)のに対して、District レベルの長は任命制である。そのため、Municipality と中央・州政府は、必ずしも一枚岩ではないことが大いにあり得る。</li> </ul> |



|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>以前、世銀が資金を拠出してベイラ港整備のための工事を進める計画があったにもかかわらず、中央政府の省とベイラ市との関係がよくなかったという事実のために、工事開始の了承が中央政府から取れず、結果的に他事業に予算をまわされてしまったということもあった。</li> </ul> <p>&lt;地方行政官の能力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地方の行政官に共通して言えるのは、まずイニシアチブに欠けるということである。これは自分の業務に対する責任感の欠如とも言える。何事にも遅れが出るのは日常茶飯事であり、予定期間に終わることは無い。他の例では、小規模インフラの整備に関して、資金の提供はオーストリア側、業者との契約は District の役割という合意であったはずなのに、契約一つも責任をもって結ぶことが出来ないということがあった。また、プロジェクトの車両について、資金はプロジェクトから拠出し、実施期間中の管理もプロジェクトで行うことになっていたため、行政側は車両の登録のみに責任があるだけであったのに、先に進まないといったこともあった。</li> <li>悪い分権化の例としては、行政能力の欠如による腐敗があげられる。例えば、スタッフの給与はプロジェクトから District 経由で渡されるはずだったが、スタッフに届くまでに District 政府内のどこに消えてしまうかも分からないような状態（関係者がスタッフの給与全額を払わず自分でとってしまうなど）であったため、直に支払うこととなった。</li> <li>さらに、州の官房長が、直に District に連絡して動かそうとしてもなかなか動かず、頼みの綱である州政府幹部も力が弱いという状況にある。</li> <li>上記に加えて、対応する人物次第で容易に条件が変わりうるのが大きな障害となっている。例えば、各種税金の支払いに関して、税務当局の担当者によって難癖をつけられ余分に払わされることが多々あり、土地の使用許可、組織の設立許可などプロジェクトを実施するための前提でさえも、担当者が積極的でなければ完了するまでに 2 年以上かかることもある。そのため、先を見通した上でプロジェクトを進めることが非常に困難である。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | なし  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 29 日(月) 15 時半～16 時半  |
| 2. 場所    | ナンプラ市内   |
| 3. 機関名   | Matanuska Mocambique Ltda(バナナ)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Pieter De Klerk  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;バナナ生産プロジェクト&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2004 年に本格的に検討が開始されたプロジェクト(総額 5,100 万米ドル)である。</li> <li>Chiquita 社からは技術的支援(Chiquita ブランドでの販売)であり、資本は南アの Rift Valley Holdings 及びジンバブエの Matanuska 社からのものである。</li> <li>3,000ha の土地を開発し(大規模綿生産農家の土地を移譲)、2008 年から生産を開始させ、2011 年までにはフル稼働となる予定。年間 2,000 トン、年間 660 万カートンの生産量となる。週一回程度の船便でヨーロッパに輸出される(ナカラ港から紅海、スエズ運河を通る予定)。</li> <li>灌漑のためのダムも建設する。2008 年 2 月に建設が始まり、同年秋には完成する予定である。他の事業に回す余力はないが、この地域にまだダムを作る余力(川の水量等)は十分ある。今後 Matanuska 社も実施する可能性はある。</li> <li>ダム建設のために移住を迫られた家族は 10～15 家族程度である。一方、バナナ生産用農地には無権利居住者が多く住んでおり南部には 600 家族程度に上る。移住が必要となるのはこの中の一部と思われる(現在地域と協議を進めている)。</li> <li>年間 2.25 億米ドルの GNP インパクト、年間 4,500 万米ドルの輸出額が見込まれる。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、ナカラ港の整備にも投資する予定である(倉庫の常設、最新コンテナ輸送技術に対する投資等)。現在スカンディナビアの会社がナカラ港改善事業を実施しているので大変使いやすい港になるだろう。</li> <li>3,000 人の直接的雇用(間接的には 4,000—6,000 人の雇用)を生む見込み。外国人は当初 50～60 人想定されている。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>バナナはトラック輸送でナカラ港まで運ばれる、肥料等に関しては鉄道を使う見込みである。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークがバナナ生産の有利性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低価格、病害の危険が少ない生産に適した土地、地形、及び気候が挙げられる。</li> <li>また、灌漑の可能性も秘めていること、舗装された道路、電力、鉄道、水へのアクセス、特に水深の深い港へのアクセスのよさがある。</li> <li>その他、中南米からヨーロッパへ輸出制限によって Everything But Arms (EBA) が活用できるアフリカでの生産は関税メリットがある。しかし、政府の官僚的手続きが大変であり、政府間の調整が大変である(但し、ビジネスの決定的阻害要因とはなっていない)。</li> </ul> <p>&lt;CSR&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当初からローカルコミュニティーや NGO から CSR 活動に関する問い合わせが多い。適切な CSR 活動を現在検討しており、実施していく方針である。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 | ・Matanuska バナナ事業に関するパワーポイント資料  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月29日(月) 17時30分～18時<br>2007年10月30日(火) 17時～17時30分   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内   |
| 3. 機関名   | ナンブラ州政府鉱物資源アドバイザー  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Joao Micheque Fuleque, Geologist   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;産業資源&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>重砂は、IRMINITE、LRUTILE、ZILLICONE の3種類がモマ近辺で採取され、オーストラリア、日本、米国、中国等に輸出される。</li> <li>チタンもモマ近辺で採取される。</li> <li>石炭岩、粘土については、ナカラ港近辺で採取している。国内のセメント製造用に使われており、セメントはタンザニア、マラウイにも輸出されている。その他、タンタライトがザンベジア州で採取されている。</li> </ul> <p>&lt;半貴石&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水晶は中国へ輸出されており、ガラス製造に使用される。Murrupula、Nacaroa 等及びザンベジア州でも採取される(ザンベジアでの採取がメイン)。</li> </ul> <p>&lt;貴石&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>トルマリンの中でも最も高価なパライバに匹敵する貴重なトルマリンがモマ近辺で採取できる。Paraiba de Mozambique 社(ブラジル、マリ、ギニア資本)が650,000米ドルの新規投資を開始している。</li> <li>アクアマリン(ザンベジア州がメインだが、ナンブラ州でも採れる)、エメラルド等のベリル(緑柱石)がある。</li> <li>金は Chalaua 地区の Jagona Mines、Mulupula 地区の Niquirica Mines 等で採取できる。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採鉱にはライセンスが必要であり、ナンブラ州には約60の民間ライセンス取得者がいる。</li> <li>モザンビークで石炭岩や粘土が採取できるにも関わらずセメント製造用の石炭岩を原料とするクリンカーを輸入している。タンザニア等が製造しているように、ここでも製造するよう推進していきたい。</li> <li>距離がペイラ港よりも近いことと、橋が壊れており南に運ぶのが困難であるため、ザンベジア州で採取される鉱物資源もナカラ港を通して輸出される。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月29日(月) 17時半～18時半   |
| 2. 場所    | ベイラ市内  |
| 3. 機関名   | ESEG (School of Economics and Management) Beira Branch   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Gonsalo Parafino, Director   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;学校概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年前にマプトで開講したESEGのベイラ分校は、2007年3月にオープンした。校舎は平地から建設したもので新しく非常に清潔である。清潔さを保つために、職員用のトイレがあるにも関わらず学生と同じトイレを使用することになっており、清潔さを毎回チェックしている。</li> <li>・ 学生は、Secondary Schoolを終えてすぐに入学するケースと、10年前後どこかで働いた後に入学するケースがある。モザンビークの高等教育は8～9年前までは国立大学のみで、ほとんどがマプトに集中する状態であったものが、私立大学が誕生し地方にも多くの大学が設立された。近年は私立大学間での学生獲得競争が高まってきたため、ESEGベイラ分校もSecondary Schoolに直接出向いて大学のPRを行なっている。また、学生の内訳は、公務員(Municipalityが多い)と自営業者、企業勤務のいずれかであり、公務員の場合は政府が学費を払うケースも多い。</li> <li>・ 授業料は月150ドルで、モザンビーク人の平均所得からすると、必ずしも安いと言えるものではない。しかし、モザンビーク国内で学生一人にかかるコストは月平均250ドルというデータがあり、これから考えると150ドルという設定が高すぎるわけではない。逆に、利益が上がっているとは言えない状態にある。なお、奨学金も若干ある。</li> <li>・ 現在の学生総数(分校のみ)は約220人(昼1グループ、夜間5グループ)、ただし年度の途中で変動することもある。その理由は休学する者や転勤する者がいるため、ESEGのある都市に転勤になった場合には、単位を保持したまま他の分校に転籍することが可能である。</li> </ul> <p>&lt;講義の質確保&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講師は、それぞれの分野での実践経験を重視して採用している。また理論を知っていても、大学で一般的に使われる米国の教授が執筆した教科書の理論は米国経済に基づいたものが多いこともあり、モザンビークのビジネスの実状を知っており、それを適切に説明できることが重要である。</li> <li>・ 講師の評価は、時折Directorや関係者が授業を見学して、定期的に関く反省会の場などで改善点を指摘するようにしている。学生による評価は定期的に行っているわけではないものの、不評な講師に対しては何かしらの対応策をとることになっている。実際に、これまでに二人の講師を解雇している。</li> </ul> <p>(授業見学)<br/>         ビジネス法、ミクロ経済学、財務の授業を見学(1講義45分間)。いずれの授業でも、講師が学生とのインタラクションを適度に取りながら進めていた。</p> |
| 7. 入手資料  | なし   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月29日(月)18時～19時   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | Agro Industrias Associadas Lda.   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Ali Cherif Deroua(カシューナッツ)  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;AIAについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カシューナッツ工場を有する7人の企業家のパートナーシップ(14の工場を持つ)により2002年に設立された。以前はモザンビーク人がいたが、現在はいない(モザンビーク人の多くはリスクを取りたがらないとの説明)。</li> <li>・ 設立の背景としては、世界有数の生産量を誇っていたカシューナッツ加工産業を1997年</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>に世界銀行によって「つぶされた」(世界銀行の提言により、競争力がないため縮小するような政策が取られた)ため生産がストップしていたことがある。2002 年にポルトガル人によって事業が再開された。事業の発展可能性が証明され。その後、2003 年に Deroua 氏及びもう一名がパートナーとして参画した。現在急成長を遂げており、2003 年の開始当初は年間コンテナ 1.5 本分だったのが、一年間で 8~10 本分と拡大、今年は 150 本、来年は 250 本を見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 工場一つあたり 2,000ha のカシュー生産農業が必要である。Deroua 氏は 200ha の土地を整備し、新規の苗を植えている。しかし、大部分は農民組合等から買い付けている</li> <li>・ 加工されたカシューは 1 キロ当たり約 4 ドルで売られている。</li> <li>・ スイス政府からの支援が入っている。</li> </ul> <p>&lt;阻害要因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 急成長しているため、政府の対応が追いつかず、例えば政府による品質のチェック等がない。</li> <li>・ 電気、水等基礎インフラがなく、それらに投資するためのファイナンス・メカニズムも存在しない。</li> <li>・ カシューナッツの木が古い。木は 5 年ほどで成熟し、25 年間で寿命である。しかし、モザンビークのカシューの木は 25 年以上のものが多く、健康的な若い木の一本あたりの収穫量(加工前の殻つきのカシューナッツ)が 7~12kg であるのに対し、モザンビークでは 2~5kg が平均である。</li> <li>・ 1997 年以降の産業の破綻もあり、銀行はカシューナッツ生産はリスクが高いと考えており、銀行からのローンが難しい。</li> <li>・ 土地は 50 年間の国からの使用権による利用であるが、特に問題はない。</li> </ul> <p>&lt;農民に対する支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 燻蒸を実施するためのガソリンが必要という農民の声が多かったためガソリンを提供している。</li> <li>・ 品質管理に関するキャパシティビルディングを 2 年前に実施したが、毎年やる必要がある。</li> <li>・ 収穫を確保するため、収穫の 2~3 ヶ月前に納品を約束し、前金を支払っている。</li> </ul> <p>&lt;輸出&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 25 ポンドの真空パックのバルクで出荷され、ヨーロッパで味付け、子袋への包装等がなされる。</li> <li>・ オランダのブローカーを使っている。</li> <li>・ 今後は南ア市場への参入及び中東に注力したいと考えている。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 30 日(火) 9 時 00 分~10 時 00 分  |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | AMODER(マイクロ・ファイナンス機関)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Gilberto Medeiros, Coordenador de Programas de Credito  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オランダ・モザンビークの NGO であり、非営利団体であるが、持続可能性をほぼ達成している(一部下記の通りプロジェクト・ベースの融資がある)マプトに本部があるほか、8 つの支店を国内に展開。北部に多い。</li> <li>・ 当初、ヨーロッパのオランダ NGO、(ベルギーの)Oxfam、スウェーデンの NGO からの支援を受けた。現在は政府及び国際金融機関からの融資がある(漁業サポート・プログラムに対してアフリカ開発銀行、世銀ファンドのプロジェクト等)。</li> <li>・ 地域開発を目的としており、地方部のマイクロ・クレジット機関という認識である。</li> <li>・ 融資する事業としては次のものがある。ほとんどの貸付が個人に対するものである。</li> </ul> |

|         | <p>(1) 農業関連貿易<br/> (2) 商業(インフォーマル及びフォーマル)<br/> (3) 物流<br/> (4) 小規模産業<br/> (5) アグロ・プロセッシング(製粉、カシューナッツ等。Mogincual 地区に 10 のカシューナッツ加工工場を設立するパイロットプログラムが HIVOS というジンバブウェの NGO によって開始されている)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業に対する支援: 生産者ではなく仲介業者を支援している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生産者はリスクが高いため支援できない(小規模農家が殆どで、生産されるシーズン・収穫量が安定しないため)。</li> <li>(2) 農家に対して融資しているマイクロ・ファイナンス機関はなく、NGO のみである。</li> <li>(3) 仲介業者は、収穫を仕入れる際に資金が必要である。</li> <li>(4) 穀類や換金作物の収穫時期である 5～6 月、カシューナッツの収穫時期である 9～10 月に融資が必要とされる。</li> </ul> </li> <li>融資の種類: <table border="1" data-bbox="552 748 1249 943"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>ローンの額</th> <th>利子</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小規模</td> <td>5,000～70,000MTN</td> <td>月 3.0～4.0%<br/>(初めての融資は 4%)</td> </tr> <tr> <td>中規模</td> <td>70,0000～400,000MTN</td> <td>月 3.0～3.5%</td> </tr> <tr> <td>大規模</td> <td>400,000～2,000,000MTN</td> <td>月 2.5～3.5%</td> </tr> </tbody> </table> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>不履行は 25%程度である。2004～2005 年は、農業関連の債務不履行が 75%にも上った。これは天候に恵まれ逆に供給が拡大しすぎ、市場価格が暴落したためと考えられる。不履行率が非常に高いため、AMODER の持続性の確保が常に難しい状況である(そのためこれ以上の利子引き下げ、農業生産者に対する支援等は出来ない)。</li> <li>保証に関して、家を担保にしても家を没収するのは大変なプロセスである。政府も問題視しており改善する方向だが、司法手続きの遅れが多い。また、小規模のローンに関しては、担保となっている家等に殆ど価値がない場合が多い。職員(契約)が村へ入りこむことで不正な不履行を防いでいる。</li> <li>ポートフォリオとしては、貸付額では中規模及び大規模がそれぞれ 25～30%の市場シェアを有するが、件数では大規模に関しては 5%程度、中規模は 15%程度であり、小規模ローンが大部分を占める。</li> <li>銀行とマイクロ・クレジットの関係としては、以下の点が挙げられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地方部に銀行がないことが最大の阻害要因となっている。</li> <li>(2) (アプリケーションの)手続きが銀行はさらに複雑である。</li> <li>(3) マイクロ・クレジット機関のほうが返済の交渉等がフレキシブルである。</li> <li>(4) 銀行に対する恐怖感を持っている場合が多い。小規模なローンを借りる人は銀行口座を持たない人が多い。AMODER ではチェックで渡しており、銀行口座なしでも身分証明書があれば銀行で換金できる。</li> </ul> </li> <li>従来低リスクだった事業が高リスクになるという現象が起きているので、AMODER もビジネスモデルを変え、農業加工に着目するようになった。例えば、貿易業(Trader)・物流業者はリスクが低かったが最近ではリスクが高くなっているが、この要因の1つとして交通費が高くなっていることもある。西部はナカラ回廊沿いをナンブラに向けていくよりもマラウイのほうが楽であり、農作物もマラウイ向きに出荷されている場合もある。</li> </ul> | 種類                         | ローンの額 | 利子 | 小規模 | 5,000～70,000MTN | 月 3.0～4.0%<br>(初めての融資は 4%) | 中規模 | 70,0000～400,000MTN | 月 3.0～3.5% | 大規模 | 400,000～2,000,000MTN | 月 2.5～3.5% |
|---------|---|----------------------------|-------|----|-----|-----------------|----------------------------|-----|--------------------|------------|-----|----------------------|------------|
| 種類      | ローンの額   | 利子                         |       |    |     |                 |                            |     |                    |            |     |                      |            |
| 小規模     | 5,000～70,000MTN   | 月 3.0～4.0%<br>(初めての融資は 4%) |       |    |     |                 |                            |     |                    |            |     |                      |            |
| 中規模     | 70,0000～400,000MTN  | 月 3.0～3.5%                 |       |    |     |                 |                            |     |                    |            |     |                      |            |
| 大規模     | 400,000～2,000,000MTN  | 月 2.5～3.5%                 |       |    |     |                 |                            |     |                    |            |     |                      |            |
| 7. 収集資料 |   |                            |       |    |     |                 |                            |     |                    |            |     |                      |            |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月30日(火) 9時～10時   |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | Ferneto Lda., Beira Branch  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jose Claudio, Director  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同社はポルトガルのパン製造機器メーカーのモザンビーク現地法人であり、1998年に設立された。マプトが中心であるがベイラ支店も設立と同時に開設され、既に9年間営業している。</li> <li>従業員数はベイラだけだと16名であり、マプトには52名が働いている。また、Fornetoのパン製造機器だけではなく、他社(ポルトガルのメーカー)が製造するオープン、ショーケースもパン屋に必要な器具という観点から取り扱っている。</li> </ul> <p>&lt;マーケティング&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベイラ支店の販売担当地域は、北中部の全州(ソファラ、マニカ州以北)であり、販売は支店長一人で担当している(他は秘書1名+製造担当14名)。</li> <li>9年間で各地にネットワークを築いたことと、支店長は元々パン屋で働いていたこともありパン製造の全工程について熟知しており顧客のニーズを的確に把握出来るため、販売活動の状況はまずまずのことである。</li> <li>なお、販売を開始した9年前は各地に道路が整備されておらず、移動は困難であった。それと比較すると、道路が整備された現在は販売活動も楽になった。</li> </ul> <p>&lt;生産&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの機器は輸入して販売するのみである。ただし、比較的小規模な部品は組み立てをベイラ支店でも行うことがあり、オープン用の大型金網など輸入するとコストがよりかかるものは自社で生産している。従業員のトレーニングは支社長も含めて7名がポルトガルで研修を受けた人間であり(今年も2名派遣予定)、この7名が他従業員のトレーニングをOJTで実施している。そのため、オープンの金網生産に必要な鉄板の切断・加工・溶接・表面処理といった工程で、技術的には問題はない。</li> <li>支社オフィス兼工場は、1年前に建設されたばかりでまだ新しい。建設に際しては、手続きに時間がかかり、予定よりも遅れて着工した。建設工事には1年間を要した。</li> </ul> <p>&lt;今後の展望&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SADC内での関税撤廃に対する対応と南部アフリカへの販売拡張といった大きな方向性についてはポルトガルの本社、マプト支社が決定する。ただ、ベイラ支店長としては、将来的にオープン製造の全工程を自社で行えるようにしたいと考えている。</li> <li>また、カシューナッツやパイナップルなどの加工機械が製造できるようになればモザンビーク産業にも役に立つであろうと思われるものの、他社で既にこれら農産品に関わるビジネスを行っているところもあり、自社が参入すべきかどうかについてはもっと考える必要がある。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | ・製品パンフレット   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月31日(水) 9時～10時  |
| 2. 場所    | ナンブラ市  |
| 3. 機関名   | Cooperative League of the USA (CLUSA)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Martin Mason, Technical Advisor  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;CLUSAによる支援内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナカラでのプロジェクトはほんの一部である。全体の概要としては、クアンバでは、NOVIBというプロジェクト名で、大豆、ごま、落花生のプロジェクトを支援している。</li> <li>リオマでは、大豆の増産を支援しており、今後5年間で、10,000トンの生産を見込んでいる。大豆は、主に国内市場を対象として、食料向け65%と飼料35%として市場がある。</li> <li>マレマからリパウエにおいては、とうもろこしの生産を支援している。</li> <li>これらの地区は、土壌が農作物にきわめて適しているにも関わらず、長年の間、適作農</li> </ul> |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>業を実施してこなかった。また、農民は、国際価格に比べて、きわめて低い手取り価格しかもらっていない。たとえば、大豆では、国際市場では、トン当たり 170 ドルだが、ここでは、60から70ドルしか支払われていない。収量は、現在ヘクタールあたり、600キロだが、支援地区のマラミでは、現在ヘクタール当たり 3 から 4 トン当たり収穫できるようになっている。とうもろこしでは、トン当たりの輸出価格 FOB は、240 ドルとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援している農民グループもしくは組合では、牛による耕作を進めている。将来は、機械化も念頭においている。また、以前ブラジル人の経営による 5 万ヘクタールの広大な農地がクアンバ近くにあった。しかし、内戦で農地は放棄された。</li> <li>ナンブラ郡周辺ではピーナッツ、胡麻の支援をしている。また、農民が、高い値段で売れるように農産物の価格情報を提供している。</li> <li>また、8,000 の農家が集まって、農協主導による IKURU という民間会社の設立のための支援を行なった。カシューナッツや落花生を主に栽培している。IKURU は、農民自身により経営されており、USAID やのノルウエーのサポートを受け、輸出なども自身で行うような組織として育ちつつある。</li> <li>農村では、20 ヘクタールを 10 人程度で手作業により耕している。実際に収量増の効果を上げている。その結果として、収入が上がるということが分かれば、とても一生懸命やる農民が沢山いる。</li> <li>収穫された農作物の加工支援という点では、今後、落花生の等級付け、洗浄などの機械を導入する予定がある。また、ごま油の生産を組合ベースで実施していこうという計画もある。</li> </ul> <p>&lt;ナカラ回廊の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナカラ回廊地区でもっとも問題なのは、農民が、農作物を国際価格よりも安い価格で販売されることを余儀なくされていることであり、彼らが国際市場への販売の糸口を見出すことにより、より大きな現金収入を得ることができるよう支援していく政策が大切である。</li> <li>たとえば、カシューナッツなどは、半加工でインドに輸出され、そこで再び加工される。そして、利ざやの最も大きな部分はインドが取るようになっている。</li> <li>ナカラ回廊が舗装されれば、交通の便の便益は大きい。現在、列車で、トン当たり 70～80 ドルの輸送コスト、車では 100 ドル近くかかっているのが、舗装されれば、トン当たり 50～60 ドルの輸送コストとなり、利益に大きく貢献できる。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | なし。   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 30 日(火) 10 時半～11 時半   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | GAPI SARL(マイクロ・ファイナンス機関)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Nazir Abdul Karimo Mussa, Branch Manager<br>Mr. Paulino Roroge, Coordenador de Programas Regiao Norte   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間の機関であるが、ドイツの KfW 及びモザンビーク政府が株主になっている。</li> <li>ローンというメインビジネスの他、ビジネス・サポート・サービスも実施している。ビジネス・サポートに関しては、技術向上、マネジメント、会計、リーダーシップ、マイクロ・ファイナンス(預金、マイクロ・クレジットの仕組み等)に関する研修を実施した。</li> <li>融資額は 3,000～400,000 米ドル程度まで(MTN で貸し付けている)</li> <li>融資対象の活動は産業、漁業、サービス、SME 等である。農業は零細規模が多いのでリスク管理、マネジメントが煩雑であり、避けている。</li> </ul> <p>&lt;農業関連融資について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リスクが高いため、通常(下記の始まったばかりのパイロット事業を除いて、)個々の農業生産(農家)に対する支援は実施しない。</li> <li>農業の体制としては、個人が Association(20～30 農家の集まり)をつくり、その Association をまとめて Forum が構築されている。GAPI はこの Forum や場合によっては Association に対する融資を実施し、個々の農家に対する融資は実施しない。個人に対する融資は通常月 3～5%程度であるが、Forum や Association に融資することで(経</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>済価値のある)担保を要求することができるため 2%で融資できる。その資金が Association から個人農家に流れるというトリクルダウン効果はある (Association を通して個人に貸し出される)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農家に対する貸付は、現在まだパイロット段階である (その他、インフォーマルに仲介業者が季節の始まりに資金を貸し、現物支払ということを実施している場合もある)。</li> <li>IKURU のシェアホルダーとなっている。</li> </ul> <p>&lt;ナンブラ経済&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナンブラ経済は成長していると感じている。ナンブラは農業が盛んな地域であり、1 年を通じて農作物が取れる。</li> <li>また、ナカラの空港が中国からの支援によってアップグレードされる予定であり、観光ポテンシャルも高い。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 30 日(火) 11 時～11 時 40 分  |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | GTZ Project of Conducive Environment for Private Sector Development   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Wilhelm J. Parlmeyer, Project Manager<br>Mr. Bento Salema de Freitas, Consultant  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;プロジェクト概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法制度面でのビジネス環境整備と地方民間経済団体の強化という 2 つが、活動の柱である。プロジェクトは、2006 年始めに開始され、2008 年末に終了予定である。ただし、終了時の評価次第ではさらに 4 年間延長され、その後さらに 3 年間継続する可能性がある。つまり全体で最長 10 年間となる可能性もある。</li> <li>対象地域は、ソファア、マニカ、イニャンパネの 3 州としている。しかし、現在のところソファア州だけで手一杯の状態、他の 2 州には手を付けていない。</li> <li>これらの州が選定されたのは、内戦終了後すぐの 10 年以上前であった。当時、ドイツ政府が反政府グループの中心地域を支援するという目的で選定された。しかし、プロジェクト開始までに時間が経過し、状況が変わったにも関わらず、なぜか対象地域だけはそのまま引き継がれることとなった。</li> </ul> <p>&lt;事業実施上の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法改正とライセンス供与の簡素化を目標として活動している。基本は州政府が相手であるものの、法律は中央政府が関与するため、マプトで商工省を相手にすることもある。</li> <li>ただ、法律改正案の提案を行っても、州政府が法制度改革は喫緊の課題ではないと言って乗り気ではないことに加えて、District レベルのスタッフをトレーニングしようにも District は物事を理解し実施するのが最も遅い組織であり、思ったようには進捗しない。</li> <li>また、ライセンス申請手続きのコンピューター化にも行政は後ろ向き、One Stop Shop の構想にも政府は自分達でやると言い、非協力的である。</li> </ul> <p>&lt;地方民間経済団体の強化&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CTA、Association of Commerce Beira (ACB)、商工会議所、Association of Transport といったビジネス協会が、メンバー企業を支援するための戦略計画を策定する支援、政府との対話促進 (国レベルでは National Private Sector Conference などが既にあるが、地域レベルではビジネス・コミュニティと州、District レベルとの対話が無い)、法律面でのアドバイス強化のためのコンサルタント派遣、データベース整備とアクセシビリティの強化、インターネットを通じたメンバーへのサービス実施、書籍の刊行 (法制度とライセンス、新労働法、土地法) といった事業を実施している。</li> <li>各協会については、概してやる気はあるものの、それと実施能力は別問題というのが率直な感想である。例えば、ACB は古くからある組織で硬直的、セクター別 Association はマネジメントに問題が多いなど、プロジェクトの進展という意味では同じく芳しくないことに変わりは無い。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |



|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月30日(火) 14時～15時  |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | Oasis – Aguas de Ribabue, Lda.(ミネラル・ウォーター)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Mohamed Iqbal(社長)   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2006年に製造が開始された。想定以上の需要があり、現在16時間稼働させているが、生産が追いつかない状態である。</li> <li>供給先は、ナンブラ州、カポデルガド州、ニアサ州、ザンベジア州である。</li> <li>現在1時間2,000ℓ程度で製造しているが、ボトル洗浄のための25%程度の無駄がある。</li> <li>現在従業員は30人程度。衛生面の管理には気をつけており、全員マスク、帽子、制服等を着用している。</li> </ul> <p>&lt;生産状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Ribabue 近辺の山の上に工場があり、湧き水を利用している。</li> <li>通常ミネラル・ウォーター製造で導入されている逆浸透の方式では、ミネラルが全て一端取り除かれ、再度ミネラルを添加するため、Oasisはその方式を取っていない。</li> <li>安全性の確認に関しては pH や濁り度に関する簡単なテストは工場で実施しているほか、汚濁がないか毎週ナンブラの病院内にある政府の試験所でサンプルをテストしている。</li> <li>プラスチックボトルのプレフォームを作る過程も開始させるためのローンを申請中である。現時点では、プレフォームされたプラスチックを膨らますことのみを工場で実施しており、プレフォームをマプトから買い付けている(以前は南アから輸入していた)。クッキーをナンブラで製造し、マプトでも販売している会社のトラックを契約しているが、遅延が多い。マプトでの出荷時点からナンブラでの積み下ろしまでには1週間かかる。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ペットに対するリサイクル市場は存在しない。</li> <li>Iqbal氏は、他にもベーカリー、ヨーグルト、アイスクリーム、ジュース工場を所有している。ヨーグルト、アイスクリームはパウダーミルクをウクライナから輸入、ジュースは濃縮物を南アから輸入している。</li> <li>地域のミネラル・ウォーター市場の競合は4社である。</li> <li>ジェネレーターが高い(燃油代が高いため)ので、電力を提供するよう交渉した。</li> </ul> <p>&lt;ナンブラ経済について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミネラル・ウォーターの需要としては、以前は地下水(・水道水)を煮沸していたが、代わりにミネラル・ウォーターを飲む人が急増している。</li> <li>ナンブラではトウモロコシが採れるが、畜産飼料の工場がナンブラ近辺にはなく(マプトにはある)輸入しているため、チキンが高い。需要が高いにも拘わらず養鶏事業が少ないため参入する余地がある(ブロイラーで飼育されている農場も複数存在する)。</li> <li>畜産飼料が高価であるため牛も殆ど生産されていない。</li> <li>ナカラ回廊沿いは土地が肥沃であり、農産業が最大のポテンシャルである。今はカシューナッツばかりが目立っているが、カシューナッツの木を育てるのに良い土地は必要ない。むしろ大豆生産を増やすべきである。大豆を含む農産物の窃盗が近年問題になっている。また、バイオ燃料も増えていくと考える。</li> </ul> <p>&lt;ファイナンス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>銀行の手続きが遅い。1ヶ月以上たっているのにまだ何も進んでいない。過去15年ぐらい Millennium BIM 銀行との取引があり、いずれの事業も上手くいっている。しかし、今回のミネラル・ウォーター事業の拡大を単体で考えているが、リスクが高いと見られて時間がかかっている。実際は、機械は銀行保有としリーシングという形を取ることでリスクなどないはずにも拘わらずである。</li> <li>CPIを使っているが、CPI、政府の対応は全く問題なかった。</li> <li>Millennium BIM は、Portuguese Commercial Bank (BCP)資本の銀行であるが、ポルトガルではないような規制が色々存在する。2つの大手銀行(Millennium BIM 及び Standard Bank)と取引があるが双方で競争するわけでもなく、対応が悪い。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>IFCのような融資元の可能性もあるが、手続きが大変であるため申請していない。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アイデアを持っている起業家が少ない。ブームに乗ろうとするモザンビーク人が多く、失敗している。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月31日(水) 9時20分～10時半   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Ministry of Industry and Trade, National Directorate of Trade   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jaine Victor Nicols, Director<br>Mr. Arnold Z. Chemane, Head of Market Section<br>Mr. Langa   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;Directorate の役割&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>National Directorate of Trade は、市場が機能するための環境整備、価格動向の把握、農産品などの流通の活性化・適正化を目的として、国内市場の動向調査・分析・公表、政策の策定・実施管理を行う。</li> <li>同局が扱う Trade という概念には、国内商業取引と国際貿易の2つがあり、どちらもモザンビークの発展には重要である。特に国際貿易ということについては、2015年に完全自由化される SADC 域内の経済統合を控えて、商工省他局、他省もサポートしなければならない立場にあるものの、スタッフの能力は十分でない。</li> <li>政策については、ドナーは Trade からはあまり注目してもらえていないとの印象がある。現在、特に戦略のうちアクション部分を見直している最中であり、協力を仰ぎたい部分である。</li> </ul> <p>&lt;国際貿易における課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SADC 域内の経済統合はもちろんのこと、WTO の加盟国として現行の法律の多くを自由経済に即したものに改正し、競争法のようにまだ存在していない関連法の制定を新たに行う必要がある。</li> <li>また、法律のみならず実施の面でも強化が必要である。品質基準検査所はあっても基準を満たすラボを備えていないため、証明書の発行が出来るステイタスを有していない。</li> <li>その他、促進事業実施のための IPEX は予算制約などからその責務を果たすことが困難、といった課題が山積している。それに加えて、輸入製品のチェック、通関手続きなど商工省のみならず他省も関係している分野で問題が起きた際の解決サポートを行うにも同局スタッフの能力は十分でなく、そのための人材育成が急務となっている。</li> <li>経済統合に関しては、EU に最近加盟した国も同様な経験をしているかもしれないが、中東欧諸国は独立国家としての歴史が長いので、単純にモザンビークのような国とは比較できない。その意味では、アジアの国の経験を学びたいと考えており、そこで果たした日本の経験を是非ともモザンビークでも伝えて欲しい。さらに、日本のように他国との厳しい競争にさらされているマーケットで、省はどのような役割を果たしているかを知りたいとも考えている。</li> </ul> <p>&lt;国内商業取引における課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内市場を活性化するには、大きなチャレンジがいくつもある。貿易と同様に自由経済が機能する環境整備をはじめ、ライセンス供与の簡素化、フェアな競争が行われるよう監督するためのルール設定と実施、適正表示の徹底、偽物を製造した事業者に対する法執行、国内競争の促進などである。</li> <li>モザンビークは 95%の事業所がインフォーマルであり、まずはこれらのフォーマル化から始めなければならない。その点でもアジアの国の経験を学びたいと考えている。他国のこのような経験は本で読んだことはあるものの、現場でのオペレーションの実態が分かりにくく、すぐに実施できるとは考えていない。実地の体験に基づいた知識・経験を学ぶことが必要である。</li> <li>企業の課題としては、独自の製品開発とそれを補完するマーケティングの強化が求められる。初歩的な加工の段階でも良いので少しでも付加価値を高めることが出来、それが国</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>内生産の増加につながることを期待している。例えば農産物の Value Chain 確立もその一つの方策と言えよう。また、倉庫・サイロなどストック施設の少なさ(回廊沿いで特に不足)はクリティカルな問題として捉えることが出来る。生産量そのものは増えているので、貯蔵する農産物の量を増やすことが出来れば、現状で多くが腐ってしまっているという問題を解決し、増加部分を輸出にまわすことが出来る。そのような施設は大型である必要はなく、せいぜい2,000～15,000t 規模のサイロで十分であろう。流通の観点から回廊沿いのどこにサイロを設定すればよいのか、運営管理の方法は、といったアドバイスを日本の協力で行ってもらえると有難い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記以外では、農村部のネットワーク化のために、内戦で破壊された販売所施設(市場)を、回廊沿いで建設・整備することが重要であると認識している。一つのマーケットの規模は、店の数にして 20 あれば十分である。隣に手押しポンプを設置して取れた野菜を洗い、その場で販売出来るようにすることだけで、アスファルトの上に商品を置いて腐らしてしまうという状況を変え、国内における取引を増やすことが出来ると考えている。</li> <li>・ 上に挙げた販売する際の工夫をはじめとして、とにかく国民はいろいろな形で改善を求めるサインを出しているので、それを見逃さず環境整備を進めるのが政府の役割である。そして、商業取引の活性化を通して、国民のビジネスに対する意識、競争に対応するための意識を向上させることを目指している。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Trade Policy and Strategy</li> <li>・ Trade Strategy of Agricultural Products 2006-2009 (ポルトガル語)</li> </ul>   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年10月31日(水) 9時30分～10時30分  |
| 2. 場所    | Murrupula  |
| 3. 機関名   | カシューナッツ工場  |
| 4. 先方対応者 | 工場長等(経営者である Mr. Ali Cherif Deroua が対応できず代理)  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従業員は 180 人程度。給与は一日 40MTN 程度であるが各自の生産量によって決まり、月一回支払われる。</li> <li>・ 地方から工場働くために移り住んでいる家族もある。従業員用の食堂、診療所を建設中である。</li> </ul> <p>&lt;生成過程&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナッツの過程は、①スチームし、ナッツの殻を割りやすくする(湯沸しの燃料にカシューの殻を使用)。②簡単な足踏みのナッツ割り機械を使って殻を取り除く(男性中心)。③オープンで 6 時間程度焼く(ガスポンプ使用)。④薄皮を小さなナイフを使い剥がす(女性中心)。⑤品質によって仕分けする(一級、二級、破損、くず)。</li> <li>・ これにより、最高品質といわれるカシューナッツが生産される。ナッツの品質ではなくスチーム、オープンの過程で品質が決まる。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在は電気が通っておらず、ジェネレーターを常時使うのは高価であるため工場は電気がなく、稼働時間も減らしている。</li> <li>・ 加工されたナッツは Agro Industrias Associadas Lda.(AIA)に売っており、AIA が輸出している。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月31日(水) 11時00分～13時00分  |
| 2. 場所    | Murrupula 近辺  |
| 3. 機関名   | 農業組合(別に農地を視察)   |
| 4. 先方対応者 | 農業組合(Forum)長、他  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米 CLUSA に促され、1998 年に 30 程度の農家からなる農業組合 (Association) が地域</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>で設立された。それら農業組合を集約する Forum があり、その上に 10 の Forum を集約する District Forum がある。IKURU は District Forum が株主となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• District Forum が農家に対してマネジメント、資金管理等の研修を実施している。</li> <li>• 2001 年にオランダの支援によりカシューナッツ加工機械及び倉庫が建設された。</li> <li>• また、モザンビーク政府から製粉機械(中国製)が供与されており、農村内でのトウモロコシ等の消費のために使われている(換金作物ではなく自給自足)。</li> <li>• 農家の平均的な土地は 2ha である。それぞれの農家がキャッサバ、トウモロコシ、カシューナッツ、落花生等を生産している。</li> <li>• 昨年から牛を使って耕作されている。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 31 日(水) 11 時～12 時 50 分  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Investment Promotion Centre (IPC)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Horacio Eugenio Dombo, Head of Industrial Free Zones & Special Projects Division<br>Mr. Victor Tivane, Project Analyst  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;関連情報&gt;</p> <p>(1)商法における企業の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-SARL: Joint Stock Company に相当</li> <li>-LDA は Limited Liability Company に相当</li> </ul> <p>(2)企業が支払う代表的な税の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-法人税: 32%</li> <li>-VAT: 17%</li> <li>-所得税: 所得により変動</li> <li>-社会保障費: 7%(雇用者 4%、労働者 3%負担)</li> </ul> <p>(3)新労働法</p> <p>2007 年 11 月 1 日より施行、外国人割合は多くて 10%までであり、大企業ならばもっと低い。雇用と解雇の規定も重要だが、詳細は労働法を参照して欲しい。</p> <p>&lt;Free Zone&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•1993 年に制度がスタートした。大きく 2 種類ある。 <ul style="list-style-type: none"> <li>-Free Zone Area: 現在マプト近郊マトラの 1ヶ所のみ</li> <li>-Stand Alone Company: 250 名以上のローカル・スタッフを採用する企業が認定されるステータスで企業そのものが Free Zone と同じ権利を有する(Mozal、Moma の重砂プロジェクト、Nacala 回廊運営会社など)</li> </ul> </li> <li>• 現在、新しい形態の Special Economic Zone の計画がナカラにある。これは工業、貿易、港湾など全ての機能を備えた Logistic Centre とも言えるもので、中国をモデルとしている。既にフィジビリティ調査は終了し、ファンドを探している状態である。</li> <li>• ナカラが選定された理由は、深い天然の良港、回廊とともに、背後にある林業、農業をはじめとするポテンシャルのある産業の存在が大きく、北部開発の基点とすることを考えていることにある。また、ナカラにある空軍基地を国際空港化することも予定している。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | <ul style="list-style-type: none"> <li>•Cost of Factors in Mozambique</li> <li>•Mozambique Mozaik (CD-ROM)</li> </ul>   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 31 日(水) 12 時～13 時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Ministry of Industry and Trade, Cabinet of Communication and Public Relations |
| 4. 先方対応者 | Mr. Manuel Fernando Chicane   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |

|         |  |
|---------|--|
| 6. 面談内容 | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同部署は、元々省内の情報処理と整理が目的であった資料室の機能を、図書館と広報に切り離して出来たものである。現在は、大臣直属であり、Made in Mozambique を広めるのも業務の一つである。</li> <li>(面談者は元 JICA 研修員(JICA 中国「南部アフリカ中小企業振興」に 2006 年に参加)である。)研修からの帰国後、省内の Consultation Council のメンバーに抜擢され、政策策定の重要会議にも出席していた。実際に会議では、日本で視察し印象に残った施策をモザンビークの事情に合わせた形で提案し、それが UTPIR 事業の実現にも結びついている。</li> </ul> <p>&lt;中小零細企業振興の新機関&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい中小企業政策では、中小零細企業振興 Institute を設置することが盛り込まれた。これは金融の FFPI、アドバイザー・サービスの IDIL (Institute for Local Industry Development)、技術振興のための UTPIR (Rural Industrialization Promotion Unit) の機能が一つになるものである。IDIL は新組織が出来る前に廃止されてしまうが、FFPI と UTPIR は Institute に組み込まれる形で事業は存続する。</li> <li>UTPIR の役割は、農村の事業者が果物、とうもろこし、米といった製品の加工機械を設置して付加価値を高めることができるよう、機械の業者と事業者の仲介・紹介をすることである。これは日本での研修で市町村が、中小企業センター等に設置してある機械を企業が共用で使えるようにしているケースを見たことにヒントを得た。予算的に同様なセンターを設置することは難しいが、機械の情報さえも入手が困難な農村の事業者に対して紹介することならば可能と考え、実施を提案したものである。ただし、UTPIR が機械購入のための資金を出したりすることは出来ず、機械の紹介と意識向上にとどまっている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・MIC Magazine (ポルトガル語)</li> <li>・Investir Magazine</li> </ul>   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 10 月 31 日(水) 14 時 30 分～15 時 00 分  |
| 2. 場所    | ナンブラ市  |
| 3. 機関名   | Royal Plastic, Lda (Grupo Royal)(プラスチック製造。グループ内に石鹸、キャンドル工場、貿易業者を持つ)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Hassnein R. Taki 社長  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim (通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1997 年に設立された。事業を拡大するため、現在工場を建設中である。</li> <li>24 時間稼働中。従業員は 30～33 人。従業員の問題は特にない。インドから 8 人の技術士が派遣されており、機械の使い方等をモザンビーク人に研修している(当初は 16 人であり、徐々にモザンビーク人にシフトさせている)。</li> <li>マラウイ及びタンザニアに輸出するためにファイナンスを銀行に申請中(3 ヶ月前に申請)であるが、まだ決定していない。国内でのローンは 21～22%と利子が非常に高いため、タンザニア・マラウイへの輸出を理由にドル建てでのローン(利子は 9～10%程度)を申請しているが、政府からの許可が必要であり、時間がかかっている。</li> <li>また、現在、IFC とファイナンスの可能性を話し合っている。今回の投資について、CPI を通しているが、CPI は 20 日以内に全て手続きを進めてくれ、非常に対応が良かった。</li> <li>ドバイ・インドから月一回原材料を輸入している。</li> <li>仏 Carrefour 社のプラスチック袋製造の一過程を委託され、ドバイから移す計画がある(人件費が安いため)。&lt;交通インフラ&gt;</li> <li>ナカラ港は現在故障があり、6 つのコンテナが 10 日間止まったままである。しかし、このような問題は今年初めてあり、通常は問題がない。港での通関手続きは 1～2 日間であり、通常は 5 日程度でナンブラに届く。</li> <li>2～3 年前に Mozambique Ports and Railways Company (CFM)(国営企業)から民営化され North Development Corridor (CDN)に変わったが、に変わったが、取扱手数料が以前よりも高くなった(20 フィートコンテナあたりの料金は、以前は 1,500～2,000MT 程度であったが 6,000MT になった)。また、以前よりも書類が多くなり、煩雑になった。今後良く</li> </ul> |

|         |                |
|---------|----------------|
|         | なると聞くので期待している。 |
| 7. 収集資料 |                |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年10月31日(水) 15時～16時  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | International Finance Corporation (IFC)   |
| 4. 先方対応者 | Ms. Tracy Lloyd, Investment Officer-Program Manager   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;事業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民間企業への大型投資は Mozal などあげられる。金額としては 1 千万ドル以上であり、ヨハネスブルクの IFC オフィスが管理しているため、マプトのスタッフは直には関わっていない。</li> <li>・ また、毎年実施している Doing Business 刊行のための調査は、基本的にワシントン DC が管理しているため、調査委託先との連絡を若干行うのみである。</li> <li>・ 中小企業をはじめとする産業振興に関する協力としては、かつてアフリカの多くの国で実施していた African Project Development Facility (APDF) をモザンビークでも行っていた。これはビジネス・アドバイザー・サービスの中でも、主にビジネス・プラン作成支援が活動の中心であった。しかし、多くの国で成果がいまひとつ上がらなかったという事実を踏まえ、これを終了し、新たに Private Enterprise Partnership for Africa (PEP) を開始した。</li> <li>・ PEP では、APDF のビジネス・プラン作成では足りなかった法制度の改正、ビジネス・アイデア開発、クレジット供与といった具合に多面的にサポートすることを目的としている。例えば PEP から派生した MOZLINK と呼ばれるプログラムでは、IFC も出資した Mozal への物品調達、庭園管理、ケータリングなどの業務について、求められる質と安全性を確保しながら地域の中小企業が取引を行えるように橋渡し役を果たした。また、官民対話という面でも、観光分野を皮切りに促進しようとしている。</li> <li>・ PEP 中の Entrepreneurship Development Initiative では、ビジネス・プラン策定に加えて、サポート機関支援、経営アドバイスのためのコンサルタント派遣を行っている。一般的にモザンビーク人はドナーへの報告書作成は上手だが市場調査・分析、資金計画作成といった内容の文書は苦手であり、アドバイスのレベル的には初中級でも、大いに役に立っていると考えている。</li> </ul> <p>&lt;Mozambique SME Initiative (MSI)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PEP はアフリカの多くの国で実施されており、それぞれで新しい試みを実施している。モザンビークでは、MSI がそれに当たる(このモデルを実施しているのはモザンビークのみでパイロット・プロジェクトの段階)。これは IFC と政府との協議の場で、クレジットの欠如を解決するための方策を実施することが決定され、特にリスク・キャピタルという新しいスキームを試すこととなった。通常の銀行は大規模融資のみに興味があり、一方でマイクロ・クレジットは小額のみを取り扱う。そのため両者の間の顧客を相手にする金融商品がなく、他社から借りるか親類から借りるというのが一般的であった。そこで両者のギャップを埋めることを目的にリスク・キャピタルという新しい概念を導入した。</li> <li>・ MSI で提供しているリスク・キャピタルとは、融資するという形式を取り、企業の業績が良ければ 4～6%の固定金利を付けて返済するものの、業績が悪く金利返済も出来ない状態になれば利益の 5%分のみを IFC が得て金利返済は無くなるという仕組みである。これは言い換えれば Quasi Equity Financing とも呼べる。つまり、純粋な Equity Financing はモザンビークの状況を勘案すると株式上場はありえず、株の買い戻しも難しいので実施が困難であり、同時に担保を取らない形式であるため Debt Financing と異なるからである。</li> <li>・ なお、MSI は投資にアドバイザー・サービス(厳密には経営参加)を組み合わせているのが大きな特徴である。IFC のこれまでの経験から、資金とアドバイスの 2 つがあれば企業が成長する可能性が高まるということは明白だからである。アドバイスは通常は IFC モザンビーク事務所の MSI スタッフが行い(米国人マネージャー、銀行経験モザンビーク人 2 名、アドバイザー・サービス担当英国人とモザンビーク人の 2 名)、技術的専門的アドバイスなどの必要に応じて Technoserve などを活用している。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ファンドは 2005 年初めに設立され、2006 年 1 月に融資を開始した。返済期間は 6 年間であり、1 年間の猶予期間がある。また、金額は 10 万～100 万ドルであり、平均投資額は 40 万ドル。ファンドの期限は 2009 年末である。</li> <li>・ リスク・キャピタル提供のためのファンドは、フィンランド、スイス、オランダ政府からのグラントを活用して開設した。内訳は、IFC300 万ドル、スイス 350 万ドル、フィンランド 75 万ドル、オランダ 475 万ドルである。また、全体 1,200 万ドルの資金のうち、500 万ドルは融資用、400 万ドルはコンサルティング実施のための費用、300 万ドルはファンド運営そのものための費用である。</li> </ul> <p>＜MSI での投資先＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投資先としては、数多くの中小企業をサポートすることはまったく考えていない。モザンビーク国内のベスト中小企業のみを選定して、成功事例を作ることが重要であると考えている。そのため、10～15 社への投資だけで十分と考えている。</li> <li>・ 対象となる企業の条件としては、経営陣がしっかりしており(企業の評判が良好、経営者の経営方針が明確、経営者の人柄が良い)設立後数年を経過してそれなりのパフォーマンスを示していることがあげられる。また、担保は取らないものの、ある程度の固定資産を有していることも条件である。</li> <li>・ 第 1 号投資は、SGL というグラフィック印刷の企業に対して行った。同社が印刷機械 5 台分、最低 50 万ドルの資金を必要としていたため、70 万ドルを融資し、同時にソフトウェア購入のサポートもしている。このソフトウェアは IFC 経由で企業が購入するという形をとり、同社は IFC に対してその代金を数回に分けて返済するため、同社が IFC にソフトウェア購入用の資金を借りるのと同じことになる。他金融機関から資金を借りて同様に行うならば返済に際して金利払いが生じるものの、この場合企業はソフトウェア代金のみを IFC に返済し、金利を支払う必要はない。</li> <li>・ SGL 以外に既に 2 社に投資済みで、年内にもう 3 社を予定している。投資済み企業の経営者は、1 社のみ黒人モザンビーク人女性であり、他はモザンビークに長年住んでいる英国人、パキスタン人、ジンバブエ人などの外国人が多い。その理由は、成功している企業の黒人経営者のほとんどは IFC の中で投資・融資を極力避けなければならないとされている People Politically Exposed で対象に出来ないという事情があるからである。投資先は、ワシントンのモザンビーク担当 Director、ヨハネスブルクの Director、モザンビークの Director の 3 社の合意で決定される。</li> </ul> <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MSI の範疇では、上記リスク・キャピタル以外に、Mozambique ICT Institute における IT Incubator 設立、モバイル・バンキングによるマイクロ・ファイナンス供与などを予定している。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Mozambique SME Initiative (MSI) Program Presentation</li> <li>・ SME Entrepreneurship Development Initiative (SME EDI) Brochure</li> </ul>   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 1 日(木) 10 時半～11 時半   |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | GAPI SARL  |
| 4. 先方対応者 | <p>Mr. Adolf Adolf Muholove, Director of Financial Extention Services, Board Member</p> <p>Mr. Benigno Parente Junior, Director of Operation</p> <p>Mr. Jacinto Manjate, Credit manager</p> <p>Mr. Amiro Abdula, Credit Manager</p>  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>＜事業概要＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GAPI は 1975 年に設立された金融機関であり、農村部を含めた事業へのクレジットを供与する。現在の出資比率は、GAPI30%、Rabo Bank (オランダ系銀行) 30%、KfW20%、NorFund(ノルウェー政府) 20%であり、GAPI の資金は Banco Tera からとなっている。</li> <li>・ 他国の政府機関からも出資を受けている企業体であり、一般の銀行のように資金調達のための顧客獲得を行う必要がないという環境にもある。そのため、完全に民間の利益追求の理論で動けるわけではなく、その点で GAPI は Financial Institution であって銀行やマ</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>イクロ・クレジットではないと言える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業の柱は3つあり、Financial Service 以外では、Business Development Service と Institution Building があげられる。モザンビーク国内にイニャンパネ以外の全州に9つの支店がある。スタッフ数は地方も含め約70名。農村部で貸付業務、アドバイザー業務など各種サービスを提供できる複合業務が可能なライセンスを政府より受けている。</li> </ul> <p>&lt;Financial Service&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貸付金額は、4,000～300,000ドルと幅は広い、平均は40,000ドル程度である。金利は年22～23%、出資を受けている資金は年率15%程度であり、組織運営費+アルファとして5～9%を上乗せした利率である。なお、担保は取らない。</li> <li>・ 顧客数(融資先)は約1,000社(者)で、その多くは協会や組合などとなっている。返済率は85%程度、それほど高くないがリスクの高い農村部の企業を相手にしていることから、一般の銀行等とは比較できない。ただし、組織の性質上、銀行でローンを組めなかった人が多く来るとはいうものの、全ての事業に貸せるわけではなく、これまでの業績、今後の展開に関する考え方のチェックなど審査は厳しく行っている。</li> </ul> <p>&lt;Business Development Service&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 貸付先のキャパシティ・ビルディングとしてビジネス・ディベロップメント・サービスを実施している。これは自分たちのオフィスで待って、来た人にアドバイスするのではなく、実際に現場の企業に足を運んでアドバイスするものである。内容はローンとは何か、金利とは、ビジネス・プランなど基本的なことが多い。このアドバイス事業があるかないかで企業のパフォーマンスが大きく異なってくる。</li> <li>・ 金融サービスも含めて、GAPIスタッフのトレーニングは独自に行っている。その内容は、クレジットの知識、投資先の審査、リスク管理、ビジネス・アドバイスといったもので、最後の2つは特に今後強化の必要があると考えている。</li> </ul> <p>&lt;Institution Building&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農村部への金融では、如何にして人々(事業)を優良な貸付先とするかが重要である。そこで、貸付先である協会や組合を通して、経営ノウハウ、資金がより多くの零細中小企業に伝播するような仕組み作りを進めている。</li> <li>・ したがって、直接の顧客数は1,000であるが、実際にはその何十倍の広がり・影響力があると見え、これら末端の事業者にはベネフィットが行き渡っているかのフォローアップも行うようにしている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | ・GAPI Brochure(ポルトガル語)  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月1日(木) 11時～12時   |
| 2. 場所    | ラパレ郡  |
| 3. 機関名   | New Horizons, chicken processing factory  |
| 4. 先方対応者 | 飼育指導担当者、加工責任者   |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;工場の施設概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同社は、ジンバブエ人の投資により、2005年から創業を開始した。CPIの投資にも登録されている。いままでにおよそ百万ドルの投資をしている。</li> <li>・ 工場のシステムとしては次のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 受精卵をジンバブエから陸路および空路で工場まで輸入</li> <li>(2) 18日間、孵化器で卵を温める(40度程度)。孵化直前、別の機械で卵を孵化させる(3日間)。</li> <li>(3) ひなを、契約している160の農家に配布する。1農家500から1000羽のプロイラーを飼育している。</li> <li>(4) 35日間の育成期間後、鶏を工場が買い取り、屠殺し、瞬間冷凍(マイナス18度)で、スーパーマーケットなどへ出荷する。</li> </ol> </li> <li>・ 現在、屠殺する機械および冷凍庫を設置中で、1ヵ月後に完成予定である。現在は、飼育しているプロイラーを生きたままで、バザールなどに一羽あたり70MTで売っている。</li> </ul> <p>&lt;養鶏のシステム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農家からは、1キロあたり43～45MTで買い取る。単純計算では、500羽では、</li> </ul> |



|         |   |
|---------|---|
|         | <p>21,000MT となるが、農家に養鶏場の建設コストをこちらからの持ち出しで貸し付けており、その費用とえさ代を差し引いた分を農家に支払っている。1ヶ月当たり2,000MTあたりの現金収入が農家にある。また、建設コストの支払いが終わった農民の手取りは、月120ドルぐらいとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 契約農民は、部落のリーダーもしくは宗教のリーダーからの推薦により決める。10戸程度の部落で1戸が選定される。現在ラパレ周辺で、160箇所の飼育場を設置している。</li> <li>・ 主要原料となるところは、現地で買い付けている。60%ぐらいがとうもろこし、その他のビタミンなどの原料は、カナダなどから輸入している。現在、原料価格は、上昇傾向にある。われわれは、えさ単体としても販売している。雛そのものも、1羽15MT程度で販売している。</li> <li>・ 他にもこのような養鶏場を持っているところは、GETT社など沢山ある。また、屠殺については、1日に8,000羽程度の処理能力を持っている。</li> </ul> |
| 7. 収集資料 | なし。   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月1(木) 14時～14時50分  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Ministry of Industry and Commerce, Private Sector Support Unit   |
| 4. 先方対応者 | Ms. Julieta Domingas Puehime, Director   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;ユニットの役割&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 投資家にとっての障害を取り除くことがユニットの目的であり、ライセンス供与の簡素化、登記の簡素化、輸出入手続きの迅速化、破産手続きの迅速化などが主な課題となっている。</li> <li>・ これら課題に対処するため、Public Sector Reform Inter-ministerial Committeeという省横断コミッティーが設立されており(議長は首相)、このコーディネーターとして、Council of Ministers への毎週の報告を含め、全体のファシリテーションを行う。</li> </ul> <p>&lt;戦略&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在、Business Environment Improvement Strategyという商工省、財務省など複数の省が実施に関わる戦略を策定中であり、既に第2稿が完成している。これに対する各大臣からのコメントを待って修正のうえ Council of Ministers に提出し、本年11月末の承認を目標としている。</li> <li>・ 内容としては、登記手続き、輸出入手続き、企業清算手続き、労働者登録、ライセンス供与などであり、これに加えてクレジット、インフラ、ガバナンスといった課題にも触れている。既に産業戦略、中小企業戦略でも触れられている項目を敢えて別の戦略として策定する目的は、全ての省がワークするように統合的方針を示すことにある。また、政府5年計画、PARPA II が、当然のことながら方向性の拠り所である。</li> <li>・ なお、戦略が承認された後は、同ユニットはモニタリングを担当することになる。</li> </ul> <p>&lt;手続きの One Stop Shop&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ IFC の Doing Business 2007 で、モザンビークは企業登記の項などで躍進した。この動きをさらに加速させるため、BAUと呼ばれる One Stop Shop が2007年5月に設立され、既に全州に設置された。</li> <li>・ BAUでは各種登記、ライセンス供与の手続きに必要な各省の機能が1ヶ所に集まっている他、現在は銀行で支払わざるを得ない納税も、将来的にはここで行えるようにする予定である。</li> </ul> <p>* 面談後、同省 National Directorate of Industry に立ち寄り産業政策・戦略を入手</p> |
| 7. 入手資料  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Government Gazette May 30, 2007(ポルトガル語)</li> <li>・ Industrial Policy and Strategy</li> </ul>  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月2日(金) 9時～10時  |
| 2. 場所    | ナンプラ市内  |
| 3. 機関名   | Sanam Group, Cotton factory, oil factory, soap factory  |
| 4. 先方対応者 | President of the company, Mr. Issufa Nurmamade  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同社は、南部アフリカ地域で最大規模の綿花工場を持っている。綿花油、その他、やし油石鹼なども製造している。</li> <li>現在、紡績機械の導入のために、資金援助先を探しており、EUなどにも支援を求めているところである。モザンビークには、工場に対する補助金制度がない。</li> </ul> <p>&lt;綿花工場の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現在、綿花工場は、リバウエ、モトアレ、クアンバ地区の43,000農家と契約し、綿花を生産している。</li> <li>機械は、アメリカ製の新品を設置し、1日で450トンの処理能力がある。しかし、現在は、年産2万トン程度である。</li> <li>処理能力と生産量の差は、原料となる綿花が調達できないところに問題がある。政府は、PAPRAなど作成しているが、現場の農民には何も裨益がない。同社は、3.5万本のカシュー園もあるが、その加工についても何も支援を得ていない。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(技術向上などの支援も可能との問いに対して)技術面の支援は必要ない。それに日本の機械があるわけではなく、工場はお見せできない。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | なし。   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月2日(金) 9時～10時30分   |
| 2. 場所    | ナカラ市  |
| 3. 機関名   | CDN - PNI (Porte De Nacala)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Agostinho F. Langa Jr. Director Executivo   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;港湾で扱う物品&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ナンプラ、ニアサ、カボデルガド及び一部ザンベジアからの貨物を取り扱う。</li> <li>マラウイからは、産業原料、砂糖(コンテナ及び袋詰)、タバコ、キマメ(pigeon peas)、紅茶等が輸送される。また、マラウイ向けの輸入では、肥料、クリンカー、小麦等である。タンザニアに本社があるバクレンサーという製粉会社がナカラに工場を作ったので、その関連の荷が増えている。</li> <li>以前は燃料も運んでいたが、2005年1月に契約交渉が成立せず、使われていない。燃料による収益は鉄道にとって重要であるため、現在交渉を再開させている。</li> <li>国内向けでナカラを通る輸入品は、小麦、クリンカー、コメ、コンテナ貨物である。肥料は国内の農業で使われていないため輸入されていない。</li> <li>国内からのナカラを通る輸出品は、木材(以前は丸太が多かったが禁止されているのでコンテナに材木となって積まれている)、カシューナッツ、トウモロコシ、綿等である。</li> <li>現在、取扱の70%はモザンビーク国内の物流、30%はマラウイ向け・発の物流である。5年前までは60%はマラウイ関連、40%がモザンビーク関連の物流であったため、モザンビークの経済活動が増えているといえる。</li> <li>国内貨物に関しては道路を使う場合が多い。70%が道路、30%鉄道である。鉄道に関しては対マラウイの物流が圧倒的に多い。</li> <li>コンテナ貨物の取扱量は毎年増えており、2007年には45,000,000TEUに達する見込みである。コンテナ貨物に関してはフル・キャパシティで扱っている状態である。一般貨物に関してはキャパシティの30%程度である。</li> </ul> <p>&lt;港湾について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・深海港であり、モザンビークで一番深いだけでなく、モンバサ港よりも深い。</li> <li>・現在の取扱は以下の通り:</li> </ul> |

|         |   |        |               |              |        |        |        |        |                |
|---------|---|--------|---------------|--------------|--------|--------|--------|--------|----------------|
|         |   |        | コンテナ(TEU)     | 一般貨物(メートルトン) |        |        |        |        |                |
|         |   | マプト港   | 65,000,000    | 6,000,000    |        |        |        |        |                |
|         |   | ベイヤ港   | 50~55,000,000 | 4,000,000    |        |        |        |        |                |
|         |   | ナカラ港   | 45,000,000    | 1,000,000    |        |        |        |        |                |
|         | ・コンテナ貨物(1,000TEU):  |        |               |              |        |        |        |        |                |
|         | 1997年   | 1998年  | 1999年         | 2000年        | 2001年  | 2002年  | 2003年  | 2004年  | 2005年          |
|         | 10,773  | 15,715 | 19,493        | 25,207       | 26,709 | 27,997 | 28,604 | 30,225 | 31,118         |
|         | ・一般貨物(1,000メートルトン):   |        |               |              |        |        |        |        |                |
|         | 1997年   | 1998年  | 1999年         | 2000年        | 2001年  | 2002年  | 2003年  | 2004年  | 2005年<br>(上半期) |
|         | 429.0   | 464.8  | 642.0         | 672.0        | 743.2  | 761.2  | 817.6  | 905.1  | 744.1          |
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1週間に1回ずつタンザニア・ダルエスサラーム港とナカラ港を往復している船会社が2つある。</li> <li>・ 現在、冷蔵倉庫は一つもない。バナナのために Chiquitta 社が建設するかも知れないが、自社向けと思われる。</li> <li>・ 港湾での手続きに要する時間は輸出に関しては1~2日程度、輸入は6~7日程度(ベイヤでは12日程度かかる)。マラウイ向けの貨物に関しては、機関車が足りないため、空いている鉄道を待たなければならないことから平均25日程度要している。</li> <li>・ 電気柵、CCTV等、セキュリティのための整備・管理を実施している。</li> <li>・ 荷捌き用のフォークリフト(現在2つ)、クレーン車、タグボート等の設備が不足している。</li> <li>・ 港湾部門で働くCDN職員は180人。また、港湾での作業員をアウトソーシングしている。</li> </ul> |        |               |              |        |        |        |        |                |
| 7. 収集資料 |   |        |               |              |        |        |        |        |                |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月2日(金) 11時~14時  |
| 2. 場所    | Nacala-a-Velha(旧ナカラ市近辺)の鉱山   |
| 3. 機関名   | 鉱山投資家及び州政府   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Antonio Jumma Calulo 及び州政府役人   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モザンビーク人と南ア人とのJVである。</li> <li>・ トルマリンを香港へ空路輸出している(ペンバからヨハネスブルグを経由)。一部は日本にも輸出されている。</li> <li>・ 採取量は、一月200~300kgである。300人程度で採っていたが、機械があれば採取量は2倍になる。</li> <li>・ コンセッション・ライセンスを取得している。</li> </ul> <p>&lt;ファイナンス&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 機械を購入するための資金を銀行に申請しているが、5月の申請がまだ承認されていない。マイニングは、世界中どこでもリスクが高いビジネスだが、モザンビークの銀行からはリスクが高いからと拒否されることが多い。</li> <li>・ 政府のMining Fundという基金があるが、小規模な個人向けである。</li> <li>・ 資金不足のため(採鉱のための機械購入を申請中)、現在採取事業をストップしている。</li> </ul> <p>&lt;鉱山事業一般&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在この地区でライセンスを取得しているのは3社である(①インド人、②モザンビーク人、③南ア人&amp;モザンビーク人)が、①インド人と②モザンビーク人の投資家は事業から撤退し、同社(③南ア人&amp;モザンビーク人)も資金不足で活動していないため、採掘活動は実施されていない。</li> <li>・ インフォーマルなマイニングで生計を立てている村がこのあたりにはいくつもある。村の男性は皆スコップを片手に採掘している。一握り、70MTN(グラムあたり20MT程度)で売っている。彼らは、PGM(Platinum Group Metals: 南ア企業)が活動していた際には従業員として雇われていた。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月2日(金) 14時30分～15時  |
| 2. 場所    | ナカラ市近辺  |
| 3. 機関名   | Madeiras Formas. Lda.(材木貿易業者)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Tsai Kun Ming(台湾人)+1名(モザンビーク人)  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;業界について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ モザンビークで伐採される木材は全て中国へ輸出されている。</li> <li>・ 2004年に進出した。現在30人程度の従業員がいる。中国の張家港へ輸出されている。</li> <li>・ ナンプラ州で伐採され、ほとんどはトラックで運ばれている。伐採はアウトソーシングで行なっており、地元企業10社程度と契約している。現在は、丸太の輸出が禁止されているため、製材するための機械を中国から待っている。しかし、製材した木材は品質が分かりにくいので好まれず、需要は少ない。</li> <li>・ 現在このような中国系の会社は10社程度ある。</li> <li>・ 植林された木が育つためには40年を要することから、今後モザンビークの林業は下降傾向であろう。</li> </ul> <p>&lt;ナカラ港について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に問題はないが、コンテナ貨物のハンドリングの問題は多い。中国や日本の効率性は期待できない。機械もなく、全く機能していないといっても過言ではない。</li> <li>・ ダーバンを経由してMaersk社等を使って輸出している。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月2日(金) 16時半～17時  |
| 2. 場所    | マプト州マトウトウイネ郡内   |
| 3. 機関名   | Ministry of Industry and Trade, Rural Industrialization Promotion Unit (UTPIR)  |
| 4. 先方対応者 | General Inspector, UTPIR staffs, Communication and Public Relations staffs, etc.  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>産業貿易省 Rural Industrialization Promotion Unit(UTPIR)は、地域における農産物生産者の機械化を推進する部署であり、今回はマプト州マトウトウイネ郡において同施策の説明会セミナーと既に機械を導入した企業へのフォローアップを実施したため、これに同行した。</p> <p>&lt;セミナー&gt;</p> <p>(1)概要</p> <p>UTPIR主催によるセミナーは、全国のDistrictをターゲットとして順次行われている。セミナー自体は州、郡を巻き込んだもので、商工省からも幹部が出席することが多い。今回は当初大臣が出席予定であったものの、前日夕方に発生した別件への対応のため急遽行けなくなり、代わりにGeneral InspectorとDirectorate of TradeのDeputy Directorが出席した。その他に同省からはUTPIRスタッフと広報スタッフが参加し、メディア関係者7～8名も同行。また、マプト州商工局長と、DistrictからはAdministrator(郡長)の他、50～60名の住民(Advisory Councilメンバー、各種協会関係者等)が出席した。</p> <p>セミナーはUTPIR事業の紹介、住民からのコメント、商工省からの回答の順で、ポルトガル語と現地語で行われた。</p> <p>(2)UTPIR事業紹介</p> <p>まず、これまでに全国のどのDistrictでどのような機械が導入されたかの説明がなされた。機械の多くは精米がほとんどで、全てがPre-processingレベルとの印象。UTPIRでは相談を受けた企業、組合等に対し、必要な機械を取り扱う業者との仲介役となる。(セミナーにもいくつかの機械のパンフレットが並べられていた)</p> <p>今後は各地にUTPIR附属のセンターを設置し、機械設備の導入のみならず、地域に適した商品の特定、販売指導、金融機関からの融資の斡旋なども実施したいと考えているとのこと。さらに、職業訓練校とも連携し、機械設備の使い方、ローンの初歩知識、基本的経営スキルなどのテーマでトレーニングを行うことを考慮中。事業紹介の最後には、インドのマンガー缶詰工場の様子を、目指すべき姿の例としてビデオで紹介した。</p> <p>(3)住民からのコメント</p> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在は加工といっても鍋で煮込む程度、さらに付加価値を高めるための対応を考えた</li> <li>・ 200～400ha の土地で米作を行うにはオートコンバインのように大規模な機械も必要であり、小規模機械から支援の枠を広げて欲しい。</li> <li>・ 精米機械設置後に売上単価が上がった、今後は米作そのものだけでなく、雑草の除去、鳥対策などに新技術を導入したい。また、そのためには短期の技術訓練も必要であり政府に期待したい。</li> </ul> <p>(4) 商工省からの回答</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ District の現状を考えると、機械は最新・大型のものよりもインド、ブラジル、中国製でいいから簡易な機械で維持管理費も少なくするのが得策、その意味でオートコンバインが望ましいとは思われない。</li> <li>・ 米作は 6t/ha 収穫できるはずが現状では 3.5tにとどまっており、キャパシティを上げる必要がある。省としては機械導入を支援するので、事業者も知恵と労働力を出し合って努力し、付加価値の向上→収入の向上→収量増加への再投資→さらなる付加価値の向上というような流れをつくって欲しい</li> <li>・ (本セミナーは事業者の規模、業種など様々で皆が言いたいことを言って終わったという感あり、商工省の General Inspector による回答も先生が子供を説き伏せるような感じで印象はあまりよくない)</li> </ul> <p>&lt;導入済み事業者訪問&gt;</p> <p>以下の企業、協会、NGO を訪問。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Machava: 米作業、精米機械を導入</li> <li>・ Macassane 地域農民女性組合: 米作を行う女性農民の組合、精米機械を導入</li> <li>・ Orzicola: 元国営の精米企業、数十年前に導入された大規模精米機械が工場にいらんでいる(まだ使用可能とのこと)が稼動していない(閉鎖はされていない)、UTPIR による機械は導入しておらず他事業者との比較のために訪問</li> <li>・ Asas que Curam: アンゴラ国籍の白人牧師が始めた麻薬中毒者更正のための NGO、150ha の土地で野菜・米を栽培、2ヶ月前に川から水を引くポンプを導入(郡の中心部に精米所も保有)、1日に150リットルのディーゼルが必要なのでこのコスト対策が必要、ジャトロファも試験的に栽培し他作物への影響は無いことを確認済みなので栽培量を増やす予定</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | なし   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月3日(土) 11時30分～12時30分  |
| 2. 場所    | ナカラ市近辺   |
| 3. 機関名   | スペイン・キリスト教のミッション系小学校及び農業学校   |
| 4. 先方対応者 | 校長(スペイン人)等   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;施設概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校はもともとスペイン人によって50年程度前に建てられたが、2年前に農業学校併設を含むミッション支援プロジェクトが開始された。小学校・農業学校(中学校レベル)の生徒数は750人程度である。敷地は100ヘクタール程度である。</li> <li>・ 授業料は支払う必要があるが、公立の中学校と学費が同レベルであるので入学のための競争率が激しい。また、政府の規定により、入学には国家試験を受ける必要があるため、一番ターゲットとしたい近郊に住む住人を入学させるのが難しく、今後の課題である(村の所得レベル・教育レベルが低いので、国家試験を受けない・受けても成績が悪い)。小学校卒業後、(国家試験を受けて)進学する生徒はいる。</li> <li>・ 寮施設も持ち、ナカラ市や郊外からの生徒もいる。</li> <li>・ スペイン政府からの支援もある。</li> <li>・ 農園を持ち、農業学校は実習に注力。学校の給食は自給自足を目指している。また、今後は周辺農村に生徒を送り、農園の手伝いを、コミュニティー支援及び生徒の実習実業として行なっていく予定である。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  |  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月5日(月) 10時～11時  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Centre of Counseling for Industrial Development (CADI)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Elias Jose Come, Executive Director  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CADIはAIMO傘下のBDSを実施する機関である。主要な事業内容としては以下がある。</li> <li>(1) ビジネス・アドバイザー・サービス(ビジネス・プラン作成支援、人材育成、マネジメント、品質管理、環境対策、生産工程、アントレプレナーシップ等)</li> <li>(2) トレーニング・プログラムの実施</li> <li>(3) 特定産業(事業)のフィジビリティ・スタディ、他国との比較調査(SADCが実施したビジネス環境に関するプロトコルの実施評価に参加し他国でも調査を実施)</li> <li>(4) マーケット分析</li> <li>(5) 企業間リンケージの促進</li> <li>(6) 見本市の開催(IPEXと共同)</li> <li>(7) 外国での見本市に派遣する企業の選定</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本的に実施したサービスに対してはフィーを徴収する。しかし、これから事業を始めようとしている個人は相手にしないというわけではなく、相談にくる人物の真剣度と事業アイデアの実現性を勘案した上で、フィーを取らずにアドバイスするなど、ポテンシャルのある小規模企業には安く(或いは無料で)サービスを提供することもある。逆に、比較的規模が大きい企業へのサービスに対してはフィーを高めに設定して、帳尻を合わせている。</li> <li>・ 現在、常勤スタッフ4名があり、アドバイザー・サービス、調査実施のために、11名の外部コンサルタント(Councilorと呼ぶ)のネットワークで事業を行っている。地方にオフィスはなく、それぞれの地域に居住するCouncilorがアンテナとなって、サービスを必要としている企業の特定とサービス提供を実施している。なるべくコストを抑えるため、各地のCouncilorのみでアドバイスを行うことが多いものの、どうしても対応出来ない分野の場合には、必要に応じてマプトからコンサルタントを派遣している。</li> <li>・ また、地方でCADIが設立した協会とも連携することが多い。なお、IPEXナンブラ・オフィスのジハム・カリマ氏、FFPIのベネ・マシャフィネ氏もCouncilorの一人である。</li> </ul> <p>&lt;トレーニング・プログラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ GTZの資金を活用しSADCが実施したTrade Africaという輸出促進に関するトレーニングの実施を担当した。これは5週間のトレーニングで(参加料50ドル)、参加企業はポテンシャルのあるところばかりを選定した。そのため第1回の参加企業は、従業員数200～250名の規模であった。</li> <li>・ また、参加者は、トレーニング後に他国での見本市に参加することが出来るという特典があった。なお、第2回の参加企業は地方の協会を対象としたため、スタッフ数50～60名の組織が中心であった。</li> </ul> <p>&lt;零細中小企業インスティテュート&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新戦略に盛り込まれた零細中小企業インスティテュートは、政府が自前で全て行うという意味の組織ではない。Training、Consulting、Financeを3つの柱として、FFPI、IPEX、INNOQといった政府機関とCADIのような民間団体が、それぞれの強みに応じて連携しパッケージで支援するという構図を意図している。</li> <li>・ 全体を統括するマネージング・ボードは設置されるが、基本はそれぞれの柱を受け持つ組織が独立して運営することである。IDILがなくなるのは役割が必要なくなったというよりも組織的に問題が多かったからである。</li> <li>・ 政府は民間で出来ることは民間に任せたいという意向をもっており、各種支援事業も可能な限り民間コンサルタント等に委託するという方向なので、CADIはこのような方向性を促進するイニシアチブの一翼を担っていると考えられる。</li> <li>・ また、これまでの事業であるProject for Enterprise Developmentの教訓として、ドナー協力があり資金的に潤沢であったため、必ずしもポテンシャルが高いと思われぬ事業に</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>も資金を拠出しており、思ったような成果が得られなかったことがあげられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 零細中小企業インスティテュートは、国内生産を高める可能性などを考慮した優先度に従い、より成果を出しやすい事業から実施するという方針をもつ。拠出する資金も濃淡をつけて、ポテンシャルの高いものにはより多く支援するという形である。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Strategy for Small and Medium Enterprise Development</li> <li>・ CADI Company Work Profile</li> </ul>  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月5日(月) 11時～12時   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内  |
| 3. 機関名   | 鉱物資源省州本部  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Joao Manuel Antonio, Agrimensor Ajuramentado Mestre em Direccao e Gestao, Chefe do Cadastro Mineiro<br>Ms. Berta Olga Guambe, Geologa, Representante Distrial dos Recursos Mierais-Momas  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナンプラ州、ニアサ州、及びカボデルガド州を管轄する。</li> <li>・ Murrupula・Moma 地区では金や貴石が取れる。</li> <li>・ 採鉱には、2種類のライセンスがあり、一つは企業向け採掘権(コンセッション)である。もう一つは個人向け小規模採掘ライセンスである。これは域内に住んでいる住人に対する機械なしの採掘権であり、彼らに対して Association を形成することを推進している(明文化された戦略はDPPFが持っているだろう)。ポテンシャルが非常に高い地区は、このような小規模採掘は認めず、大規模コンセッション・ライセンスを促進している。</li> </ul> <p>&lt;採掘の現状&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ (「Nacala-a-Velha の辺りでは、このようなライセンスを取得せずにインフォーマルな採掘者が多いようだったが」という問いに対して、)Nacala-a-Velha は特殊なケースである。PGM (Platinum Group Metals)という南アの会社がコンセッションの採掘権を取得したが、その後様々な問題(法遵守、ファイナンスに関すること)によって閉鎖されたため、PGM で雇用されていた地元の住民が違法で掘っている。このようなケースは国内にいくつか存在するが、ライセンスを取得し、Association を形成しているケースも多い。</li> <li>・ Mining Promotion Fundという政府の基金が存在し、小規模採掘に対する支援を実施している。Murrupula、Jagoma(Moma 近辺)で支援実績がある。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | ・「Mining Law Regulations Decree No.28/2003 of June 17」コピー   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月5日(月) 11時15分～12時   |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Ministry of Tourism, Directorate of Planning and Cooperation   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Antonio Arnold Tome, Director<br>Mr. Maxwell Diallo A. Namitete, Senior Technical Officer<br>Ms. Isabel Dasilva  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;戦略&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現行の戦略(オーストラリア政府の支援によるもの)では、観光開発の優先順位が高い18地域を選定している。ここを中心に、さらに開発のためのリサーチを進め、投資を促進する活動につなげたい(既に英語の Portal サイトも開設した)。戦略の基本方針は以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 関連機関を統合した計画の策定</li> <li>(2) 観光開発地域へのアクセシビリティ向上</li> <li>(3) インフラと公的機関のサービス向上</li> <li>(4) 環境保護への対応</li> <li>(5) エコ・ツーリズム</li> <li>(6) 観光商品開発</li> </ol> </li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>(7) 伝統文化の活用<br/> (8) マーケティング強化<br/> (9) 人材育成<br/> (10) コミュニティ参加<br/> (11) 社会開発への貢献<br/> (12) 金融支援<br/> (13) 観光投資のための優先地域設定<br/> (14) 制度整備と品質管理</p> <p>&lt;人材育成&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光に関連した分野の政府系の訓練センターとして、マプト市内にホテル学校があり(ホテルとしても営業)、ここでホテル産業の人材育成を行っている。ただし、内容的に必ずしも満足しているわけではなく、より質の高いものにする必要がある。</li> <li>また、今後の計画として、観光資源・環境保護について教えるための新しいトレーニング・センターをオープンしたいと考えている。これらは国立公園内(北部とゴロンゴザ)に設立する予定である。</li> </ul> <p>&lt;ドナー協力&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6つの国立公園と6つのリザーブがあるが、内戦で多くの動物が殺された。そこで世界銀行が Trans Frontier Project という、国境をまたいで広がる地域における隣国から動物を呼び戻すためのプロジェクト実施する予定である。また、IFC の支援で観光振興のための具体的なマスター・プラン策定を行おうとしている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | Tourism Policy and Implementation Strategy<br>Strategic Plan for Development of Tourism in Mozambique 2004-2013   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月5日(月) 14時～15時  |
| 2. 場所    | ナンブラ市内   |
| 3. 機関名   | ナンブラ州政府、Unidade de Coordenacao do Desenvolvimento Integrado de Nampula (UCODIN/DPPF)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Evaristo Rungo   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Ministry of Planning and Finance 傘下の機関。</li> <li>地方政府・政府機関の各州における出先機関を統一させ、地方自治を促進することを目的とする。</li> </ul> <p>&lt;産業戦略&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>州における産業別戦略は PARPA に沿って“Strategic Plan for the Development of Nampula Province (2003-07)”が策定されている。現在戦略レビューを実施しておりバイスされる予定。</li> <li>経済分野では、ナカラ近辺の経済特別区、エコツーリズム等に注視している。また、貧困削減における農業生産性向上の重要性を認識している。ジャトロファ等バイオ燃料も今後重要性を増すと考えている。</li> </ul> <p>(既に JICA 調査団が訪問していることを認識の上、マイニングにおける戦略(特に、Association の促進に関する情報)を入手したく鉱業省からの紹介の下で訪問。個別戦略に関する認識はないという返答。)</p> |
| 7. 収集資料  | ・Strategic Plan for the Development of Nampula Province 2003-2007  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月5日 14時20分～15時半                     |
| 2. 場所    | マプト市内                                      |
| 3. 機関名   | General Union of Cooperatives (UGC)        |
| 4. 先方対応者 | Dr. Fernandes Domingos, Executive Director |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)                                 |
| 5. 面談内容  | 1. 組織概要                                    |



|         |   |
|---------|---|
|         | <p>元々、内戦と貧困にあえぐ女性のための組織として1980年に設立された。当時は7つの組合(総会員数約250名)だったものが、現在では175の組合(総会員数約5,000名)となった。今でも会員の95%が女性。メインの産業は農業、畜産だが、組織が大きくなるにつれて他分野にも進出した。今では、野菜、フルーツ(バナナ、マンゴー等)、花卉、カシューナッツの他、鶏、牛、ヤギ、豚などを扱う。1983年にモザンビークで史上最悪と言われた食料不足となった折、マプトを救ったのはUGCのキャベツだったと今でも語られる。</p> <p>また上記以外に、組合員に資金を貸し付けるマイクロ・クレジット機関を有し、高校(1ヶ所)、商業学校(1ヶ所)、訓練センター(2ヶ所)を運営する。学校は当初組合員・スタッフの子供のみが対象であったものの、今は誰でも入ることが出来る。訓練センターは、学校に行けなかった若者をメインにUGCの事業に関連した訓練を行っており、座学の他、企業での実地訓練もある(日本政府が82,000ドルの機材を供与)。さらに、病院(4ヶ所)、ラジオ局も運営。</p> <p>2. 主要事業</p> <p>1)カシューナッツ</p> <p>苗を育てる施設、プランテーション、加工施設を有し、輸出も行っている。加工施設は収量からすると1ヶ所で十分なためマプトのみに設置し、全国からここに集約して加工している。ただし、せいぜいナッツにピリピリや塩を加える程度までの加工が現在の限界であり、さらなる加工工程の実施には、技術・施設共にないのが実状である。アイデアとしては、今はブラジルから輸入されており割高なジュース製造など、いくつかある。</p> <p>2)養鶏</p> <p>全国で最大規模の設備を備え、UGC 会員組合からの鶏肉を AMA(モザンビーク養鶏業協会の頭文字)ブランドとして卸している。施設としては、飼料工場、卵の孵化施設、ひよこを鶏に育てる施設、解体施設を有する。</p> <p>ただし解体といっても、部位ごとに切り落とす段階にも行かず1羽単位で販売している。部位ごとに解体したほうがより価格は高くなることは分かっている。さらに鶏肉をウィンナー、ハム、ハンバーガー、ソースを注入するなど、より加工を加えたものが売れるであろうという感触も掴んでいる。しかし、プラスチック・トレイ、パック用ビニール、秤など部位ごとに解体した鶏肉をパックするための基本的な機材が国内にないため、出来ないている。なお、ブラジルからの鶏肉が多く入ってきているものの、ブラジルも同様に1羽単位で輸出しており、解体・パックは南アで行われている。そのため付加価値の多くは南アに落ちているというのが実際に起こっていることである。</p> <p>3. ドナー協力</p> <p>UGC が支援を受けているドナーとしては、イタリアとスペインがあげられる。専門家が派遣され、UGC の組織改革に関する協力を行っている。また、アフリカ開発銀行からの融資も受けている。</p> |
| 6. 入手資料 | なし  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月6日(火) 9時~10時   |
| 2. 場所    | モザンビーク島内   |
| 3. 機関名   | City of Mozambique Island, District Tourism office   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Naimo, Tourism promotion officer in Mozambique island  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;モザンビーク島の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本土とモザンビーク島を結ぶ橋は1966年に完成し、以後、一度修復している。</li> <li>・ モザンビーク島市は、本土側にもあるが、島が中心である。島内に市役所やその他、町の中心がある。17世紀には、ここがモザンビークの首都であった。</li> <li>・ 島内は舗装していない道が多いが、ANE(道路公社)により今年度から一部舗装される予定である。</li> <li>・ ユネスコの世界遺産に指定されてから、島は何も変わっていない。計画ばかりがたかさんあ</li> </ul> |

|        |  |
|--------|--|
|        | <p>り、ユネスコには失望している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>島内には、島についての計画委員会”Directorate of National Conservation and Rehabilitation”がある。</li> <li>島内の歴史的価値のある昔の植民地タイプの家は、多くはモザンビーク人の所有である。しかし、多くの所有者が、改修する資金をもっていない。38 年前に、モザンビーク島から、ナカラに港が移されてから、モザンビーク島周辺がすたれるようになってきた。</li> </ul> <p>&lt;モザンビーク島の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モザンビーク島の住民の多くは、漁業により生計をたてている。漁獲量が減っており、生活が大変である。</li> <li>また、島にかかる橋も老朽化している、2車線化が望ましい。給水パイプについても25キロ離れたところから水を送っているが、老朽化が激しい。これらの生活基本インフラ、生計向上のための支援が必要である。</li> <li>島内に、女性グループによる刺繍や縫製により衣類を販売する店がある。</li> </ul> <p>&lt;観光&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣のペンバとの比較では、国際便が飛んでいることもありペンバへの観光客が多い。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | なし。  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月6日(火) 11時～12時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Maputo Commercial School  |
| 4. 先方対応者 | Ms. Margarida Utui, Principal   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;学校概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同校はマプト州に3校ある公立商業学校のうちのひとつで、8～10年生が学んでいる。他にはコレンゲネ(公立だがカトリックの牧師が運営)、カテンバにある。生徒数は昼夜コース合わせて3,888名であり、3校の中で最大規模である。</li> <li>試験では求められる点数に達しないと最終試験を受けることさえ出来ないシステムになっており、1年生25組、2年生20組、3年生16組という数字から分かるように、上の学年に進むにつれてドロップアウトする生徒も少なくない。(訪問時は試験期間直前であり、視察した教室では補修を受けている生徒が数多くいた)</li> </ul> <p>&lt;カリキュラム&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>かつては会計科、秘書科、マネジメント科の3つがあった。しかし、植民地時代が終わって独立してからは教員の不足(教員の多くは大卒)、各種設備の不足もあり、コースを減らさざるをえず、今は会計科のみがある。教えている内容は簿記、経済、数学など関連科目の他、地理、化学、物理といった科目もある。</li> <li>近年、教育文化省がPIREP(Integrated Program for Reform of Professional Education)と呼ばれる技術教育計画を策定し、これに基づき技術教育を強化する方針を出している。特にカリキュラムに関しては、現在の初級レベルから引き上げて中級レベルのカリキュラムを同校に導入する予定となっており、上級の学校(11～13年生)では、現行の中級から準上級程度のレベルに引き上げることになっている。</li> <li>また、新しいカリキュラムでは、関連した科目をモジュールとしてまとめて履修し、実習も重視されるようになる他、マネジメント科、秘書科の復活に加えて、ホテル学科も新設される予定である。</li> <li>なお、教育文化省の中では、技術教育局という部署が商業学校のみならず工業学校、農業学校も管轄している。そのため既にこれらの学校との連携を進めるための交流が開始されており、PIREPにもこの3分野の強化が盛り込まれている。</li> </ul> <p>&lt;卒業後の進路&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同校の卒業生の就職先探しは困難を極めている。一部の企業がリクルートのために来校し、生徒の能力も低くないと思われるものの、期間限定就労が多い。そのため、卒業生には11～13年生の上級学校に進学するよう勧めている。上級の学校への入学は、現在は入学試験を受けなければならないが、来年から撤廃されることが決まっている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月6日(火) 14時～15時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Ministry of Transport and Communication, Corridor Development and Coordination Unit   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Sergio Rodrigo, Technical Administrator<br>Mr. Qui Carlos Sitim, Technical Administrator  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;回廊構想の経緯&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モザンビークでは、南アの Spatial Development Initiative (SDI)によりマプト回廊の開発が行われたのが回廊構想の端緒である。</li> <li>同回廊では、周辺のポテンシャルを活用することによって農業、経済を開発し、独自に維持管理を行うことが出来るようにするという形態が導入された。ここで一定の成果を収めたとの認識があり、これを南部アフリカ全体でも同様の回廊開発を進めるという構想が生まれた。その結果出てきたのが、ナカラ、ベイラ、ムトゥアラ(北部、タンザニアにつながる)、リンポポ(南部、ジンバブエにつながる)の各回廊である。</li> </ul> <p>&lt;回廊構想実現の流れ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回廊構想実現のため、まず Technical Unit という部署が運輸通信省内に回廊ごとに設置された。また、各回廊の拠点都市にも同様に Technical Unit が設置されている。このユニットの役割は、プロジェクト内容の選定、ビジネス・プランの策定、Investment Conference の開催、回廊開発の Institutionalization (コンセッションと業務移管を含む) である。</li> <li>また、中央政府には Multi Sector Committee があり、運輸通信省に置かれた Technical Unit がコーディネーター役となり、プロジェクト選定のための調査実施管理やビジネス・プランの決定を行っている。同コミッティーには運輸通信省の他、計画開発省、農業省、財務省、鉱山省、公共事業住宅省が委員として入っている。ただし、コミッティーは存続しているものの、最近はほとんど開催されていない。</li> <li>ナカラ回廊の例で言えば、これら一連の流れの結果として、North Corridor Development (CDN)が鉄道と港湾を運営するという現在の形になった。また、CDN への移管後、ナカラ回廊の Technical Unit は廃止されている。他の回廊についても同様な流れになる予定である。</li> </ul> <p>&lt;回廊周辺の地域開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>回廊に沿った地域の開発は、基本的に関係国の政府が主催する(不定期)Investment Conference に参加し投資を行うことを決めた企業・投資家がどこで何をするかを決定する。</li> <li>州政府と投資家の間で何を行うかの議論は行われるであろうが、中央政府としての役割は開発申請を受けて許可を出すのみである。そのため、投資家を呼び込んだ後の中央政府の担当は CPI になっており、これに計画開発省がその動きを観察するにすぎない。</li> <li>なお、ナカラ回廊の道路建設のように大規模インフラ整備については、中央政府の公共事業住宅省 National Road Administration (ANE) が管轄することになっている。</li> </ul> <p>&lt;今後の展望&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各回廊の進捗度をみると、マプト回廊は既に政府の手を離れており、ナカラ回廊についても道路建設など新しいインフラについては政府が関わっているものの、既存インフラ部分については政府としての役割は終わったとの認識である。</li> <li>Technical Unit (今回の面談先)として現在取り組んでいるのはムトゥアラ回廊であり、プロジェクトのビジネス・プランを作成するための調査を、SDI の資金と世銀 Public Private Initiative Fund を活用して実施中である。同回廊の中心 Technical Unit はタンザニアにあるため、モザンビーク運輸通信省同 Unit 全 4 名(ヘッドを含む)のうち 1 名がタンザニアに定期的に出張して打ち合わせを行っている。また、タンザニアが中心となって定期的に Investment Conference が開催されている。</li> <li>なお、ベイラ回廊については、政治的な問題があり頓挫している状況で、リンポポ回廊についても鉄道のみ、国内開発のみというもので、大規模なものとはならない見通しである。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月6日(火) 15時10分～15時半  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Balcao de Atendimento Unico: BAU(行政手続き One Stop Shop)  |
| 4. 先方対応者 | 施設視察のみ   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ BAUは、商工省が中心となって2007年に設立されたばかりのOne Stop Shopである。ここに Migration、Transport、Women and Social Action、Registration、Finance、Education and Culture、Health、Industry and Commerce といった、行政手続きを必要とする全ての省庁の窓口がある。</li> <li>・ 例えば、Industry and Commerce の窓口では、プロジェクトの申請・認可、ライセンスの申請・供与、店舗移転の申請・認可といった手続きを行うことができ、Labour の窓口では雇用・解雇の申請・認可、職業訓練の受付といった具合である。</li> <li>・ また、案内窓口では苦情や提案を受けており、実際に張り紙の注意書きには、(1)申請書作成の手伝いも行います、(2)領収書は必ず受け取って下さい、(3)手続きが遅く期限が過ぎた、或いはスタッフの態度が悪い場合には苦情をお寄せください、といった内容が書かれている。(外にも意見箱があり、申請して書類を受け取りに来ていない者のリストまで掲示されている)</li> </ul> <p>&lt;手続きにかかる時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屋外の掲示板には、各手続きに必要なとされる時間が明記されている。例えば、Industry に関連して、プロジェクトの認可は1～8日間、Inspectionの申請から実施までは1～6日間、ライセンス申請から供与までは48時間といった具合である。</li> <li>・ 他に Commerce に関して、ライセンス申請・供与30分間(以前は10日だったとのこと)、登記変更1時間、店移転申請・許可8～15日間、業務内容変更8～15日間、事業清算8～15日間などの掲示がある。Labour 関連では、雇用・解雇認可、勤務時間認可、雇用者リスト認可、給与リスト認可が全て即実施とされている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月6日(火) 19時～20時   |
| 2. 場所    | モザンビーク島内  |
| 3. 機関名   | ポルトガル NGO OIKOS   |
| 4. 先方対応者 | Ms. Claire Fallender, Represent in Mozambique<br>Mr. Magadiga, Small Scale Fishing Institute staff, coordinator of the project  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;活動の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ASSOPIMO (Associacao dos pescadores da Ilha de Mocambique モザンビーク島漁民グループ) を通じて、モザンビーク島市の約1,200家族に漁獲技術、保存方法や品質管理などの技術指導を行なっている。生産向上や品質向上、ひいては漁民の収入や生活レベルの向上を目的としたパイロットプロジェクトである。</li> <li>・ プロジェクトは、2007年4月に開始される予定だったが、ASSOPIMOのために改修した家の持ち主が賃貸契約の継続を拒み、訴訟をおこしたため、それが解決するのを待って、2007年11月に開始される。期間は1年間である。</li> <li>・ プロジェクトの手法としては、小規模漁業研究所の Mr. Magadiga が4,5人の普及員を指導し、彼らが漁民を指導する。物を与えることは考えていない。簡単に手に入る材料で保温箱を作成する指導などを行う。製氷工場が必要なので、グループにつくらせるか、民間会社にきてもらうことを考えている。</li> <li>・ 資金は、ポルトガル国政府が90%、NGO OIKOS が10%出資する。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | ・OIKOS 活動紹介 DVD   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月7日(水) 8時～9時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Ministry of Industry and Trade, National Directorate of Industry  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Eleuterio Mabudjaia, Head of Industrial Policy Department<br>Mr. Almirante Carlos Dimas   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>National Directorate of Industry は Industrial Policy、Planning and Industrial Development、Licensing and Registration の3つの Department から構成されている。このうち Planning and Industrial Development は産業統計の取りまとめ、サポート、民営化後のフォロー(労働環境・時間・給与、利益等のパフォーマンスをチェック)を行い、Industrial Policy Department が各種政策・戦略のとりまとめを担当している。</li> </ul> <p>&lt;戦略&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2007年に産業政策・戦略、中小企業戦略が策定され、現在もセクター別の戦略を策定中である。このように矢継ぎ早に戦略が出されているのは、地域統合の動きが活発になってきて対応を迫られているという理由がある。また、政府5ヶ年計画では、まず戦略を策定し、その後2009年末までに一定の成果を出すこととなっているため、今年中に方針を打ち出して動き出さないと間に合わないという事情も働いている。(既に Council of Ministers で承認された産業戦略、中小企業戦略は11月22日に公表される予定)</li> <li>産業戦略は世銀、EU が資金を拠出して実施していた Enterprises Development Project (PoDE)を通して、モザンビークのコンサルティング会社に委託して策定された。</li> <li>中小企業戦略はアフリカ開発銀行が拠出した資金で、韓国のコンサルティング会社に委託して策定された。韓国を選んだ理由は、中小企業政策が進んでいる国という理解からである。</li> <li>セクター別戦略については、機械と繊維に関して作成済みであり、現在 Council of Ministers でその内容を検討中、グラフィックと化学については策定中、食品については策定がまだ始まっていない。</li> </ul> <p>&lt;戦略に盛り込まれた新組織&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>産業、中小企業どちらの戦略にも盛り込まれている零細中小企業 Institute については、設立することは正式に決定されており、これが無くなることはない。</li> <li>この組織は BDS、Financing、Institution の3本を柱としている。Financing は企業に対する融資を増やすことはもちろん重要であるが、同時に政府としてはアクセスをより容易にする施策を推進する役目も重要と考えている。融資資金をどこから出すかで中央銀行と調整中だが話が進んでいない。これに対しては、ドナーからのファンドがあれば望ましい。ただし、ドナーから資金面のみ協力期待しているのではなく、組織運営、施策実施のためのノウハウ面の技術移転も期待している。</li> <li>現在 Sustainable な組織にするための方法を検討中である。おそらく3本の柱ごとに現在ある組織を活用することになるため、マネジメント・資金両面で、それぞれが独立を維持する可能性が高い(そのために新たな組織の設立のための法改正等は伴わない、また MSME Institute 自体の設立については閣議決定されたが具体的な設立を規定する法律の制定は詳細が決まった後になる)。今後は2007年中に Sustainability Study を行い、2008年にはスタートさせたいと考えている。</li> <li>また、信用保証基金も戦略の目玉の一つである。ただし、これは新しく設立される Institute が詳細な組織の設計も含めて設立の準備と具体的な資金ソースに関して中央銀行などに働きかけることになっている。国内に Deposit Guarantee Fund もない状況で、基金のための原資をどこが出資するかが一つの焦点になると思われ、中央銀行と交渉を行う必要がある。</li> <li>Incubator についても Institute が設立することになっている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月7日(水) 9時半～11時半  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | UGC Center of Professional Training   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Antonio Archetti, Project Coordinator<br>Mr. Paolo Gomiero, Trainer   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同センターは、UGC 会員の子弟とセンター所在地域の住民用に設立された職業訓練センターである。機械、電気、冷蔵庫修理、情報処理、秘書業務のコースがあり、これまでに600名以上の研修受講者がいる。平均年齢は18～20歳で、8～10年生までを終えた後に失業状態という若者が大半を占めている。1コースの1回あたりの受講者数は15名までであり、労働省 INEFP に対して民間職業訓練センターとして義務付けられている登録を既に行った。</li> <li>コースは、3ヶ月間のセンターでの訓練と、3ヶ月間の提携企業(35～40社)での実習から成る。設立時は UGC 会員関係者がほとんどだったためフィーを取っていなかった。現在は、入学金 50Mt、受講料月 250Mt を払うことになっている。ただし、企業での実務研修中はセンターが月 1,000Mt を交通費等のために支給している(原資はイタリア政府からのプロジェクト予算から)。</li> <li>なお、コースあたり講師への給与など全てを総合すると、一人の受講生当たり 1 万 Mt 必要である。</li> </ul> <p>&lt;受講生の修了後進路&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>約 25%の受講生がそのまま実習を受けた企業に採用され、残りの 75%は職を探す必要がある。最近では労働省の戦略もあり、起業をすすめており、INEFP から派遣される講師による小企業マネジメントの授業(2週間)も各コースに盛り込まれている。マネジメント授業の最後には受講者が新規事業のプロポーザルを作成し、センターにいる 4 名のアドバイザーもその質向上のためのアドバイスを実施している。</li> <li>また、ここで作成したプロポーザルを、UGC の会員でもあるマイクロ・ファイナンス組合(UGC-CPC)に紹介し、クレジットを受けられるための仲介役という役割も担っている。</li> </ul> <p>&lt;イタリアの支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2004 年からイタリア政府の資金を活用して、イタリアの NGO である RETE と MAIS によるプロジェクトが進行中である。総予算は 150 万ユーロであり、これには 2 名の長期専門家、1 名の短期専門家(年 4.5 ヶ月間)の派遣、ローカル・スタッフ採用、プロジェクトの各種経費(施設の改修等を含む)の他、マイクロ・ファイナンス機関 UGC-CPC への出資、受講修了者に貸与するツール・キットなど(2つ合わせて 6 万ユーロ)が含まれる。</li> <li>イタリア政府の協力では、NGO 等が実施したい事業のプロポーザルを提出し、承認されれば全予算の 70%のお金がイタリア政府より出る仕組みとなっている。残りの 25%はプロジェクト対象組織が、5%は事業を実施するイタリアの NGO がイタリア政府とは別の独自財源を探して負担する。ただし現地組織の負担額には、プロジェクトで使用する建物の資産価値を負担額に計上することが出来る。</li> <li>また、イタリアによるプロジェクトでは、UGC-CPC への出資も行っており、この出資分はセンター修了生への貸付に限定された資金として活用されている。加えて、訓練修了時に無料で貸与されるツール・キットは、修了生が立ち上げた企業がクレジットを完済した場合には無料で提供する(返済できなければ返却する)ことになっている。</li> <li>イタリアによる現行の協力プロジェクトは 2008 年 2 月に終了予定であり、継続プロジェクトの申請を検討中である。なお、イタリア政府の協力は、この形態以外には財政支援と政府が直接実施する事業がある。後者の代表的なものには選挙支援があるが、これは内戦終結の協定がローマで締結されたということと深い関係がある。</li> </ul> <p>* ヒアリング後、施設を視察</p> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月7日(水) 11時40分～12時  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | UGC-CPC (Savings and Credit Cooperative)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Ricardo Guila, Director   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>UGC のメンバー組合である貯蓄組合で、貯蓄と貸付の両業務を行っている。政府に正式な金融機関として登録されたのは2004年であるが、それ以前の1991年から、養鶏業者をはじめとする事業者に対する業務を行っていた。</li> </ul> <p>&lt;金利&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業分野に携わる事業 1.25%/月、養鶏業 2%/月、卸・小売業 3%/月となっている。</li> <li>また、職業訓練センターでの研修修了者に対しては、イタリアのプロジェクトから受けている資金を活用して貸付を行っている。その場合には、業種に限らず金利は一律 1.25%/月である。</li> <li>CPC が組合としてその目標を守るためにも、他のマイクロ・クレジット機関より低い金利を設定している。しかし、利益どころか収支を合わせることも難しい状態であることは否めない。</li> </ul> <p>&lt;貸付の条件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業を既に6ヶ月以上操業していることが条件であり(これから起業する者は対象外)、100Mtのメンバー・フィー、25Mtの手数料を支払う。また、ID、事業ライセンス或いは納税証明、住居証明、水道・電気料金の支払い証明を提示しなくてはならない。</li> <li>優遇金利である農業・養鶏業者対象のクレジットのためには、上記に加えてビジネス・プランを提出する必要がある。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月7日(水) 14時～15時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Swiss Agency for Development and Cooperation (SDC)  |
| 4. 先方対応者 | Ms. Eneida P. Monteiro, National Programme Officer  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SDC の経済開発分野での協力は、大きく Public Finance and Development (財政支援) と Private Sector Development の2つに分かれる。後者は2005年に開始したばかりであり、現在もパイロットの段階にある。また、Private Sector Development の内容は、Trade と Investment に分かれる。</li> </ul> <p>&lt;Trade Support&gt;</p> <p>(1) WTO 対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>端的に言えば Trade Policy に関する支援である。しかし、政策そのものを策定するというものではなく、商工省が WTO の交渉を進めるための支援と言った方がよい。つまり、交渉プロセス(綿花、ナッツ類に関する交渉等)への政府スタッフの対応能力を向上させるとともに、輸出に際して求められる検査に関して、その質を向上させるというものである。その対象は主に民間の検査機関であり、政府と企業との間の組織という意味で、メゾ・レベルへのテコ入れと言える。</li> <li>具体的には、カシューナッツ、はちみつ、フルーツ、野菜、食用油の輸出用検査のための機材を供与し、検査能力を向上させるべく、UNIDO が専門家を派遣してトレーニングを実施している。これには保健省など関連した多くの機関を巻き込んで調整する必要がある。2006年のスタートからしばらくは混乱があった。最近軌道に乗り、今後は行政によるインスペクションの実施能力向上を行う計画もある。また、商工省の INNOQ にも IT 機材を供与した。</li> <li>なお、本件はマルチ・レベルの交渉支援のみを対象としており、SADC など地域統合のためではない。</li> </ul> <p>(2) 企業への直接支援</p> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Technoserve に委託して、カシューナッツ、フルーツ、野菜の事業者を支援している(6~7社)。具体的には、HACCP や Europe Gap といった requirement に関して、生産システムを確立し、輸出につなげるというものであり、既に Zambique ブランドでオランダに輸出している企業もある。</li> <li>・ 地域としては、ナンブラ州とガザ州が対象である。2 つを比較すると、南部のガザ州では就職の機会が多いこともあり、技術を身に付けた従業員が、他の給料の良い会社に転籍してしまうことが多い。そのため労働集約的に進めるよりも、機械化を促進して働くスタッフの変動に対応しやすい形で進めている。その点、ナンブラ州の方が従業員の定着率がよく、トレーニングの効果が見えやすいため、労働集約的産業のポテンシャルが高いと言える。</li> </ul> <p>&lt;Investment Support&gt;</p> <p>(1)マイクロ・ファイナンス銀行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小企業金融を促進するためにマイクロ・ファイナンス銀行という民間金融機関に出資している。出資比率は、当初は 17%で現在は 15%、また GAPI も同様に投資している。</li> <li>・ ターゲットとしている企業規模からすると、マイクロ・クレジット機関というよりも小から中規模に近い層を対象にしていることから、Novo Bank や ProCredit Bank に近いイメージである。</li> <li>・ なお、近々全株式を売却する予定である。これは、業績はよいものの、株主である SDC と経営陣とのコンフリクトがあったためである。ただし、銀行として業績は順調に伸びたため、この株式売却により、出資額の倍の資金が返ってくることになる(この資金の扱いは確認出来ず、先方はモザンビークの別の投資事業に活用するような話しぶり)。</li> </ul> <p>(2)IFC の MSI(Mozambique SME Initiative)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同事業に対して IFC と共同出資している。しかし、ディスパースのスピードの遅さ、対象企業の規模(大きすぎる)に関して満足はしておらず、資金を引き上げて南アの民間金融機関に委託することを検討中(ただし、IFC 側の問題はモザンビークのオフィスよりもワシントンの意思決定者にあるとの認識)である。</li> <li>・ SDC としては、もっと規模が小さい中小企業に小額単位で貸し付けることが必要と考えている。また、Trade での協力で支援しているナンブラ州やガザ州の企業への優先的な貸付も一案であると考えている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | ・Swiss Development Cooperation with Mozambique  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 7 日(水) 14 時~15 時   |
| 2. 場所    | バイラ市内  |
| 3. 機関名   | GAPI   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Domingos Matias Chissancho, Gerente de Balcao  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;GAPI バイラについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ①開発のためのファイナンス及び②BDS(ビジネス人材育成)の二つの業務を実施している。</li> <li>・ ①については、基本的には採算が取れる全ての経済活動に対して SME やアグリビジネスを支援している。これには、貿易業、森林開発、漁業、農業に関連する全てのビジネス、小規模工業等が含まれる。</li> <li>・ ②BDS に関しては、農業組合を対象に、ビジネス管理、Community Credit &amp; Saving 等を実施している。基本的にはローンの貸付先に対するキャパシティビルディング事業である。</li> </ul> <p>&lt;農業に対する貸付&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 件数ではアグリビジネス関連の貸付が事業の約 60%を占める。</li> <li>・ 1~2ヶ月の返済遅滞は多く、約 15~20%の確立で起きる。</li> <li>・ 平均的なローンの額 2,000~3,000 ドル程度である(MTN で貸付を実施)</li> <li>・ 農民に対するファイナンスは、種子、メイズ、ポテト等の購入のためが多い。機械類購入のためのものは殆どない。</li> <li>・ 中部地域は GAPI にとって取扱額では第 2 位である。(マプトだけで約 40%、南部は 60~65%を占める。ソファアラ / マニカ / テテ州が 30~35%程度である。)</li> </ul> |



|         |  |
|---------|--|
|         | <p>&lt;ベイラ回廊沿い地域の農業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>政府が Buzi, Machanga, Gorongoza, Chibabava 等で小規模灌漑プログラムを実施している(アフリカ開発銀行からの資金によって)。この地域には河川は多いので灌漑のポテンシャルは高い。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 |  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月7日(水) 15時10分～15時40分  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Enterprise Development Project (PoDE)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Victor Tivane, Former Project Officer  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;事業概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Enterprise Development Project (PoDE)は、世銀とEUが出資して実施していた中小企業育成のためのプロジェクトであり、2006年6月まで6年間実施された。総予算は400万ドルである。</li> <li>事業は以下の4つのコンポーネントに分かれる。ただし、1つのプロジェクトでありながら、4つのコンポーネントは互いに独立しており、連携して動いていたとは言いがたい。</li> </ul> <p>(1) Technical and Learning Component<br/>Mozal や Sasol など大企業とのリンケージを強化することと、OJT 中心のトレーニングが活動の柱であった。リンケージ強化に際しては、大企業側が求める質とレベルをまず示した上で、それに適合できるよう中小企業側を訓練していた。その際のトレーニングでは、参加企業が50%の費用を負担していた。対象は純粋なモザンビーク企業のみであり、アイルランドのIDIとモザンビークの Simgest というコンサルティング会社が委託を受け実施していた。なお、IFC の MOZLINK とは、全く別のプログラムである。</p> <p>(2) Financial Component<br/>商業銀行強化のための支援で、出資も行っていた。対象は親会社がどこの国の企業でもよい。</p> <p>(3) Social Component<br/>企業内での HIV/AIDS 対策。オーストリアが実施していた。</p> <p>(4) Institution Component<br/>商工省と観光省のスタッフ能力向上が目的。研修は、主に EU 内の国で行われた。</p> |
| 7. 入手資料  | なし   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月7日(水) 16時30分～17時30分   |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | Cornelder de Mocambique s.a.r.l. (ベイラ港管理会社)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Carlos Mesquita, Executive Managing Director  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;ベイラ港・回廊について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベイラ回廊はジンバブエ、ザンビア、マラウイ、ボツワナ等の内陸国にとって非常に重要な回廊である。取扱量の約80%はこの内陸国からの輸送貨物である。このような重要性を考えると、マプト回廊に投資事業やモザンビーク政府の開発事業が集中してベイラが非常に遅れているのは理解しがたい。</li> <li>(ベイラ港を使う対モザンビーク)輸入の中心は、肥料、コメ、クリンカー、一般貨物、繊維・衣料等である。輸出は、綿、木材、魚介類、白ゴマ、砂糖等である。</li> <li>貨物は、港湾から道路及び鉄道を使って輸送されるが、鉄道はジンバブエに通る東西の線及びマラウイ国境のテテ州 Moatize まで走る北西へ行く線がある。ベイラ回廊と呼ばれるジンバブエまでの線路は運営されているが、Moatize までの線は内戦で壊された1983年以來使用不能である。現在、対ジンバブエ貨物の約25%が鉄道であるのに対し</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>て、ベイラ港を通る対マラウイ貨物の 100%が道路である。</p> <p>&lt;ベイラ港の状況・問題点、支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベイラ港は、モザンビーク国内の貨物の取扱が若干増加したものの、対ジンバブエ貨物が激減したため現在キャパシティの 45%でしか稼動していない。</li> <li>・ ベイラ港は浅く、大型船が入れないことが一番の問題である。浚渫事業についてデンマーク政府、CFM(政府系)と交渉をしている。上手くまとまれば 2~3 年以内に浚渫を開始させたい。</li> <li>・ 穀類(麦、コメ、メイズ等)の取扱いがあるが、穀物埠頭がないため、非効率である。現在の取扱キャパシティは一日 2,000~2,500 トンであるが、埠頭があれば一日 7,000 トンの取扱量が期待できる。これに関しては、既に投資が決まっており、フェーズ 1 として来年に一日 3,000 トンを取り扱うことが出来る埠頭を導入し、その後フェーズ 2 として 3 年後を目途にさらに一日 3,000 トンキャパの埠頭を導入する予定である。</li> <li>・ 同様に、砂糖埠頭も今後導入したい。Buzi での砂糖生産を 2 倍にさせる計画が発表されており、さらにマラウイやザンビアの砂糖生産も増加傾向である。そのため、現在の一日 3,000 トンのキャパシティ(現在は袋に入っているものをそれぞれ落とす作業が必要)から一日 9~10,000 トンに増加させることが出来る埠頭の導入を検討している。</li> <li>・ この他に、輸入量が増加している肥料のための埠頭等も検討する必要があると考えている。</li> <li>・ ナンプラの顧客の中には、距離的に圧倒的に近いナカラ港を使わず、わざわざベイラ港を使っている顧客もいる。最大のメリットは船舶のスケジュールの良さであろう。ダーバンへ行くフィーダー船が殆どであるが、最低週一回はダーバンからの(マプトを通らずに)直行エクスプレス便がある。</li> <li>・ 国内の他の港湾に関してはさほど競争を感じていないが、近隣諸国の貨物が、陸を通過して南アやタンザニアの港に出ているのは深刻な問題であると考えている。例えば、マラウイの貨物がジンバブエを通過(トラック輸送)ダーバンに直接行っているものがある。また、ザンビアからの銅はタンザニア・ダルエスサラームに運ばれている。ベイラに運ばれていた 1987 年は年間 250,000 トン程度の出荷量であったが、中国が出資しており、現在では 700,000 トンのビジネスとなっている。ベイラの港湾が浅すぎるため船が入らないのが最大の問題である。三井商船や NYK がベイラ港を使用するという話があったが、深さが足りないため断念したという経緯がある。</li> <li>・ 港湾内の貨物取扱のプロセス(クリアランス等)に関しては、「50%程度の効率性を維持している」という評価をしている。これは、内陸のロジスティックスの悪さのせいも大きいと考える。業者がトラック不足等を理由に貨物を取りに来ないということが多く、コンテナが積みあがっているように見えるが、Cornelder 社の問題でないことも多い。倉庫のアベイラビリティに関しては特に不足がないものと考えている。冷蔵倉庫も一つ有しているが、倒産してしまったジンバブエの会社がレモンの保存のために建設したものであり、現在は冷蔵用には使われていない。</li> </ul> <p>&lt;Cornelder 社について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 67%オランダの民間会社、33%モザンビーク政府の出資会社であり、2008 年に 10 周年を迎える。420 人の従業員のうち、オランダ人は 2 人いるが経営陣はモザンビーク人である。</li> <li>・ モザンビークにおいてコンセッションの下で運営されている会社の中で一番良く経営されている港湾であると自負している(モザンビーク人の経営、新規投資が入っていること等)。</li> <li>・ 従業員の研修に関しては、Training Department があり、社内でトレーニングを実施している。また、南ア、エジプト、オランダ等と契約しており、外国での研修も実施している。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | ・港湾の取扱品目に関するデータ   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 8 日(木) 9 時~10 時   |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | Prapesca (魚介類加工業者)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Mario Rui Sousa, Director   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)、IPEX   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;Prapesca 社について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エビ、魚等あらゆる魚介類の買い付け及び(簡単な)加工会社である。欧州向けの輸出</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>が中心であるが、東京のテシマ社と契約しハマグリ・アサリの日本への輸出が実施されることになった。早ければ 2008 年 1 月に輸出を開始したいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 従業員は 50 人程度である(捕獲される季節によって変化あり(エビに関しては 3~6 月がピークである)。自社で漁は行っておらず、200 人程度の漁師をアウトソースしている。魚介類の価格は直接交渉であり、魚卸売市場は存在しない。</li> <li>・ 現在大部分がポルトガル向けであるが、一部スペイン、アンゴラ、南アにも輸出している。エビの価格は事業を開始した 12 年前と同じである。</li> <li>・ ポルトガル資本の会社である。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <p>(1)品質管理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欧州のスタンダードが非常に厳しく、品質管理が大変である</li> <li>・ ASAPEMO という漁業組合があるが、技術面での支援・研修事業等はない。この団体は欧州の CDI、オランダの PUM(政府系、SV の派遣が中心)から技術協力を受けている。</li> <li>・ 政府は国内の品質管理に対する問題点を認識しているが、例えば INNOQ の機能は弱い。2006 年、欧州の視察団が魚介類を輸出している加工業者を回った結果、衛生、品質管理の面から不適格として EU への輸出認可リストからモザンビークが外されることが検討された。モザンビーク政府が反対し、リストからは外されなかったが、この事件を機に政府の品質管理に関する関心が増した。</li> </ul> <p>(2)漁師に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同社が、漁師に対して船に必要なガソリン代、捕獲された魚介類を保存するアイスボックス、氷等、また場合によっては前払い金(船の修理費等)を提供している。これら漁師に提供した資金は 30 億 MT に上る。このような事業モデルは他の会社でも使われている。問題は現物支払で前払い金を貸しているが、他の業者会社に捕獲された魚介類を売ってしまうケースが多いことである(港に同社の社員を派遣して監視しているが、とめられないことも多い)。</li> <li>・ 捕獲された業界類の冷蔵保存を徹底することが非常に難しい。氷を提供していても、氷付けされていないものが仕入れられることがある(そのような場合は購入しないということを徹底している)。</li> <li>・ エビが採りにくくなっており(ストックが減っている。エビはソファアラ海嶺が知られており、品質がよく捕獲量も多いが、水上警察が存在せず、不正な捕獲等に対する取締りが無い)、ガソリンの価格が上がっているため、エビの採算性が非常に悪くなってきている。そのため、まずはパイロット事業として養殖業を来年開始させる予定である。このための技術支援、人材育成、品質管理の支援を要請したい。</li> </ul> <p>(3)ファイナンス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政府に Fishing Promotion Fund があるが、小額であり同社のような会社には効果はない。また、漁師も使っていないようである。</li> <li>・ マイクロファイナンス機関の能力が低い。例えば、GAPI が没収した破綻企業の工場を紹介されることがあるが、電気、道路等のインフラがない場所に建っていることも多い。このような会社はそもそも成功するはずがなく、出資すべきではない。</li> </ul> <p>(4)インフラ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電気は昨今改善したが、短期間でも途切れることが多く、そのため機械の故障が激しい。ポルトガルでは必要がないのに、ここでは専用の技術者を常駐させている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 8 日(木) 10 時~10 時 40 分   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Spanish Technical Office of Cooperation   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Carlos Botella, Technical Assistance in Economy and Production Sector   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;マイクロ・クレジット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スペイン政府による産業・中小企業関連支援としては、マイクロ・クレジット、職業訓練で細々とやっている程度である。前者については、Tchuma という民間のマイクロ・クレジット機関総額百万ユーロを出資している。</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Tchuma は、マイクロ・クレジット機関としては国内で 3～4 番目に大きく、全国に支店があり特に南部に強みを持つ。ここを選定した理由は、この業界に詳しいパートナーの紹介があり、調査したところ社会的アプローチに重点を置いていたことが大きい。なお、返済期間は 12 年間で設定している。</li> </ul> <p>&lt;その他事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NGO を介した職業訓練のプロジェクトをいくつかの District で実施している。例えば、マプト州の Boanne におけるプロジェクトでは、スペインの NGO である Prosalus がポルトガルの NGO である Cosado と組んで、孤児院での大工、農業関連の職業訓練を実施している。</li> <li>・ この種のプロジェクトの実施形態は、NGO がプロポーザルを Spanish Cooperation Office に提出し、承認されれば資金を供与するというもので、期間はおよそ 3～4 年間である。</li> <li>・ 内容については、NGO が分野・実施方法等を提案して、Spanish Cooperation Office が当該国でのプライオリティ、National Reform of Professional Training というユニシアチブ（世銀が主導、スペインやオランダといったドナーが参画）に沿ったものであるかをチェックし、両者が協議した上で決定される。通常はスペイン政府からの資金以外に、ある程度の資金を付加する必要がある、このうち NGO 自身は 10～20% の負担となる。</li> </ul> <p>&lt;ドナー・コーディネーション&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スペインはマイクロ・ファイナンス、経済開発、財政分析、教育、保健といったワーキング・グループに参加している。マイクロ・ファイナンスの議長役はドイツ(KfW)である。</li> </ul> <p>&lt;中小企業支援の方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中小企業支援については、政府が直接実施するよりも独立した機関が行うのが望ましい。その点で新しい Institute が独立したものとなることは方向性として正しい認識である。</li> <li>・ 特に政府系金融による支援で成功した事例はほとんどないこともあり、ドナーが敢えて政府を支援するならば、キャンペーン向上に資するものに絞った方がよい。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | なし  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 8 日(木) 10 時～11 時   |
| 2. 場所    | ナンブラ市内   |
| 3. 機関名   | Provincial Tourism Office  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Domingo Cintura, Provincial Director of Tourism  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フランスの援助で、2008 年～2013 年の 5 年計画が策定されている。</li> <li>・ 現在の観光局のスタッフ数は 30 名である。観光事業、自然保護、HR、事務部、財務部に分かれる。観光事業部では、観光促進、観光計画、ライセンス供与(レストラン、ホテルなど)、検査部がある。また、モザンビーク島には、観光支所がある。具体的な活動は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) ナンプラを紹介する観光パンフレットを作っている。観光基金による資金で、現在、ナンブラ空港に観光情報センターを建設中である。</li> <li>(2) また、観光ガイドの養成を行っている。ガイドは、現在、観光客と個別に契約して、案内を請け負っている。</li> </ul> </li> <li>・ ナンプラ州には、Provincial Hotel Association がある。民間と役所と共同でフォーラムを開催する予定がある。</li> </ul> <p>&lt;観光開発&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海岸沿いの開発について、州としては直接携わっておらず、マプトの旅行会社などが独自に行っている。ダイビングについては、まだ未開発である。名からは、南アからのダイビングの会社ができる予定であると聞いている。</li> <li>・ 沿岸部の開発においては、世界銀行が、アンゴシエ地域の 796 ヘクタールを開発地区として指定し、マティバネ地区においても、1,750 ヘクタールが開発地区として指定されている。今後開発が期待される。</li> <li>・ 自己資金が乏しいため、地元の経済界からは観光開発には参加していない。</li> <li>・ 地方では、法律の制約により観光税などを導入することはできない。手数料という形では</li> </ul> |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>徴収可能である。</p> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ナンプラーモザンビーク島をつなぐ観光用の鉄道が必要であると考えている。ナカラ回廊沿いには、多くの村落があり、これらの地域に裨益するような観光開発のアイデアが必要である。</li> <li>・ カポデルガド州では、スペインとの協力で Cultural Village のような地域に直接裨益するような支援を実施中である。(Kirin Pass Park, イボ島)</li> </ul> |
| 7.収集資料 | ・ナンプラ州観光開発計画 2008～2013  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月8日(木) 11時～11時半  |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | IPEX  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jose Fernando Jossias, Managing Director  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;調査概要報告・意見交換&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調査団より地方で訪問した企業、紹介された製品の感触について説明した。特に大豆から生産したコーヒーなど工夫した製品もあるので、これらの差別化を図っている企業を基点に一村一品の活動を上げていくことを提案した。</li> <li>・ IPEX からは、各地の特異な製品を作っている企業も含めて各州の事業情報を蓄積しているので、JICA 専門家が派遣されるならば、この情報を基に活動を行ってきたいとのこと。</li> </ul> <p>&lt;テクノ・ネット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数日前に新聞広告で、UNDP が何らかのプロジェクトを実施する対象企業を募集していたと記憶している。ただし、これがテクノ・ネット関連かどうかは分からない。少なくとも、このような案件は聞いたことがない。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前日のテレビ・ニュースで、米国がリチンガークワンバーナンプラ間の道路建設に対して資金を拠出すると発表していた。日本が拠出すると聞いていたので少々驚いたが、もう関わらないのかとの質問あり。(当方からはニュースを見ていないので不明と回答)</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月8日(木)11時30分～12時30分   |
| 2. 場所    | ベイラ市郊外   |
| 3. 機関名   | Companhia Nacional Algodoeira, SARL(綿加工業者)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Antonio Gomes, Director Administrativo Financeiro  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)、IPEX  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 80%モザンビーク資本、20%ポルトガル・フランス合弁企業の資本である。(モザンビークの事業に関わっているのは、ポルトガル・フランス合弁企業のうちフランス会社の部分である)</li> <li>・ 綿花農場は持っておらず、マニカ及びソファアラ州の30～40の農業組合(Association)から買い付けている。結果的に約20,000家族をサポートしている。種子、肥料、機械類等を提供している。また、学校建設等コミュニティー開発にも出資している。</li> <li>・ 研修事業も実施しており、例えば来週、動物(牛)による牽引車(畜力ブラウ等)の導入に関するセミナーを実施する。農地におけるモニタリング、技術支援のため人を雇用し、農村へ派遣している。また、生産された綿花は自社のトラックで工場まで輸送している。</li> <li>・ 生産性は非常に改善している。1996年は年間1,500トン程度であったが、2007年は18,00トンを見込んでいる。</li> <li>・ 綿花から種子、不純物を取り除き、清浄して綿として固めることを実施する工場である。製糸、繊維業とは実施していない。生産されたものの75%はアジアへ輸出される。その他の25%はポルトガル等欧州、南ア、UAE等に送られる。</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>工場従業員は 100 人程度であるが、そのうち 60 人程度は臨時雇用の季節労働者である。雇用・解雇に関する問題は特にないが、法の解釈が不明解な部分があり問題に成ったことがある。</li> </ul> <p>&lt;産業の概要と課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>道路インフラが最大の問題点である。徐々に改善しているものの、農道の状況が悪い。</li> <li>このような綿生産工場は、全国に 6~7 社存在する。ナンブラ地方のほうが農地が綿生産に向いており、ベンバ、ナンブラの綿工場は当社よりも大きい。</li> <li>綿の世界価格が下がり続けており、2~3 年で値段が改善しない限り事業の維持は難しい。</li> <li>この国の繊維業は皆無に等しく、アジアの競争を前に国内で繊維業を復活させていくのは無理であろう(面談者は米国の AGOA によって優遇を受ける可能性があることに関する認識はない)。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 |   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 8 日(木) 14 時~15 時   |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Ministry of Industry and Commerce, Cabinet of Communication and Public Relations   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Manuel Fernando Chicane  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;SADC、NEPAD&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SADC には加盟国のうち遅れている国への支援を目的とした基金がある。しかし、経済分野に関しては、現時点での議論は市場統合をいつ行うかが決定され、まずは各国が独自に準備を進めるという段階にある。そのため、基金を活用して特定の国を支援するという話はまだ出ておらず、モザンビークも独自に準備しているのみである。</li> <li>NEPAD については、そもその理念は良かった。しかし、実態として資金を提供するのは EU、米国、或いは世銀といったところなので、アフリカ独自にという発想ではこういったドナーからよく思われないようで、予算を確保できないという問題に突き当たっている。そのためオペレーションが伴わず、ほとんど機能していない、失敗であったと認識せざるを得ない。</li> <li>ただし、SADC の経済統合については、NEPAD と異なり EU にとってもプラス面があると考えられているようで、EU が何かしらの形で資金を提供する用意があるようである。</li> </ul> <p>&lt;Made in Mozambique&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同プログラムの商工省内での担当部署は National Product Promotion Technical Unit (UTPRON) であり、審査もここが実施している。National Product といっても、製品とサービスの両方を含んでおり、mCel、VodaCom、フィットネス・センター等が含まれているのは、これら企業がサービス部門に含まれるためである。</li> <li>それでも製品部門が 8 割ほどを占めている。また、外資系の企業であっても、モザンビーク資本が 30% 以上入っていれば、その対象となる。</li> </ul> <p>&lt;UTPIR&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同ユニットによる機械斡旋事業は、(調査団の指摘のように)業者との癒着の恐れがないわけではない。しかし、農村の事業者が自らのイニシアチブで機械を取り扱う業者を探すことはまれであり、このままではモザンビークが労働集約的な産業のみの国という状況から脱することが出来ない。技術導入のスピードアップを図るためには、リスクを考えてやらないよりも実施する方がメリットは大きいと考えている。</li> <li>なお、中小企業 Institute が設立されれば、UTPIR 事業もここに入ることになる。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テクノ・ネットについては何も知らない。UNDP には、産業分野でも例えば CTA を介した支援などを行ってもらったが、事業の透明性などの点で問題も少なくないとの認識である。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月8日(木) 15時30分～16時30分   |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | CCFB(Companhia dos Caminhos de Ferro da Beira)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. S. Nishat Ali, Deputy Director Traffic & Marketing  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;会社概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>51%インド(インド政府機関 RITES(50カ国程度のインフラ事業に関わる)及び IRCON)、モザンビーク政府(CFM)49%出資の会社であり、Beira Rail Corridorを管理する25年間のコンセッションを持っている(2004年12月より)。</li> <li>技術協力として、インドから14人の技術者が派遣されており、その他に経営陣はインド人である(面談者も、インドからの公務員)が、実務者はモザンビーク人である。</li> </ul> <p>&lt;施設の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Beira Rail Corridorは①Machipanda Line(ベイラ-ジンバブエ間)及び②Sena Line(ベイラ-Moatize間及び Marromeu 及びマラウイへ抜ける2つの枝線)からなる。</li> <li>Sena Lineに関しては、内戦で破壊されているため線路の復旧が含まれる。まず2007年にベイラからInhamitangaまでの180キロ、その後Morromeuまでの265キロ、2009年3月までにMoatizeまでの670キロを完成させる予定である。</li> <li>ブラジルのCVRDが大規模の投資を実施し、年間5000万トンの物流量がある。また、マラウイからも200万トン程度の可能性もある。</li> <li>ベイラ-ドンド間(28キロ)には乗客用電車が一日2往復している。</li> <li>ジンバブエ向けは一日1～2回程度電車があるが、不定期である。対ジンバブエの物流量は昨年比マイナス22%である。</li> </ul> <p>&lt;貨物の概況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>また、Machipanda線に関しては、最大であった昨年は年間50万トンだが、平均は35万トン程度である。ベイラ向けの物流は、砂糖、木材、セメント、綿、コットン・シーズ、ジンバブエの花こう岩等である。資源では、クロム鉄(ジンバブエから中国へ2万トン輸出されている)、鉄鉱石、また、以前はザンビアからの銅があった。現在は600万トン程度の殆どが南アを通して輸出されている。</li> </ul> <p>&lt;ビジネス環境&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従業員に対する研修は社内で行っている。モザンビーク人の一般的な問題は、人は良いが、責任をとらない人が多いことである。ただ、従業員の軽犯罪等もなく、階級制度もないので仕事はやりやすい。</li> <li>2007年の11月1日に労働法が改善されたが、依然問題がある。契約労働者を2回以上更新できないため、契約更新が出来ず、問題である。せっかく仕事を覚えたのに解雇する必要があるのは双方(雇用者、従業員)にとって非常に無駄である。</li> <li>政府の官僚主義(Bureaucracy)度の調査では世界24位にランクされており、先進国よりも上位である。汚職も大きな問題はなくビジネス環境に問題はない。</li> <li>過去3年間で非常にプロジェクト数(投資事業)が増えていることが何よりの証拠であろう。例えば、バイオ燃料に関する関心が高まっており、南アからの大規模なジャトロファ栽培等が挙げられる。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  |   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月9日(金) 8時半～9時   |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Small Industry Development Fund(FFPI)  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Apolinario Panguene(Executive Director)  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;テクノ・ネット&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2004年6月にヨハネスブルクでプログラムを開始する当たりのコンファレンスが開催された。モザンビークではFFPIがフォーカル・ポイントとなったため、当時のExecutive Directorが参加、ここで関係国・機関の全てが署名したMOUに同氏がサインしている。</li> <li>参加国は、モザンビーク以外では南ア、ガーナ、ナイジェリア、カメルーン、タンザニア、ウガンダであった。国によっては複数の機関が参加する場合もあり、例えば、南アでは Ntsika、</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>NAMAC、商工会議所の3つが同国のフォーカル・ポイントとなっていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーカル・ポイントとなっている各国の機関の役割は、まず自国内中小企業のクラスター化を進め、このクラスター単位でテクノ・ネット事務局（南アに設置）を介して他国のクラスターとのネットワークを推進することになっていた。</li> <li>・しかし、MOUの中には2006年までの予算が含まれ、参加国への支援予算も計上されていたはずであったにも関わらず、実態は、少なくともモザンビーク（FFPI）に対しては、事業を行うに足るだけの資金が入ってきていない。そのため、2004年以来ほとんど何も動いていないに等しい。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 | なし  |

| 1. 日時    | 2007年11月9日(金) 9時半～9時45分  |        |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
|----------|--|--------|-----|----|------|---------|-------|---|-------|--------|---|-------|--------|---|-------|--------|---|-------|--------|---|--|--|----|-------|--------|
| 2. 場所    | マプト市内  |        |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 3. 機関名   | Tchuma Credit and Savings Cooperative SCRL   |        |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 4. 先方対応者 | Loan Officer at Counter  |        |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |        |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 6. 面談内容  | <p>(スペイン政府の協力による資金が入っている同マイクロ・クレジット機関の窓口を訪問し、融資条件等を聴取)</p> <p>&lt;融資条件&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・融資を受けるには、まず同組合の組合員となる必要がある。その上で、IDカード、住民証明、水道・電気代の支払証明、他組合員2名の推薦書を、申請用紙、申込金100Mt、デポジット20Mtと共に提出。</li> <li>・21歳以上のみが対象となり、事業を既に6ヶ月以上継続(新規起業者は対象外、モザンビークではマイクロ・クレジットといっても大半が利益目的で設立された金融機関であり、リスクの高い融資は避ける傾向にある)していることも必須。</li> </ul> <p>&lt;金利&gt;</p> <p>1万Mtを借り入れた場合の借入期間とそれに応じた毎月の返済額は以下のとおりである。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>借入期間</th> <th>返済額</th> <th>金利</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2ヶ月間</td> <td>5,400Mt</td> <td>8.00%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>3,686</td> <td>10.58%</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>2,832</td> <td>13.28%</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2,320</td> <td>16.00%</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1,979</td> <td>18.74%</td> </tr> <tr> <td>～</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>1,132</td> <td>35.84%</td> </tr> </tbody> </table> | 借入期間   | 返済額 | 金利 | 2ヶ月間 | 5,400Mt | 8.00% | 3 | 3,686 | 10.58% | 4 | 2,832 | 13.28% | 5 | 2,320 | 16.00% | 6 | 1,979 | 18.74% | ～ |  |  | 12 | 1,132 | 35.84% |
| 借入期間     | 返済額  | 金利     |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 2ヶ月間     | 5,400Mt  | 8.00%  |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 3        | 3,686  | 10.58% |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 4        | 2,832  | 13.28% |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 5        | 2,320  | 16.00% |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 6        | 1,979  | 18.74% |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| ～        |  |        |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 12       | 1,132  | 35.84% |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |
| 7. 入手資料  | ・融資申請書(ポルトガル語)   |        |     |    |      |         |       |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |       |        |   |  |  |    |       |        |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月9日(金) 9時30分～10時  |
| 2. 場所    | ベイラ市内  |
| 3. 機関名   | Mozambique Culture Centre (Beira)  |
| 4. 先方対応者 | マネージャー   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)、IPEX  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;活動概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育・文化省の管轄。モザンビークの文化にフォーカスしている。同様の機関がソファアラ州のほかにはマプト、ザンベジア(Kilimane)、Inhambane、Lichinga、Nampula、Cabo Delgado(Pemba)に設置されている。1967年に設立されたベイラのカルチャーセンターは国内で随一である。</li> <li>・ジンバブエ、南ア、スイス、スウェーデン等との交換制度があり、研修制度等があるとともに、海外でパフォーマンスを実施している。若い人にモザンビークの文化に関心を持たせることを課題としている。アフリカ美術・彫刻のクラスを開催している。</li> </ul> |



|         |                                  |
|---------|----------------------------------|
|         | ・ インフォーマルな手工芸品を作る人たちを敷地内で容認している。 |
| 7. 入手資料 |                                  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月9日(金) 11時～14時  |
| 2. 場所    | Dondo(ベイラ近郊)   |
| 3. 機関名   | 農園(PROMECCの支援を受けている)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Cardoso Julio Tarde (PROMECC-Dondo)  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;PROMECCについて&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ オーストリアのNGOであり、ソファアラ州の5つの地区で活動を実施している。</li> <li>・ キャッサバ、メイズ、園芸作物等を対象として、農家の市場のアクセス向上を目的とした活動を実施している(国内のマーケットが中心)。</li> <li>・ また、農業保全の倫理を重要視しており、作物のローテーション等に対する技術支援を実施している。</li> <li>・ その他、ビジネスモデルの構築支援を実施しており、必要資材・機械投資に対する支援を実施(現金をローンとして渡すのではなく、資材・機械を提供する。「預金」の理念を浸透させるため、ローンとして返済義務が生じるが全額再投資される。</li> </ul> <p>&lt;農家&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 殺虫剤を利用、肥料は糞を土の上に敷くなど工夫をしており、科学的なものは使っていない。</li> <li>・ PROMECCの前から政府によって灌漑用のポンプが提供されていたが、老朽化し故障したままであった。そのため、PROMECCにパイプ敷設の支援をお願いした。この地区の多くがこのように政府から灌漑用ポンプを共産党時代に提供されたが、その殆どは老朽化しており、現在は使えない状態である。殆どの農家では、バケツで水を汲んで散布する程度の灌漑のみである。</li> <li>・ 園芸作物(野菜)を育てており、Shopriteの契約農家となっている(PROMECCによる仲介等直接の支援はなかったが、PROMECCから市場へのアクセスのメリット等を学び、ある日飛び込みでベイラのShopriteに品物(野菜類)を持って売り込みを行った。「安定的な供給を約束できるのであれば」という条件で契約を取り付けることに成功)。</li> <li>・ Extensionistという農業技術者(公務員)が政府から各地へ派遣されており、農民に対して農業に関する技術指導を実施している。現在この地区には5人程度である。PROMECCはソファアラ州政府と契約しており、Extensionistの研修を担っている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  |  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月9日(金) 14時～15時  |
| 2. 場所    | マプト市内  |
| 3. 機関名   | Mozambique Information and Communication Technology Institute, Business Incubator  |
| 4. 先方対応者 | Ms. Deolinda Salomao, Research Assistant   |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>(当初、所長代理のMr. Jamoとの面談予定だったが、同氏ご家族の急病により上記スタッフが対応)</p> <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MICTIは、2002年にEduardo Mondlane大学のプロジェクトとしてACACIAという名称でスタートした。活動の柱はResearch and Learning Institute、ICT Business Incubator、Science and Technology Parkの3つからなる。</li> <li>・ 協力隊員4名も活動中のResearch and Learning InstituteはICT分野の人材を育成する訓練センターである。マプト郊外回廊沿いのMoambaにあるScience and Technology Parkは、外国直接投資のみならず比較的規模の大きい国内企業の研究拠点をしたいとの意向をMICTIは持っている。</li> <li>・ またBusiness Incubatorは、理工分野の新ビジネスで起業したいモザンビーク人に場所とノウハウを提供することが目的である。ただし、大学内にあるという点と、理工学部と</li> </ul> |

|         |  |         |         |         |  |     |       |  |     |        |  |       |        |        |  |        |
|---------|--|---------|---------|---------|--|-----|-------|--|-----|--------|--|-------|--------|--------|--|--------|
|         | <p>MICTI とのパートナーシップにより緊密な関係にあるという理由から、主に国立大学理工工部の学生が利用するパターンがほとんどである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ なお、将来的には 3 施設全てを Moamba に移転する予定である。</li> </ul> <p>&lt;Business Incubator&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Incubator の施設には、7 社分のスペースがあり、ミーティング・ルームも完備している。パソコン、プリンター、インターネットへの接続の他、経営面に関して若干のアドバイザー・サービスを受けることが出来る。</li> <li>・ 既にオンラインで法務アドバイス・情報提供を行う会社が、2 年間活動した後にビジネスを軌道にのせ巣立つなど、少しずつ実績は出ている。現在入っているビジネスの概要は次のとおりである。</li> </ul> <p>(1) Servitel</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国立大学理工工部を間もなく卒業する同級生 2 名(それぞれ物理、電子工学を専攻)が、会社の立ち上げを準備中。携帯電話の SMS を利用して、情報を提供するビジネスを行う予定。ただし、何に関する情報かはまだ確定していない。起業しようと考えている理由は、新しいビジネスで社会貢献しながらお金儲けが出来る可能性があるからとのこと。大学の他学生の大半はどこかに就職するというのが一般的で、起業する人間は非常に少ない。</li> <li>・ MICTI ではスペースと機材を利用できると同時に、多少の経営アドバイスをしてもらえるのも利点。ただし、MICTI でのアドバイスだけでは経営に必要なスキルを得るには足りないと思われるため、ある程度収入が出来たらマネジメント・コースに通いたいと考えている。</li> <li>・ 理工分野は世銀が Innovation Fair という科学技術に関連したビジネス・アイデアのコンテストを実施しており、それがひとまずの目標になっている。また、今年は学部からの卒業見込み者が例年よりも多いので、学生へのアプローチ方法次第では MICTI がより知られるようになる可能性は高い。</li> </ul> <p>(2) AMM</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子工学を専攻して今年卒業見込みの 6 名が、インキュベーターのスペースを借りて実習中。大学と MICTI のパートナーシップにより無料でスペースと施設を使い、且つカリキュラムの中の実習と認められているので単位を取得できるのも魅力。</li> <li>・ 新たな情報提供のためのアプリケーションを開発中で、理論面は卒論の材料に使い、応用面はビジネスの種になるため、一石二鳥を狙えることもありインキュベーターを利用している。</li> </ul> <p>(3) 他ビジネス</p> <p>上記以外に、ウェブ・デザイン、携帯電話 SMS を利用した電気料金支払いシステムのビジネスを行うグループが入居している。</p> <p>なお、大学とのパートナーシップとは別に入所する企業が支払う賃料は次のとおりである。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 年目</td> <td>1~3 ヶ月目</td> <td>25 ドル/月</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4~6</td> <td>50 ドル</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7~9</td> <td>100 ドル</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10~12</td> <td>200 ドル</td> </tr> <tr> <td>2 年目以降</td> <td></td> <td>200 ドル</td> </tr> </table> | 1 年目    | 1~3 ヶ月目 | 25 ドル/月 |  | 4~6 | 50 ドル |  | 7~9 | 100 ドル |  | 10~12 | 200 ドル | 2 年目以降 |  | 200 ドル |
| 1 年目    | 1~3 ヶ月目  | 25 ドル/月 |         |         |  |     |       |  |     |        |  |       |        |        |  |        |
|         | 4~6  | 50 ドル   |         |         |  |     |       |  |     |        |  |       |        |        |  |        |
|         | 7~9  | 100 ドル  |         |         |  |     |       |  |     |        |  |       |        |        |  |        |
|         | 10~12  | 200 ドル  |         |         |  |     |       |  |     |        |  |       |        |        |  |        |
| 2 年目以降  |  | 200 ドル  |         |         |  |     |       |  |     |        |  |       |        |        |  |        |
| 7. 入手資料 | MICTI Brochure   |         |         |         |  |     |       |  |     |        |  |       |        |        |  |        |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 9 日(金) 15 時~15 時 30 分  |
| 2. 場所    | Manga 村内(ソファアラ州、ペイラ近郊)   |
| 3. 機関名   | Handicraft Association   |
| 4. 先方対応者 | 組合長  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISCOS Sviluppo(イタリア NGO)が 2001~2005 年の間支援し、Association が設立された。</li> <li>・ 同 NGO からは、建物・機械類の購入、運送(完成品のマーケットへの移動、原材料であ</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>る木材の運搬等)等に対する資金援助があったが技術支援はなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NGO からの支援がなくなり、本団体は縮小傾向である。以前は 15 程度働いていたが、現在職人は 7 人である(訪問時に作業をしている人はおらず、「仕事がない」のだという話をされた)。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ このような Association は現在ソファアラ州に合計 3 つある。</li> <li>・ ファイナンス、完成品を持っていくマーケットがないことが問題である。売り上げがないので木材も買えないという悪循環になっている。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 |   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 9 日(金) 17 時 30 分～18 時 30 分   |
| 2. 場所    | ベイラ市内  |
| 3. 機関名   | PROMECA (Promocao Economia De Camponeses Sofala)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Jose Paulo Cristiano Taimo   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;PROMECA の活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存のネットワークを強化することを基本としている。</li> <li>・ 事業のカバレッジに関しては、ピーク時には 2 つの地区を約 9,000 の農家に対して設定された開始された事業である。現在、直接支援を現在受けているのは 2,000 農家程度である。活動はニーズがあったところのみなので、地域の組合・団体の積極性が関わってくる。</li> <li>・ ベイラ回廊沿いの野菜は品質が良く、マニカからマプトまで運ばれている野菜もある。Shoprite 等のスーパーと契約を持っている中小規模農家のケースもあるが、Shoprite が大規模農家と既に契約をしているため、中小農家の新規参入は難しい。また、Shoprite は支払が 2～3 ヶ月後であったり、製品の定期的な納品が必要であったりと中小農家にとっては困難な面も多い。</li> </ul> <p>&lt;小規模農家の農業振興&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資金の問題に加えて、マネジメント・技術力不足が問題である。例えば、トマト、フルーツには保存倉庫が必要であるが、そのような観点は考えない。基礎的なアグロ加工に関する能力がない。</li> <li>・ マーケット志向型の視点を育てることに着目している。例えば、園芸栽培農地の上に黒の網目織りを被せ影にすることで他の農家との収穫時期をずらすことが出来、オフシーズンに高い値で野菜を売ることが出来る。</li> <li>・ また、生産はあるが市場とリンクしていないことが多々ある。例えば、生産されている農作物、及びその品質が需要とマッチングしていない。PROMECA では、換金作物(白ゴマ等)やアグロ加工品としてジュース製造等を考えている。</li> <li>・ 農家に技術支援やウェアハウスを提供している。</li> </ul> <p>&lt;ベイラ回廊沿いの農業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベイラ回廊沿いに川、溜池等が多く、水の供給に関しては問題ない。また、土地が肥えている。Buzi、Chibaba でカシューが生産されており、今後加工工場の建設が検討されている。</li> <li>・ Dondo 地区は、ベイラ市に近いという利便性で農業が発展しているが、土壌はあまりよくない(Buzi 等のほうが良い)。野菜、また、食料安保のために根菜、キャッサバ、スイートポテト等が栽培されている。</li> </ul> <p>&lt;Outgrowers Project&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Outgrowers(契約農家)を拡大したい。例えば、サトウキビ会社がベイラ周辺に 3 社あるが、それらに Outgrower の活用を推進している。まず、Buzu 社は 6,000 ヘクタールを Outgrower によって確保している。また、Sena Sugar Company の 1,000 ヘクタールを検討しており、50 の農家に対する好影響が期待できる。</li> </ul> <p>&lt;農業の問題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サプライ・チェーンがなく、生産をマーケット、貿易に繋げることが非常に大切である。また加えて農産品の加工へリンクすること、保存施設の建設が課題である。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば、Chibabava や Buzi 等ではパイナップルの生産が多いが、生の需要は限られているので、捨てられている状態である。これをジュース等に加工することが出来れば需要が増える。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 12 日(月) 10 時～11 時   |
| 2. 場所    | マプト市内   |
| 3. 機関名   | Enterprise Mozambique Foundation  |
| 4. 先方対応者 | Dr. Evaristo Jordao Vilanculos, Executive Director  |
| 5. 当方出席者 | 舟橋、キムラ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Enterprise Mozambique は中小企業経営者やこれから事業を始めようという人材を育成する機関であり、UNDP プロジェクトとして 2000 年に設立された財団である。</li> <li>同プロジェクトは延長もなく 2003 年で終了し、以降は継続的に Finance してもらう先はないため、政府等にプロジェクト案を提出・実施することによって独立採算で運営している。</li> <li>事業の主流は新規企業創出のための人材育成でマネジメント全般を指導するため、特定技術を深彫りした内容では活動していない。</li> </ul> <p>&lt;EMPRETEC&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1988 年にアルゼンチンで始まった起業家育成のためのビジネス・コースである EMPRETEC は、同じように学校を卒業した人がなぜ事業を始める人と始めない人に分かれるのかといった意思決定の際のモチベーションに注目したプログラムである。1990 年以降世界の多くの国へ 拡大し、アフリカでも複数国で実施されている。</li> <li>モザンビークでは UNDP のプロジェクトだった時期から継続して本財団が運営しており、10 日間を単位とするトレーニング・セミナーを開催している。教える内容は、ビジネスを始めるために必要な計画、品質管理、モニタリングなどであり、コースの最後には参加者は自分でビジネス・プランを作成することになっている。また、このプランに基づいて、企業をスタートするサポート(企業登記からマーケティングのアドバイスまで様々な側面について)も行う。</li> <li>参加者がビジネス案を考える際には、大工、小規模漁業、カフェなど、なるべく小額の資金で始められるビジネスを勧めており、各自がそれぞれの事業でのマーケットの可能性も調査することになっている。</li> <li>参加者の大半は商業・サービス業の経験者であり、中には農業経験者も少なくない。UNDP が去った後の 3 年間では、841 名が参加している。参加者が払うフィーは、UNDP プロジェクト時代は食事込みで 200 ドルであった。講座全体では一人当たり 400～500 ドル必要であるので、UNDP は半分強を負担していたことになる。2004 年以降は他ドナー、政府の委託を受けて、州や住民層などを特定した形で実施することが多く、個人が払う参加費は 100～200 ドル程度としている。</li> <li>例えば、世銀の資金ではマプト、ナンブラ、ソファアラ州の女性だけに絞ったセミナー、ILO と労働省の共同の際にはナンブラ、ソファアラの 2 州でといった具合である。</li> <li>なお、地方では、各州の経済団体(具体名の例示はなし、Nampula では ACIANA などの質問には別の団体と回答)を通してアレンジ・運営し、講師としてマプトから 3～4 名を派遣するという形で実施している。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の事業として、現在動いているものはない。ただし、可能性があるものならば積極的に取り組みたい。</li> <li>例えば、外資系大企業と中小企業とのリンケージは、モザンビークでは重要な課題であり、リンケージ強化のためのサポートや、中小企業向けのコースを設置するなど、案はある。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | なし  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月12日(月) 10時～11時  |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | Beira Provincial Tourism Office   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Mateus Ribaue, Dept. of Conservation Area   |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光局では、担当が23名いる。その他、ゴロンゴザ国立公園では、150人が別に働いている。</li> <li>観光局の主な活動は、観光のプロモーション、自然保護区の保護推進などである。Marromeuの保護区には、主に野生の水牛が7000頭ぐらい生息している。近くにハンティングエリアもあり、有料で狩猟もできる。</li> <li>ベイラ市内の観光開発という点では、レストラン、バー、ホテルなどの数を増やしていくように推進している。具体的には、ホテルを作るときの登録手続きなどについて支援している。</li> </ul> <p>&lt;国立公園の概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴロンゴザ国立公園には、現在15,000～16,000人ぐらいの人が住んでおり、現在、移住計画がある。ゴロンゴザは、南は川、北は道路によってさえぎられた地形である</li> <li>移住する場所には、社会インフラ(病院、学校、給水などの施設を整える予定があるが、アメリカのNGO CARRから支援を受けている。</li> <li>国立公園の入場料の一部について、マロメウ周辺の狩猟地域では、20%の収入を地域の3つのコミュニティグループに分配している。ゴロンゴザでは未実施である。</li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソファアラにあるニヤマタンザという地区は、民芸品製作では有名かもしれない。</li> <li>日本への支援要望としては、ホテルの建設などを推進してほしいと考える。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | ・ホテル建設などの推進地区リスト  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月12日(月) 11時～12時  |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | Beira Provincial Mineral Resource and Energy Office   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Julio Mahamane, Director of provincial office   |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;ソファアラ州における開発ポテンシャル&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソファアラ州では、建設材料用の砂利、砂金などが採掘されている。宝石はない。</li> <li>砂金については、農村の人々(Garinpeiro)が、中心となって小規模に行われている。埋蔵量などは、分かっていない。ゴロンゴザ、ニヤマタンダ周辺で採取できる。採掘者の数は、2千人以上に上るが、現在、それらの組織化を考えている。</li> <li>採掘された金は、採掘ライセンスを持っている業者に販売する。現在、資源調査が実施されていないので、深く掘って埋蔵量を確認する必要がある。また、ベイラ沖では、マレーシアのペトロナスが石油の埋蔵量の調査を実施中である。</li> <li>ベイラのセメントは市郊外のドントという町で生産されており、材料はすべてローカルで調達できる。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | なし。   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月12日(月)  |
| 2. 場所    | ベイラ回廊、ジンバブエ国境、Mutare 駅視察  |
| 3. 機関名   | —   |
| 4. 先方対応者 | —   |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <ul style="list-style-type: none"> <li>道路(300km程度)は全区間舗装されており、3時間強でベイラ～国境間を走行可能。トラックの交通量が多い。</li> </ul> |

|         |  |
|---------|--|
|         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国境の営業時間は 06:00～22:00 であり、マプト回廊の南アーモザンビーク国境と比較して交通量が少ないため混雑はなく、通関待ちのトラックの列もない。</li> <li>・ 国境沿いの駅 (Mutare 駅) は、現在は貨物専用であり、この駅に止まる定期便はない。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 |  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 12 日(月) 11 時 30 分～13 時  |
| 2. 場所    | マニカ州 Chimoia 市近辺  |
| 3. 機関名   | IDEAA-CA  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Refo De Sousa, Chief  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要及び活動&gt;</p> <p>(もともとは、Institution for Development and Equity for African Agriculture であったが、現在は IDEAA が正式名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産者団体であり、マニカ州の 4 つの地区(①Barue、②Sussendenga、③Manica、④)で活動している。6 つの Association によって構成されており、300 の農家及びその家族が対象となっている。農家の平均土地面積は 0.5 ヘクタールであるが、全てが大豆生産に充てられているわけではない。</li> <li>・ 当初は、換金作物生産としてヒマワリ、ゴマ生産のメンバー農家への推進をしていたが、2 年前に大豆の可能性を知り、大豆の事業を開始(現時点では、各メンバーが任意で土地の一部を大豆栽培に当てている程度であるが、徐々に大豆栽培用地は拡大している)。大豆に関しては、換金作物というよりもむしろ農民の栄養向上を目的としており、メンバーによって消費されている(一部運営費、機械の作動のための経費等のために近隣の養鶏所に飼育用餌として売られている)。</li> <li>・ 現在は大豆ミルク、大豆コーヒー、大豆のメイズ(粉)を作っている。(メイズは製粉するのみ、コーヒーは大豆をローストしてから製粉する、ミルク(豆乳)はメイズを水で沸騰させる)。ミルクが全体の 50%程度を占める。</li> <li>・ 現在 50 ヘクタール程度の土地で年間 2,000 トンの大豆を生産している。生産量を増加させたいが、種が足りず難しい状況にある。</li> <li>・ 今年 8 月末にマプトで開催された Trade Fair で大豆コーヒーを紹介した。</li> <li>・ Sussendenga の農業学校(政府系)からが技術支援を受けている。また、学校を通して USAID がプロジェクト支援を実施している。また、Local Economic Development Agency of Manica Province (ADEM)からの支援があり、さらに、民間セクターから燃料等に対する支援が個別にある。また、加工に使われる簡単な手動製粉機械は以前カナダ政府から贈与された。</li> <li>・ 本事業はそもそもジンバブエの民間団体からの支援によって開始された事業であり、現在も基礎的な研修を年 1～2 回受けている。</li> </ul> <p>&lt;モザンビークにおける大豆生産について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Sussendenga の農業学校の調査によると、現在生産を実施している 4 地域は土地が肥沃で、大豆生産に非常に向いているという結果が出た。ジンバブエの種を輸入して生産しているが、ジンバブエは標高が高く環境がずいぶん違うため、種子の品質を改良し、この地域に適したものにする必要があり、現在、Sussendenga 農業学校で品種改良を行なっているところである。一方で、大豆生産では水、日照、気温が大切であるが、この地域は不安定であり、特に水に関しては、灌漑が殆どされていない。</li> <li>・ マニカ州で大豆生産を実施しているのは IDEAA を通じてのみである(ジンバブエから逃れた農家と中国人がそれぞれ大豆生産をしていたときがあったが、両者とも撤退してしまった)。ナンブラ州、ニアサ州でも大豆生産を実験したが失敗している。マプト州でも小規模の大豆生産を実施していると聞いている。</li> <li>・ 大豆生産は、土壌を豊かにするが、ヒマワリ、トウモロコシやタバコ生産では逆に土地がやせてしまう。したがって、トウモロコシと大豆を交替で生産すると良いと考えている。</li> <li>・ 政府は家畜、ナッツ類、園芸作物等の農業を推進しており、あまり大豆生産を推進していないが、大学・研究所で大豆生産を推進する動きが強まっている。鳥・その他家畜の飼育のために大豆は必要であるが、ジンバブエから輸入していた。現在、同国の国内情勢のためにストップしており、ブラジルからわざわざ輸入している状態であると聞いている。</li> </ul> |

|         |   |
|---------|---|
|         | <p>輸入に頼らず国内で生産するべきであるとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大豆に限らず、この地域にジンバブエから逃れた農民が多く入植し、灌漑設備等を整備した。しかし、シサノ大統領から引き継いでゲブーザ大統領が就任した際に、多くはこの国から出て行った。その際に、灌漑用のパイプ等は全て持ち去ったので灌漑されている土地は残っていない。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一番のネックとなっているのが灌漑である。近辺に川は豊富にあるが、資金が足りず水を引いてくるのが難しい。</li> <li>機械が古く、加工が非効率であるため、電動機械購入の支援を USAID に要請している。</li> </ul> |
| 7. 入手資料 |   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月12日(月) 13時～14時  |
| 2. 場所    | ベイラ市内   |
| 3. 機関名   | CPI ベイラ事務所  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Emiliano Bento Aneriso, Director of Beira CPI   |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;有望産業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>CPI から見た、ソファアラ州で有望な産業は、農産加工業(精米、小麦粉、ビール、砂糖など)、セメント(石灰含む)などである。マニカだと、木材である。</li> <li>これら以外に、新しい産業として、マンゴやトマトの加工なども振興したい。また、シモイオでは、みかんがとれるので、それも振興したい。</li> <li>以前は、UAE の会社が、ドンドからマンゴを買い、自国に輸出、加工してジュースにし、再び、こちらへ輸入していた。現在は、その会社は、ベイラ郊外に自社のプランテーションを持つようになり、マンゴの輸出のみをしている。</li> <li>さらに、以前カシューナッツの工場があったが閉鎖された。アルミニウムの加工や繊維の工場もあったが、同様に閉鎖された。</li> </ul> <p>&lt;貨物取扱量&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベイラの貨物取扱量は、ザンビアからの、グラナイトそして綿花の輸出が増えている。その他は増えていない。ベイラ港を通じた国内から海外への輸出としては、魚、えび、木材(増加)である。</li> <li>えびの養殖については、Sol e Mar という中国系の会社がベイラ郊外で養殖を行っている。</li> </ul> <p>&lt;観光&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光については、マリア川近くで、98 百万ドルの観光コンプレックスの建設プロジェクトがある。</li> </ul> <p>&lt;ソファアラ州の概況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>過去 3 年間程度、投資は減少していた、今年は増える予定である。大規模プロジェクトを除くと、年間平均投資額は、30 百万ドル程度となる。</li> <li>数少ないメガプロジェクトの影響と、多くの中小規模のプロジェクトの影響という点では、どちらが優位ということはない。2006 年には、Azucar de Mozambique という砂糖工場の投資が行われ、多くの人が利益を受けた。セナの運輸プロジェクトでも、小さな会社が沢山でき、利益を受けている。</li> <li>廉価な労働力を利用した、組み立てなどの工場の地方への投資の可能性について、独立後、工場を農村に移すという計画があった。たとえば、ザンベジア州のモクバには、繊維工場があり、グルエには、お茶の工場があった。</li> <li>その後、内戦が起こり、地方にあった工場の殆どは被害を受け、閉鎖された。多くが現在も閉鎖したままだ。しかし、戦争は、市内まで及ばなかったため、都市部にある工場は被害を受けなかった。よって、それらの工場は、民営化後、引き続き使用されているものがある。</li> <li>ベイラ市内、ドンド、ゴロンゴザ(製粉工場あり)などは視察に値すると思われる。国道 1 及び 6 号線沿いに現在、工場は集中している。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | ・2005 年、2006 年ソファアラ州への投資リスト   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月13日(火) 9時～10時   |
| 2. 場所    | ベIRA市内  |
| 3. 機関名   | Beira Provincial Agricultural and forestry Office   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Antonio Limbon, Director of provincial office   |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>このオフィスでは、林業そして畜産業を対象としている。</li> <li>ベIRAでは、さつまいもが沢山栽培されているが、以前から作付けされている。この地区は、キャッサバが少なく、さつまいもが多い。両方とも殆ど加工することなく販売されている。</li> <li>この地域で、今後振興を考えている作物は、米、マンゴー、トマト、木材である。マンゴーについては、苗を配布している。また、灌漑の仕方について指導している。米については、種を配布、トラクターを使って一部耕作されている。野菜については、保存施設が必要である。</li> </ul> <p>&lt;加工について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マンゴーなどは、品種が沢山あり、ジュースの品質の保つのが難しいため、加工技術の導入が行いにくい状況にある。</li> </ul> <p>&lt;ソファアラ州の概況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この10年間で、ソファアラ州の農業はよくなっている。自給中心の農業から、加工などにも手を伸ばせるようになってきた。今後大事なことは、農業機械化、小規模灌漑、生産から販売までのチェーンマネジメントである。</li> <li>灌漑地はベIRA市周辺に多い。ザンベジア川は、大きな余力があるが、施設が整っておらず、灌漑余力を使い切っていない状態にある。</li> <li>ソファアラ州の北部には、林業が多い。林業については、伐採について、1年間のライセンス契約と、数年間にわたるコンセッション契約がある。我々は、木材を使って、家具などをつくることを推進していきたい。ナマンガで家具がよく作られている。また、マニカ州では、FLOMAという大きな林業会社がある。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>加工技術についての支援が必要である。また、コミュニティをサポートするようなプロジェクトへの支援も重要と考える。</li> </ul> |
| 7. 収集資料  | なし。   |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月14日(水) 9時～10時   |
| 2. 場所    | ベIRA市内  |
| 3. 機関名   | Beira Provincial Industry and Commercial Office   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Gilbert Mondlane, Chief of Industry technology 他2名  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検査部が、他の部署の上に位置する。他の5部は、並列で並ぶ位置関係にある。産業部は、ライセンス供与、モニタリング、新規会社の承認など、商業部は、モニタリング、市場価格の提供などである。具体的に、モニタリングでは、工場において安全面、衛生面で問題ないかチェック、また指導する。</li> <li>また、郡部に位置する産業商業部は、現在、農業部などと合併し、経済活動部となっている。</li> </ul> <p>&lt;ソファアラ州の概況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソファアラの景気としては、産業はよくなっている。しかし、内戦後の民営化でうまくいっていないところもある。新しい企業も沢山できている。ジンバブエの不景気の影響は特に無い。物流・貿易業は、ベIRAの大事な経済の要素である。</li> <li>ポテンシャルのある産業は、砂糖、ビール、製粉などの農産加工業である。かつてあった食用油の工場は現在閉鎖している。木材については、ソファアラ北部が産地だが、植林がきち</li> </ul> |



|        |   |
|--------|---|
|        | <p>んと行われていない。また、セメントも大事な産業である。まだ生産が需要のすべてを満たしていない状況にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マンガ地区において、IFZ の計画はあったが、まだ実現していない。</li> <li>・ 市場で商売には、ベイラ市内の市場については、市が許可を発行し、州内の市場での販売の場合では、同局が発行している。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 州レベルで産業調査を実施したいが、予算がない。この調査をもとに、企業の指導に役立てたいと思っている。</li> <li>・ たとえば、トマトの加工について相談に来た人がかつて居た。しかし、我々は、基本的なデータさえ持っていないので、要望に応えることができなかった。これらのデータを整備できるような仕組みを作りたいと考えている。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | なし。   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 16 日(金) 10 時～11 時  |
| 2. 場所    | マプト市   |
| 3. 機関名   | Port Maputo Development Company (MPDC)   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Ricardo Roberts, Commercial Manager  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;港の概況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マプト・マトラ湾の取扱量は年間 600 万トン程度である。そのうち、30 万トン(5%)はジンバブエ向け、60 万トン(10%程度)は国内(マプト)向け、残りの大多数が南ア向けである。</li> <li>・ ダーバンへのフィーダー船(コンテナ貨物用)も週 2 回あるが、マプトで取り扱っている貨物の殆どはバラ積み貨物(Bulk Cargo)であり、極東アジア(例えば三井商船が乗り入れている)、欧州、米国(一つラインがあるのみ)等と直接往復している。</li> <li>・ 本港湾の競合はダーバン、リチャーズベイ(いずれも南ア)である。ベイラ等国内の港湾は意識していない。例えば、ダーバンからとマプトからのヨハネスへの距離はほぼ同じである。従って、Handling Fees の価格競争が非常に激しい状況にある。この価格は常に意識しており、セントの単位での競争となっている。</li> <li>・ ダーバンよりも港湾内の混雑が少なく、モザンビークのほうが南アよりも労働者のストライキが少ないので信頼性が高い、といったことを強みとして顧客獲得に励んでいる。</li> <li>・ 2003 年に港が民営化された際に、鉄道も同時に民営化される予定でコンセッション協定が結ばれているが、現時点でまだ国営である。政府が鉄道のアップグレード事業を実施しているが、民間よりも工事のスピード・効率が悪く、2007 年 12 月に完成する予定である。そのため、南ア向け・発の貨物は 80～90%が道路を使っている。鉄道(国境まで)は、一日 3 往復程度である。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  | ・マプト港の製品別取扱量のデータ   |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007 年 11 月 16 日(金) 13 時～14 時  |
| 2. 場所    | シモイオ市内   |
| 3. 機関名   | Manica Provincial Agricultural Office  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Felix Paulo, Deputy Director, 他 1 名  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)  |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;マニカ州の農林業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マニカ州の代表的な農産物は、とうもろこし、ひまわり、小麦、大豆、ペビーコーン、ピーマン、コーヒー、かんきつ類、綿花、タバコなどである。ピーマン、ペビーコーンは、2 年前から作付けを始めている。</li> <li>・ また、ジンバブエの会社により、ばらの栽培(温室)が行われている。コーヒーは、農家で焙煎され、主に自家消費用である。今後、小規模の工場を設置したいと考えている。</li> <li>・ 木材は、FLOMA という会社が行っている他、南アの会社も入っている。併せて、ユーカリなどの木が植林されている。</li> <li>・ 世帯あたりの平均農地面積が 1.2 ヘクタールと比較的大きいため、林業と農業を組み合わせる事業を行なうようなことはない。農家は農業に専念し、林業は企業による経営が</li> </ul> |

|        |  |
|--------|--|
|        | <p>主体である。その意味で、アグロフォレストリーの概念は特でない。また、ベンドウセという会社が、ベビーコーンを農民に作らせ、輸出している。</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民芸品という点では、テテ州に向かう途中の、BARUE という地区は比較的有名である。</li> <li>・ マニカ州の北部は、主に畜産が主体である。</li> <li>・ 貧困削減のための農業局の中心的な取り組みとしては、収入増加のための支援を行っている。具体的には、普及活動、灌漑のリハビリ、小規模加工の推進などを行っている。たとえば、ADEMA の支援により、バナナを加工し、ジュースやジャムを作る準備をしている。</li> <li>・ シモイオ近辺では、多くの NGO 活動している。</li> </ul> <p>&lt;支援の可能性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農民の収入向上のためのプロジェクトが必要である。その他、適正技術の導入、人材育成、クレジットのサポートなどが必要である。</li> </ul> |
| 7.収集資料 | ・マニカ州農産物生産量データ。  |

|          |   |
|----------|---|
| 1. 日時    | 2007年11月16日(金) 14時～15時  |
| 2. 場所    | シモイオ市内  |
| 3. 機関名   | Manica Provincial Industrial and Commercial Office  |
| 4. 先方対応者 | Mr. Antonio Ruis Machamele, Director of Industry Office, 他1名  |
| 5. 当方出席者 | 青木、スエナガ(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;マニカ州における産業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本には、橋や道路の補修など目に見える支援をマニカ州で行ってもらっており感謝している。マニカ州の主な産業は農業である。このため、農産加工が必要である。</li> <li>・ 現在、12の穀物トレーダー、180の小規模商人、300の店舗が登録されている。また、農村部では、1000箇所において、製粉や搾油などの小規模機械がある。また、中小企業は60社ある。</li> <li>・ DECA(Agricultural Development and Commercial)という基金があり、農業の生産及び販売で大きなサポートしている。農民は、今までとうもろこしが売れ残り、腐らせていたが、現在 DECA が買い取ってくれるので、積極的に生産している。</li> <li>・ また、チーズ工場(Goda Gold Ltd.)という会社もある。ザンビア、南ア、ジンバブエに輸出している。また、今まで閉鎖していた繊維工場が最近稼動するようになった。糸から生地を作っている。その他、VUMBA を含め2社のミネラル水を作る工場もある。</li> </ul> <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ DECA は、コンゴ籍の鉱物資源会社(主に、銅鉱、コバルト鉱採掘、オペレーション本社は、ロンドン)で、その一部門が、DECA(Desenvolvemementa E Commercializacao Agricola、農業開発商業化の略)なるものを2005年からマニカ州で運営しているよう。とうもろこしを買取り、現地の製粉工場加工、国内販売もしくは輸出を行っている(サイロのキャパシティは、1.6万トン)。</li> <li>・ すでにこの会社は、テテ州では、石炭採掘、ガザ州でサトウキビよりバイオエタノールの生産をしているようで、マニカで活動は、今後のバイオ燃料の確保をねらった活動のように思われる。<br/>DECA の HP: <a href="http://www.camec-plc.com/activities/agriculture.php">http://www.camec-plc.com/activities/agriculture.php</a></li> </ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産業商業局で働いている人数は40名である。</li> <li>・ 産業貿易省が推進している小規模加工の UTPIR のアイデアは、ここでも推進している。</li> <li>・ 現在、3000人の小規模店舗があるが、いわゆる掘っ立て小屋のようなものであり、店のインフラなどが脆弱である。したがって、小規模店舗のための施設といった点での支援が必要である。</li> <li>・ また UTPIR への支援も必要である。加工機械の購入や、加工方法への支援が欲しい。地方での電気の問題についても今後解決していく必要がある。</li> </ul> |
| 7.収集資料   | ・マニカ州工業生産データ、輸出入データ。  |

|          |  |
|----------|--|
| 1. 日時    | 2007年11月16日(金) 14時～14時30分  |
| 2. 場所    | マプト市   |
| 3. 機関名   | Fishing Promotion Fund   |
| 4. 先方対応者 | Mr. Abraao Pira-Bau, Administrator(機関の Director に次ぐポジション)  |
| 5. 当方出席者 | 今井、Joaquim(通訳)   |
| 6. 面談内容  | <p>&lt;組織概要&gt;</p> <p>FFP は、1988年に設立された漁業省の管轄下にある基金を取り扱う機関である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小規模漁師のために、ポート及び保冷倉庫を有償で貸し付けている。(FFP が戦略的に貸付対象地域を特定し、その中で対象となる漁業組合等を FFP がアプローチする)その他にエンジン、漁網に対する貸付も実施しているが、これに関しては漁師が要請したものを審査して対象者を決定している。</li> <li>・ 貸付額は融資の対象となっている案件によるが、満期は1～5年間で年率16%となっている。</li> <li>・ 漁業省の管轄下にIDPPE (Small Scale Fishing Development Institute)という機関もあり、小規模漁業の開発を担っている。IDPPR の主な業務は、漁業関連・漁師に対する社会・経済サーベイ、モニタリング等である。</li> </ul> |
| 7. 入手資料  |  |

## 2. 収集資料リスト

- 1 Commercial Code (ポルトガル語)
- 2 Fiscal Legislation (ポルトガル語)
- 3 Value Added Tax Code (ポルトガル語)
- 4 Ebiz guide Mozambique
- 5 Labour Law (ポルトガル語)
- 6 Statistical Yearbook 1998, 2001, 2004, 2005, 2006
- 7 Inquerito Integrado a Forssa de Trabalho 2004/2005 (ポルトガル語)
- 8 Censo de Empresas 2002 (CD-ROM、ポルトガル語)
- 9 Draft UNIDO Programme Summary Matrix 2007-2009
- 10 FFPI Briefing、Organization Chart
- 11 Budget 2007、MIC Operation Cost per Sector、
- 12 Summary of Budget for MSME Strategy Implementation
- 13 The World Bank Group in Mozambique
- 14 Mozambique Country Partnership Strategy
- 15 Strategy for Employment and Professional Formation in Mozambique 2006-2015 (ポルトガル語)
- 16 INEFP 2007 年カリキュラム (ポルトガル語)
- 17 IPEX Brochure, Export Statistics 2006
- 18 The Malonda Program of Niassa, Mozambique – A Private Sector Development Initiative Review of Its First Implementation Phase
- 19 Draft Business Plan for CTA
- 20 Mozambique's Status of Loans as at 30 September – Ongoing
- 21 Chamber of Commerce Brochure
- 22 Rovuma Micro Credito Brochure (ポルトガル語)
- 23 Strategic Plan for the Development of Nampula Province 2003-2007 (CD-ROM)
- 24 Local Economic Development Strategy (ポルトガル語)
- 25 CPI Nampula Province Presentation (ポルトガル語)
- 26 Mozambique in Motion (CD-ROM)
- 27 Factor of Mozambique (ポルトガル語)
- 28 ACIANA Brochure
- 29 Sonil Ltd. Company Presentation (CD-ROM)
- 30 Exporters' Directory 2002, IPEX Central Region
- 31 Ferneto Lda., Beira 製品パンフレット
- 32 Trade Policy and Strategy
- 33 Trade Strategy of Agricultural Products 2006-2009 (ポルトガル語)
- 34 Cost of Factors in Mozambique
- 35 Mozambique Mozaik (CD-ROM)
- 36 MIC Magazine (ポルトガル語)
- 37 Investir Magazine

- 38 Mozambique SME Initiative (MSI) Program Presentation
- 39 SME Entrepreneurship Development Initiative (SME EDI) Brochure
- 40 GAPI Brochure (ポルトガル語)
- 41 Government Gazette May 30, 2007 (ポルトガル語)
- 42 Industrial Policy and Strategy
- 43 Strategy for Small and Medium Enterprise Development
- 44 CADI Company Work Profile
- 45 Tourism Policy and Implementation Strategy
- 46 Strategic Plan for Development of Tourism in Mozambique 2004-2013
- 47 Swiss Development Cooperation with Mozambique
- 48 Tchuma Credit and Savings Cooperative SCRL 融資申請書 (ポルトガル語)
- 49 MICTI Brochure
- 50 農産物育成戦略: Estrategia da Comercialização Agrícola para 2006-2009
- 51 Trade Policy and Strategy, MICT, April 1999
- 52 CPIパンフレット「Facts about Mozambique」(コピー)
- 53 2006年投資に関するレポート(抜粋コピー)
- 54 Techno Serve Annual Report 2006
- 55 産業セクターの企業数の地域別データ(産業貿易省)
- 56 地域別重点産業一覧(産業貿易省)
- 57 Matanuska 社バナナ事業に関するパワーポイント資料
- 58 Mining Law Regulations Decree No.28/2003 of June 17」(鉱業資源省ナンブラ州本部:コピー)
- 59 Strategic Plan for the Development of Nampula Province 2003-2007
- 60 ベイラ港湾の取扱品目に関するデータ(Cornelder de Mocambique s.a.r.l.)
- 61 マプト港の製品別取扱量のデータ(Port Maputo Development Company (MPDC))
- 62 Mozambique SME Initiative (MSI) (IFC 2007年11月19日プレゼンテーション資料コピー)
- 63 Pr ovincia de Nampula, Plano de desenvolvimento do Turismo, Plano de accoes 2008-2013, Alain Laurent, BEIRA CFP (ポルトガル語)
- 64 Direccano Nacional de Geologia, Ministerio dos Recursos Minerais (ポルトガル語)
- 65 Introduction pamphlet of Ministry, Ministry of Fisheries (英語)
- 66 Geochemical Survey in Mozambique, Direccao Nacioanla de Geologia (ポルトガル語)
- 67 Master Plan, Ministry of Fishery (英語)
- 68 Mineral Resources Management Capacity Building project- Pamphlet, Ministry of Mineral Resources and Energy (英語)
- 69 Strategic Plan for the Development of Tourism in Mozambique 2004-2013, Ministry of Tourism (英語)
- 70 Tourism Policy and Implementation Strategy, Ministry of Tourism (英語)
- 71 Promovendo o desenvolvimento de Mozambique desde 1991 DVD video, NGO OIKOS (ポルトガル語)
- 72 Estrategia da Comercializacao Agricola para 2006-2009, Conselho de Ministros (ポルトガル語)
- 73 州別業種別会社数データ2004-2005、ポルトガル語、モザンビーク国家統計局
- 74 UNIDO Programme Summary Matrix 2007-2009, UNIDO Mozambique office (英語)
- 75 Entidades Titulares da Marca “Orgulho Mocambicano. Made in Mozambique (39社 Made in Mozambique 認証済み企業リスト)(ポルトガル語)

- 76 Maputo Province Strategic Development Plan 2004-2013 (電子ファイル)(ポルトガル語)
- 77 Manica Province Strategic Development Plan (電子ファイル)2007-2011(ポルトガル語)
- 78 州別灌漑農地面積 農業省灌漑局 (ポルトガル語)
- 79 マプト市 商業産業部組織図 (ポルトガル語)
- 80 ソファアラ州投資案件リスト 2005-2006、ソファアラ州 CPI 事務所
- 81 マニカ州農産物生産量データ、2006 年、マニカ州農業局
- 82 マニカ州工業生産データ、輸出入データ、2006 年、マニカ州産業商業局
- 83 ナンプラ州 統計年報 (電子ファイル) 2004 年 (ポルトガル語)
- 84 南アフリカ共和国進出日系企業リスト (JETRO)
- 85 南部アフリカ情報(新聞記事の抜粋:JETRO)

**(以下 JICA モザンビーク事務所保管)**

- 1 National Development Plan 2005-2009 (ポルトガル語)
- 2 Strategic Plan for the Artisanal Fisheries Sub-Sector (PESPA) April 2007, Ministry of Fishery (英語)
- 3 マプト市 統計年報 2005 年 (ポルトガル語)
- 4 マプト州 統計年報 2004 年 (ポルトガル語)
- 5 ニアッサ州 統計年報 2004 年 (ポルトガル語)
- 6 ソファアラ州統計年報 2004 年 (ポルトガル語)
- 7 マニカ州統計年報 2004 年 (ポルトガル語)
- 8 モザンビーク統計年報 2006 年 (ポルトガル語)(英語併記有)
- 9 モザンビーク埋蔵調査レポート 2005 年、世界銀行